

# 教 育 課 程

平成 29 年度

学校法人 葵会学園

岡山・建部医療福祉専門学校

学籍番号

氏 名



## 【目次】

I 教育理念	1
II 教育目的・目標	2
1. 教育目的	2
2. 教育目標	2
3. 看護の主要概念	3
4. 学年別目標	4
III 学科進捗表	5～7
IV 教育課程概要	9
1. 教育課程とは	9
2. 教育課程の構成	9
V 教科課程シラバス（臨地実習を除く）	19～105

## 【 V 育課程シラバス 目次 】

### ● 基礎分野

看護物理学	21
統計学	22
情報科学	23
生命倫理学	24
教育学	25
医療英語 I	26
医療英語 II	27
社会学	28
人間関係論	29
論理学	30
心理学	31
死生学	32
保健体育	33

### ● 専門基礎分野

解剖生理学 I (人体構造・生理学・栄養と吸収・呼吸と血液)	37
解剖生理学 II (血液と循環の調整・体液調整・内臓機能の調整)	38
解剖生理学 III (体の支持と運動・外部環境からの防御・生殖・発生と成長・老化の仕組み)	39
解剖生理学 IV (神経系・感覚器・体表から見た人体構造)	40
生化学	41
栄養学	42
薬理学	43
病理学	44
微生物学	45
病態生理学 I (概論・皮膚・免疫・体温)	46
病態生理学 II (体液・血液)	47
病態生理学 III (循環・呼吸)	48
病態生理学 IV (消化器・腎・泌尿器)	49
病態生理学 V (内分泌・代謝・生殖器)	50
病態生理学 VI (脳・神経・筋・感覚器)	51
リハビリテーション論	52
総合医療論	53
医療経済論	54
看護関連法令	55
社会保障	56
公衆衛生学	57

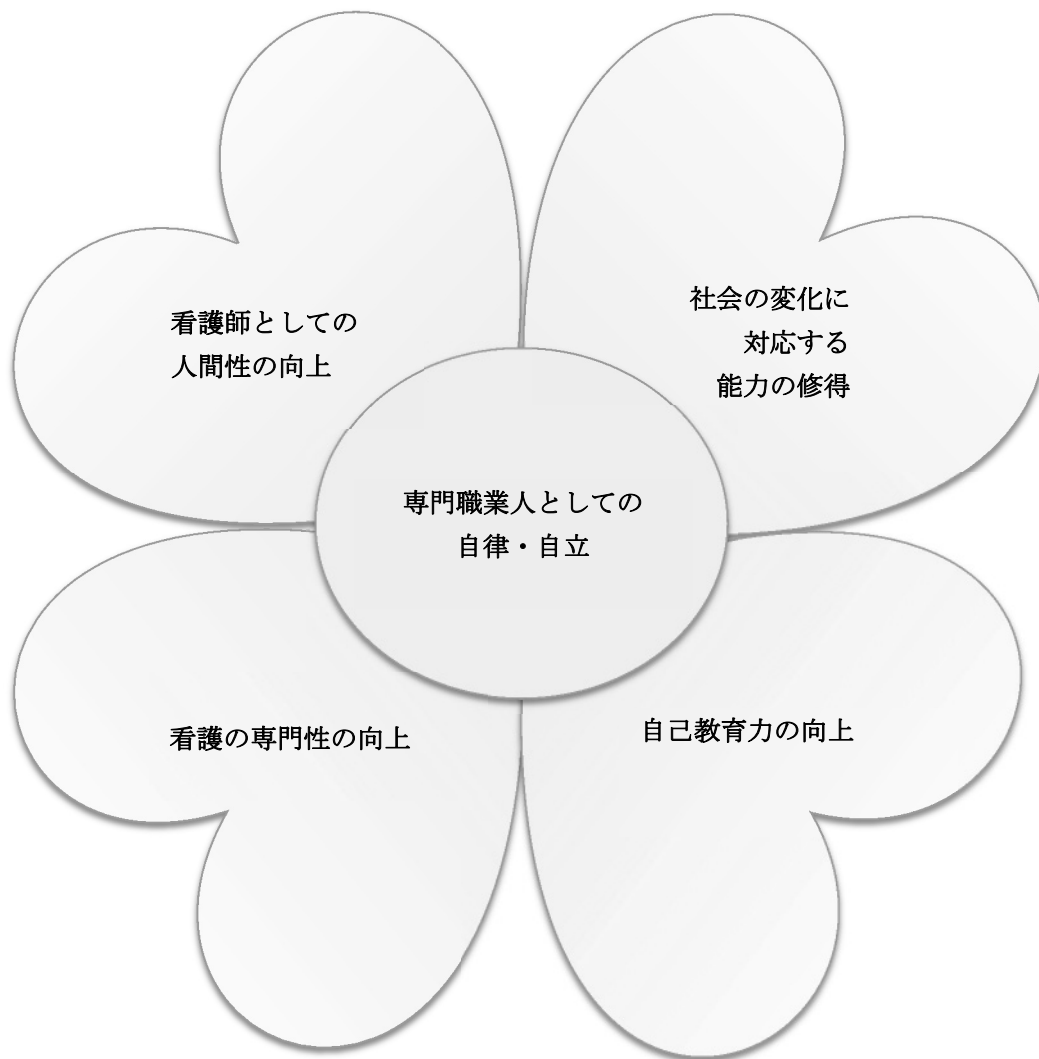
● 専門分野 I	
看護学概論	61
看護理論	62
基礎看護学援助論 I (対人関係成立の技術)	63
基礎看護学援助論 II (療養環境に関する技術)	64
基礎看護学援助論 III (安楽・活動と休息に関する技術)	65
基礎看護学援助論 IV (清潔・栄養・排泄に関する技術)	66
基礎看護学援助論 V (観察技術 (フィンガアセスメント))	67
基礎看護学援助論 VI (検査・与薬に関する技術)	68
基礎看護学援助論 VII (看護過程)	69
基礎看護学援助論 演習	70
● 専門分野 II	
成人看護学概論 (看護の対象と目的)	73
成人看護学援助論 I (生活行動に障害のある患者の看護)	74
成人看護学援助論 II (周手術期にある患者の看護)	75
成人看護学援助論 III (緩和ケアを必要とする患者の看護)	76
成人看護学援助論 IV (生命の危機状態にある患者の看護)	77
成人看護学援助論 V (生涯にわたり健康コントロールを必要とする対象者の看護)	78
老年看護学概論 (看護の対象と目的)	79
老年看護学援助論 I (老年期の日常生活援助)	80
老年看護学援助論 II (老年期の健康障害時の看護)	81
老年看護学援助論 III (老年期の健康障害時の援助技術 (看護過程))	82
小児看護学概論 (看護の対象と目的)	83
小児看護学援助論 I (小児の療養環境と看護)	84
小児看護学援助論 II (小児の主な疾患と看護)	85
小児看護学援助論 III (疾患・障害を持つ小児と家族の援助技術 (看護過程))	86
母性看護学概論 (看護の対象と目的)	87
母性看護学援助論 I (妊産褥婦・新生児の生理機能)	88
母性看護学援助論 II (妊産褥婦の看護と周産期にあるハイリスクの看護)	89
母性看護学援助論 III (妊産褥婦・新生児の援助技術 (看護過程))	90
精神看護学概論 (看護の対象と目的)	91
精神看護学援助論 I (精神疾患の理解と治療)	92
精神看護学援助論 II (精神看護の実際とその倫理)	93
精神看護学援助論 III (精神障害のある患者の援助技術 (看護過程他))	94

● 統合分野

在宅看護概論（看護の対象と目的）	97
在宅看護援助論Ⅰ（在宅療養者に関連する制度と展開）	98
在宅看護援助論Ⅱ（在宅における日常生活援助技術と援助）	99
在宅看護援助論Ⅲ（在宅援助技術（看護過程））	100
医療安全論	101
看護管理	102
災害・国際看護学	103
看護研究	104
統合看護演習	105

## I 教育理念

葵会グループの「治す」と「防ぐ」を高いレベルで両立し、健康な人生をトータルにケアしていく医療をめざす」の理念のもとに、人間の尊厳と権利を守り、あらゆる健康レベルにある人々に対して、真摯な態度で看護を提供できる人材を育成する。



## II 教育目的・目標

### 1. 教育目的

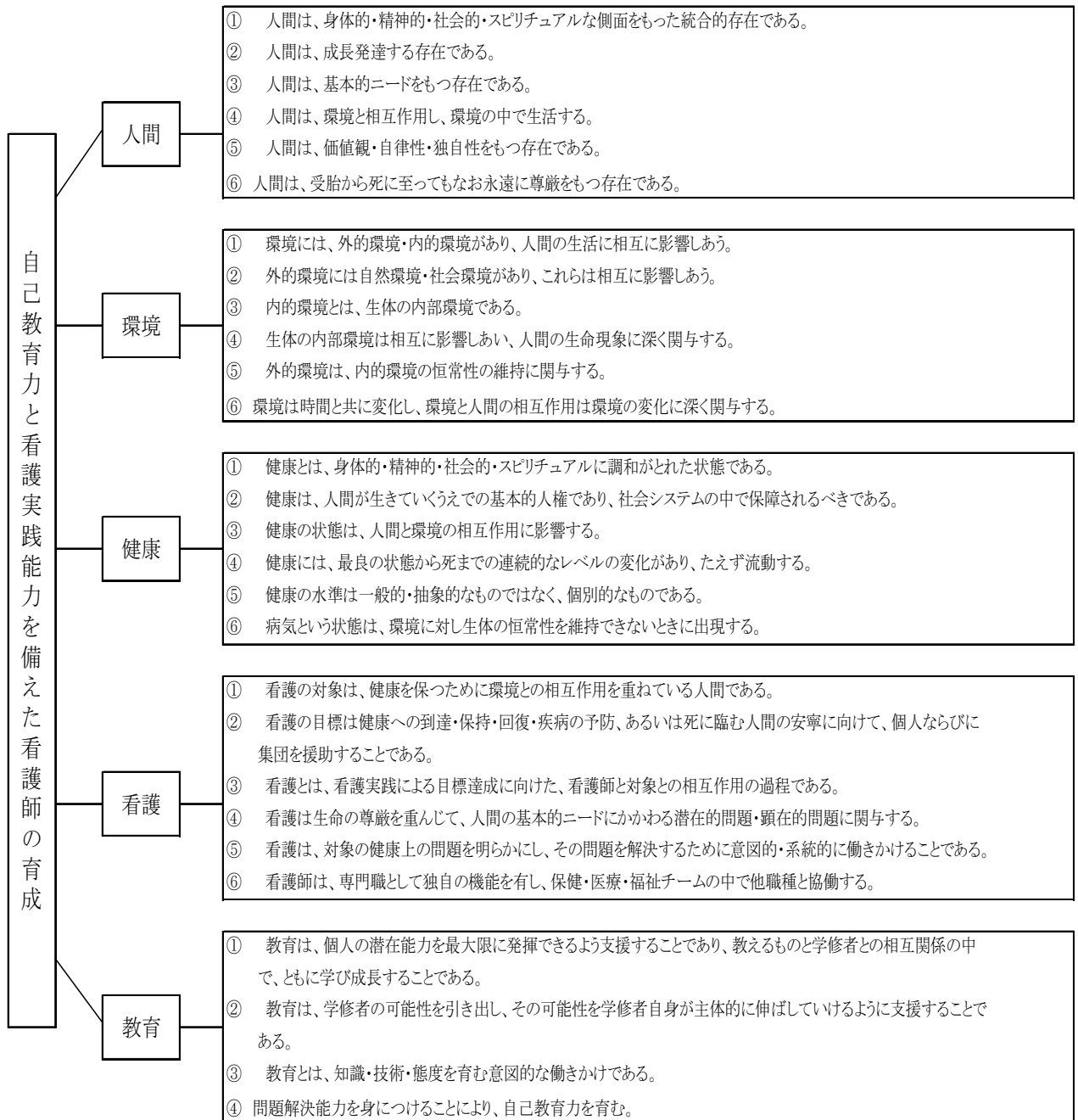
看護に必要な知識・技術・態度を修得し、豊かな感性と自己教育力を養い、保健医療福祉の向上と国際社会および地域社会で貢献できる有能な看護師を育成する。

### 2. 教育目標

- 1) 生命の尊厳と人権・人格を尊重する倫理観を有し、思いやりのある自立性の高い人間を育成する。
- 2) 人間を取り巻く環境の変化に対応しながら、看護の対象を身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面をもつ統合された存在として理解する力を養う。
- 3) 看護の視座に立ち、人間の健康問題に対する判断力と実践力を養う。
- 4) 看護職としての役割と責任を認識し、保健医療福祉チームにおいて協働・連携できる能力を養う。
- 5) 専門職業人として生涯にわたって看護を探究し、自己教育力を養う。



### 3. 看護の主要概念



#### 4. 学年別目標

##### 1 年次

- 1) 他者に関心をもち、積極的にコミュニケーションがとれる。
- 2) 健康の概念および看護の概念が理解でき、看護に必要な基本的知識が理解できる。
- 3) 主体的な学習習慣を確立できる。
- 4) 教科外活動・集団生活を通して、協調性・自立性・人間性を養う。

##### 2 年次

- 1) 自己を理解するとともに、他者に対する配慮、気配りができる。
- 2) 対象の顕在的・潜在的健康問題を診断し、健康課題に応じた看護過程の展開ができる。
- 3) 基礎看護技術を対象の状態・状況合わせて安全・安楽に実施できる。
- 4) 問題意識をもって積極的に課題に取り組むことができる。
- 5) 看護を学ぶ者として責任ある行動がとれる。

##### 3 年次

- 1) 習得した看護技術を対象者の基本的ニーズ充足のために活用できる。
- 2) 個人の尊重を基盤に人間関係を築き、維持・発展していくことができる。
- 3) 対象者のライフサイクルや、健康レベルに応じた看護が実践できる。
- 4) 対象者の個別性に応じた看護過程が展開できる。
- 5) 保健・医療・福祉チームにおける他職種との連携・調整・協働の必要性を認識し、看護の役割と責任が理解できる。
- 6) 理論と実践の統合をはかり、自己の看護観を確立できる。
- 7) 自分自身の行動に対する評価が適切に行え、自己の課題を明確にし、主体的行動ができる。

##### 卒業時

1. 豊かな人間性を備え、思いやりをもって行動できる。
  - 1) 多様な価値観をもつ他者に関心をもち、積極的に関わろうとする姿勢がある。
  - 2) お互いに相手を大切にし、協力し助け合う姿勢がもてる。
  - 3) 人間を尊重し、すべての人と良好な人間関係を築くことができる。
2. 専門職業人として生命の尊厳と人権を擁護する行動がとれる。
  - 1) 自己及び他者のあらゆる生命を尊ぶ姿勢がもてる。
  - 2) 看護師として生命の尊厳を守るため、生命の安全を第一とした選択ができる。
  - 3) 看護師として対象の人権を考えた倫理的行動がとれる。
3. 地域社会や他職種に関心をもち、保健・医療・福祉チームの一員として貢献できる。
  - 1) 看護専門職として地域活動に積極的に参加し、社会的活動ができる。
  - 2) 国際社会や保健・医療・福祉の動向に関心をもち、広い視野で物事を見据えた行動ができる。
4. 自律して看護実践できる。
  - 1) 問題解決能力を備え、専門職業人として対象に応じた判断ができ、看護実践ができる。
  - 2) 自分の行動を適切に評価し、改善するために誠実に行動できる。
  - 3) 変化する社会に対応するために自己研鑽する姿勢がもてる。

2期生 学科進度表

教育課程	授業科目	単位数	時数	教員名	1年次		2年次		3年次		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎分野	科学的思考の基盤	看護物理学	1	15		15					
		統計学	1	30			30				
		情報科学	1	30			30				
		生命倫理学	1	30				30			
		教育学	1	15		15					
		医療英語Ⅰ	1	30		30					
		医療英語Ⅱ	1	30			30				
	人間と生活・社会の理解	社会学	1	15			15				
		人間関係論	1	30			30				
		論理学	1	30			30				
		心理学	1	30		30					
		死生学	1	30						30	
		保健体育	1	30		30					
基礎分野 小計		13	345	0	120	165	0	30	30	0	
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ 人体構造・生理学・栄養と吸収・呼吸と血液	1	30		30					
		解剖生理学Ⅱ 血液と循環の調整・体液調整・内臓機能の調整	1	30		30					
		解剖生理学Ⅲ 体の支持と運動・外部環境からの防御・生殖・発生と成長・老化の仕組み	1	30		30					
		解剖生理学Ⅳ 神経系・感覚器・体表から見た人体構造	1	30		30					
		生化学	1	15		15					
		栄養学	1	15		15					
		薬理学	1	30		30					
		病理学	1	30		30					
		微生物学	1	30		30					
	疾病の成り立ちと回復の促進	病態生理学Ⅰ 概論・皮膚・免疫	1	30		30					
		病態生理学Ⅱ 体液・血液	1	30		30					
		病態生理学Ⅲ 循環・呼吸	1	30		30					
		病態生理学Ⅳ 消化器・腎・泌尿器	1	30		30					
		病態生理学Ⅴ 内分泌・代謝・生殖器	1	30		30					
		病態生理学Ⅵ 脳・神経・筋・感覚器	1	30		30					
	健康支援と社会保険制度	リハビリテーション論	1	30			30				
		総合医療論	1	15		15					
		医療経済論	1	15		15					
		看護関連法令	1	15				15			
		社会保険	1	15		15					
		公衆衛生学	1	30				30			
	専門基礎分野 小計		21	540	0	195	270	30	45	0	0
	専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	1	30		30				
		看護理論	1	30		30					
		基礎看護学援助論Ⅰ 対人関係成立の技術	1	30		30					
		基礎看護学援助論Ⅱ 療養環境に関する技術	1	30		30					
		基礎看護学援助論Ⅲ 安楽・活動と休息に関する技術	1	30		30					
		基礎看護学援助論Ⅳ 清潔・栄養・排泄に関する技術	1	30		30					
		基礎看護学援助論Ⅴ 観察技術(フィジカルアセスメント)	1	30		30					
		基礎看護学援助論Ⅵ 検査・与薬に関する技術	1	30		30					
		基礎看護学援助論Ⅶ 看護過程	1	30			30				
		基礎看護学援助論Ⅷ 看護過程	1	30			30				
		基礎看護学援助論Ⅷ 看護過程	1	30			30				
		専門分野Ⅰ学内 小計	10	300	0	150	90	60	0	0	0
臨地実習		基礎看護学実習Ⅰ	1	45		45					
	基礎看護学実習Ⅱ	2	90					90			
	専門分野Ⅰ臨地実習 小計	3	135	0	0	45	0	90	0	0	
専門分野Ⅰ 小計		13	435	0	150	135	60	90	0	0	
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論 看護の対象と目的	1	30		30					
		成人看護学援助論Ⅰ 生活行動に障害のある患者の看護	1	30		30		30			
		成人看護学援助論Ⅱ 周手術期にある患者の看護	1	30		30		30			
		成人看護学援助論Ⅲ 緩和ケアを必要とする患者の看護	1	30		30			30		
		成人看護学援助論Ⅳ 生命の危機的状態にある患者の看護	1	30		30			30		
		成人看護学援助論Ⅴ 生涯にわたり健康コントロールを必要とする対象者の看護	1	30		30			30		
		小計	6	180	0	0	30	90	60	0	0
	老年看護学	老年看護学概論 看護の対象と目的	1	30		30					
		老年看護学援助論Ⅰ 老年期の日常生活援助	1	30		30			30		
		老年看護学援助論Ⅱ 老年期の健康障害時の看護	1	30		30			30		
		老年看護学援助論Ⅲ 老年期の健康障害時の援助技術(看護過程)	1	15					15		
		小計	4	105	0	0	30	60	15	0	0
	小児看護学	小児看護学概論 看護の対象と目的	1	30		30					
	小児看護学援助論Ⅰ 小児の療養環境と看護	1	30		30			30			
	小児看護学援助論Ⅱ 小児の主な疾患と看護	1	30		30			30			
	小児看護学援助論Ⅲ 疾患・障害を持つ小児と家族の援助技術(看護過程)	1	15					15			
	小計	4	105	0	0	30	60	15	0	0	
母性看護学	母性看護学概論 看護の対象と目的	1	30		30						
	母性看護学援助論Ⅰ 妊娠・分娩・新生児の生理機能	1	30		30			30			
	母性看護学援助論Ⅱ 妊娠・分娩の看護と周産期にあるハイリスクの看護	1	30		30			30			
	母性看護学援助論Ⅲ 妊娠・分娩・新生児の援助技術(看護過程)	1	15					15			
	小計	4	105	0	0	0	90	15	0	0	
精神看護学	精神看護学概論 看護の対象と目的	1	15		15						
	精神看護学援助論Ⅰ 精神疾患の理論と治療	1	30		30			30			
	精神看護学援助論Ⅱ 精神看護の実際とその倫理	1	30		30			30			
	精神看護学援助論Ⅲ 精神障害のある患者の援助技術(看護過程他)	1	15					15			
	小計	4	90	0	0	0	75	15	0	0	
臨地実習	成人看護学実習Ⅰ	2	90					90			
	成人看護学実習Ⅱ	2	90					90			
	成人看護学実習Ⅲ	2	90					90			
	老年看護学実習Ⅰ	2	90					90			
	老年看護学実習Ⅱ	2	90					90			
	小児看護学実習(保育園実習30時間含む)	2	90					90			
	母性看護学実習	2	90					90			
	精神看護学実習	2	90					90			
	専門分野Ⅱ臨地実習小計	16	720	0	0	0	0	180	540	0	
専門分野Ⅱ 小計		38	1305	0	0	90	375	300	540	0	
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論 看護の対象と目的	1	30		30					
		在宅看護論Ⅰ 在宅療養者関連する制度と展開	1	15		15					
		在宅看護論Ⅱ 在宅における日常生活援助技術と実際	1	30		30			30		
		在宅看護論Ⅲ 在宅援助技術(看護過程)	1	15					15		
		小計	4	90		0	0	45	30	15	0
	看護の統合と実践	医療安全論	1	30		30					
		看護管理	1	30		30					
		災害・国際看護学	1	30		30					
		看護研究	1	30		30					
		統合看護演習	1	30		30					
		小計	5	150	0	0	0	0	90	60	0
	臨地実習	在宅看護論実習	2	90					90		
		統合実習	2	90					90		
	統合分野 臨地実習 小計	4	180		0	0	0	0	180		
統合分野 小計		13	420	0	0	0	45	120	75	180	
総計		98	3045		465	660	510	585	645	180	
総計		各学年総時間数			1125		1095		825		

98単位内訳(座学 75科目75単位、臨地実習 12実習23単位)  
 1年次41単位:内訳(座学 40科目40単位、臨地実習 1実習1単位)  
 2年次37単位:内訳(座学 31科目31単位、臨地実習 3実習6単位)  
 3年次20単位:内訳(座学 4科目 4単位、臨地実習 7実習14単位)

3期生 学科進捗表

教育課程	授業科目	単位数	時間数	教員名	1年次		2年次		3年次		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎分野	科学的思考の基礎	看護物理学	1	15	15						
		統計学	1	30		30					
		情報科学	1	30		30					
		生命倫理学	1	30				30			
		教育学	1	15		15					
		医療英語Ⅰ	1	30	30						
		医療英語Ⅱ	1	30		30					
	人間と生活・社会の理解	社会学	1	15		15					
		人間関係論	1	30		30					
		論理学	1	30		30					
		心理学	1	30	30						
		死生学	1	30						30	
		保健体育	1	30	30						
	基礎分野 小計		13	345	0	105	180	0	30	30	0
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ 人体構造・生理学・栄養と吸収・呼吸と血液	1	30		30					
		解剖生理学Ⅱ 血液と循環の調整・体液調整・内臓機能の調整	1	30		30					
		解剖生理学Ⅲ 体の支持と運動・外部環境からの防御・生殖・発生と成長・老化の仕組み	1	30		30					
		解剖生理学Ⅳ 神経系・感覚器・体表から見た人体構造	1	30		30					
		生化学	1	15	15						
		栄養学	1	15	15						
		薬理学	1	30		30					
		病理学	1	30		30					
		微生物学	1	30	30						
	疾病の成り立ちと回復の促進	病態生理学Ⅰ 概論・皮膚・免疫	1	30	30						
		病態生理学Ⅱ 体液・血液	1	30		30					
		病態生理学Ⅲ 循環・呼吸	1	30		30					
		病態生理学Ⅳ 消化器・腎・泌尿器	1	30		30					
		病態生理学Ⅴ 内分泌・代謝・生殖器	1	30		30					
		病態生理学Ⅵ 脳・神経・筋・感覚器	1	30		30					
	健康支援と社会保険制度	リハビリテーション論	1	30			30				
		総合医療論	1	15			15				
		医療経済論	1	15		15					
		看護関連法令	1	15				15			
		社会保険	1	15		15					
		公衆衛生学	1	30					30		
専門基礎分野 小計		21	540	0	180	270	45	45	0	0	
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	1	30		30					
		看護理論	1	30		30					
		基礎看護学援助論Ⅰ 対人関係成立の技術	1	30		30					
		基礎看護学援助論Ⅱ 療養環境に関する技術	1	30		30					
		基礎看護学援助論Ⅲ 安楽・活動と休息に関する技術	1	30		30					
		基礎看護学援助論Ⅳ 清潔・栄養・排泄に関する技術	1	30		30					
		基礎看護学援助論Ⅴ 観察技術(フィジカルアセスメント)	1	30		30					
		基礎看護学援助論Ⅵ 検査・与薬に関する技術	1	30		30					
		基礎看護学援助論Ⅶ 看護過程	1	30		30					
		基礎看護学援助論演習	1	30			30				
		専門分野Ⅰ学内 小計	10	300	0	150	120	30	0	0	0
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	45				90		
		基礎看護学実習Ⅱ	2	90					90		
		専門分野Ⅰ臨地実習 小計	3	135	0	45	0	0	90	0	0
専門分野Ⅰ 小計		13	435	0	195	120	30	90	0	0	
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論 看護の対象と目的	1	30		30					
		成人看護学援助論Ⅰ 生活行動に障害のある患者の看護	1	30		30		30			
		成人看護学援助論Ⅱ 手術期にある患者の看護	1	30		30		30			
		成人看護学援助論Ⅲ 緩和ケアを必要とする患者の看護	1	30		30		30			
		成人看護学援助論Ⅳ 生命の危機的状態にある患者の看護	1	30		30		30			
		成人看護学援助論Ⅴ 生涯にわたり健康コントロールを必要とする対象者の看護	1	30		30		30			
		小計	6	180	0	0	30	90	60	0	0
	老年看護学	老年看護学概論 看護の対象と目的	1	30		30					
		老年看護学援助論Ⅰ 老年期の日常生活援助	1	30		30					
		老年看護学援助論Ⅱ 老年期の健康障害時の看護	1	30		30					
		老年看護学援助論Ⅲ 老年期の健康障害時の援助技術(看護過程)	1	15				15			
		小計	4	105	0	0	30	60	15	0	0
	小児看護学	小児看護学概論 看護の対象と目的	1	30		30					
		小児看護学援助論Ⅰ 小児の療養環境と看護	1	30		30		30			
		小児看護学援助論Ⅱ 小児の主な疾患と看護	1	30		30		30			
		小児看護学援助論Ⅲ 疾患・障害を持つ小児と家族の援助技術(看護過程)	1	15				15			
		小計	4	105	0	0	30	60	15	0	0
	母性看護学	母性看護学概論 看護の対象と目的	1	30		30					
		母性看護学援助論Ⅰ 妊産婦・新生児の生理機能	1	30		30		30			
		母性看護学援助論Ⅱ 妊産婦の看護と周産期にあるハイリスクの看護	1	30		30		30			
		母性看護学援助論Ⅲ 妊産婦・新生児の援助技術(看護過程)	1	15				15			
		小計	4	105	0	0	0	90	15	0	0
	精神看護学	精神看護学概論 看護の対象と目的	1	15		15					
		精神看護学援助論Ⅰ 精神疾患の理解と治療	1	30		30		30			
	精神看護学援助論Ⅱ 精神看護の実際とその倫理	1	30		30		30				
	精神看護学援助論Ⅲ 精神障害のある患者の援助技術(看護過程他)	1	15				15				
	小計	4	90	0	0	15	60	15	0	0	
臨地実習	成人看護学実習Ⅰ	2	90					90			
	成人看護学実習Ⅱ	2	90					90			
	成人看護学実習Ⅲ	2	90					90			
	老年看護学実習Ⅰ	2	90					90			
	老年看護学実習Ⅱ	2	90					90			
	小児看護学実習(保育園実習30時間含む)	2	90					90			
	母性看護学実習	2	90					90			
	精神看護学実習	2	90					90			
	専門分野Ⅱ臨地実習小計	16	720	0	0	0	0	180	540	0	
専門分野Ⅱ 小計		38	1305	0	0	90	360	300	540	0	
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論 看護の対象と目的	1	30		30					
		在宅看護論Ⅰ 在宅療養者関連する制度と展開	1	15			15				
		在宅看護論Ⅱ 在宅における日常生活援助技術と実際	1	30		30		30			
		在宅看護論Ⅲ 在宅援助技術(看護過程)	1	15				15			
		小計	4	90	0	0	45	30	15	0	
	看護の統合と実践	医療安全論	1	30				30			
		看護管理	1	30					30		
		災害・国際看護学	1	30					30		
		看護研究	1	30					30		
		統合看護演習	1	30					30		
	小計	5	150	0	0	0	0	90	60	0	
臨地実習	在宅看護論実習	2	90						90		
	統合実習	2	90						90		
	統合分野 臨地実習 小計	4	180						180		
統合分野 小計		13	420	0	0	0	45	120	75	180	
総計		98	3045		480	675	480	585	645	180	
総計		各学年総時間数			1155		1065		825		

98単位内訳(座学 75科目75単位、臨地実習 12実習23単位)  
 1年次42単位:内訳(座学 41科目41単位、臨地実習 1実習1単位)  
 2年次36単位:内訳(座学 30科目30単位、臨地実習 3実習6単位)  
 3年次20単位:内訳(座学 4科目4単位、臨地実習 8実習16単位)

4期生 学科進度表

教育課程	授業科目	単位数	時間数	教員名	1年次		2年次		3年次		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎分野	科学的思考の基礎	看護物理学	1	15		15					
		統計学	1	30		30					
		情報科学	1	30		30					
		生命倫理学	1	30				30			
		教育学	1	15		15					
		医療英語Ⅰ	1	30		30					
		医療英語Ⅱ	1	30		30					
	人間と生活・社会の理解	社会学	1	15		15					
		人間関係論	1	30		30					
		論理学	1	30		30					
		心理学	1	30		30					
		死生学	1	30					30		
		保健体育	1	30		30					
		基礎分野 小計	13	345	0	105	180	0	30	30	0
	専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ 人体構造・生理学・栄養と呼吸・呼吸と血液	1	30		30				
		解剖生理学Ⅱ 血液と循環の調整・体液調整・内臓機能の調整	1	30		30					
		解剖生理学Ⅲ 体の支持と運動・外部環境からの防御・生殖・発生と成長・老化の仕組み	1	30		30					
		解剖生理学Ⅳ 神経系・感覚器・体表から見た人体構造	1	30		30					
		生化学	1	15		15					
		栄養学	1	15		15					
		薬理学	1	30		30					
		病理学	1	30		30					
		微生物学	1	30		30					
疾病の成り立ちと回復の促進		病態生理学Ⅰ 概論・皮膚・免疫	1	30		30					
		病態生理学Ⅱ 体液・血液	1	30		30					
		病態生理学Ⅲ 循環・呼吸	1	30		30					
		病態生理学Ⅳ 消化器・腎・泌尿器	1	30		30					
		病態生理学Ⅴ 内分泌・代謝・生殖器	1	30		30					
		病態生理学Ⅵ 脳・神経・筋・感覚器	1	30		30					
健康支援と社会保険制度		リハビリテーション論	1	30			30				
		総合医療論	1	15			15				
		医療経済論	1	15			15				
		看護関連法令	1	15			15				
		社会保険	1	15			15				
		公衆衛生学	1	30					30		
		専門基礎分野 小計	21	540	0	180	270	45	45	0	0
専門分野Ⅰ		基礎看護学	看護学概論	1	30		30				
			看護理論	1	30		30				
			基礎看護学援助論Ⅰ 対人関係成立の技術	1	30		30				
		基礎看護学援助論Ⅱ 療養環境に関する技術	1	30		30					
		基礎看護学援助論Ⅲ 安楽・活動と休息に関する技術	1	30		30					
		基礎看護学援助論Ⅳ 清潔・栄養・排泄に関する技術	1	30		30					
		基礎看護学援助論Ⅴ 観察技術(フィジカルアセスメント)	1	30		30					
		基礎看護学援助論Ⅵ 検査・与薬に関する技術	1	30		30					
		基礎看護学援助論Ⅶ 看護過程	1	30		30					
		基礎看護学援助論演習	1	30			30				
		専門分野Ⅰ学内 小計	10	300	0	150	120	30	0	0	0
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45		45					
		基礎看護学実習Ⅱ	2	90					90		
		専門分野Ⅰ臨地実習 小計	3	135	0	45	0	0	90	0	0
		専門分野Ⅰ 小計	13	435	0	195	120	30	90	0	0
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論 看護の対象と目的	1	30		30					
		成人看護学援助論Ⅰ 生活行動に障害のある患者の看護	1	30		30					
		成人看護学援助論Ⅱ 周手術期にある患者の看護	1	30		30					
		成人看護学援助論Ⅲ 緩和ケアを必要とする患者の看護	1	30				30			
		成人看護学援助論Ⅳ 生命の危機的状態にある患者の看護	1	30				30			
		成人看護学援助論Ⅴ 生涯にわたり健康コントロールを必要とする対象者の看護	1	30			30				
		小計	6	180	0	0	30	90	60	0	0
	老年看護学	老年看護学概論 看護の対象と目的	1	30		30					
		老年看護学援助論Ⅰ 老年期の日常生活援助	1	30		30					
		老年看護学援助論Ⅱ 老年期の健康障害時の看護	1	30		30					
		老年看護学援助論Ⅲ 老年期の健康障害時の援助技術(看護過程)	1	15				15			
		小計	4	105	0	0	30	60	15	0	0
	小児看護学	小児看護学概論 看護の対象と目的	1	30		30					
		小児看護学援助論Ⅰ 小児の療養環境と看護	1	30		30					
		小児看護学援助論Ⅱ 小児の主な疾患と看護	1	30		30					
		小児看護学援助論Ⅲ 疾患・障害を持つ小児と家族の援助技術(看護過程)	1	15				15			
		小計	4	105	0	0	30	60	15	0	0
	母性看護学	母性看護学概論 看護の対象と目的	1	30		30					
		母性看護学援助論Ⅰ 妊娠・分娩・新生児の生理機能	1	30		30					
		母性看護学援助論Ⅱ 妊娠・分娩の看護と周産期にあるハイリスクの看護	1	30		30					
		母性看護学援助論Ⅲ 妊娠・分娩・新生児の援助技術(看護過程)	1	15				15			
		小計	4	105	0	0	0	90	15	0	0
	精神看護学	精神看護学概論 看護の対象と目的	1	15		15					
		精神看護学援助論Ⅰ 精神疾患の理解と治療	1	30		30					
		精神看護学援助論Ⅱ 精神看護の実際とその倫理	1	30		30					
	精神看護学援助論Ⅲ 精神障害のある患者の援助技術(看護過程他)	1	15				15				
	小計	4	90	0	0	15	60	15	0	0	
臨地実習	成人看護学実習Ⅰ	2	90					90			
	成人看護学実習Ⅱ	2	90					90			
	成人看護学実習Ⅲ	2	90					90			
	老年看護学実習Ⅰ	2	90					90			
	老年看護学実習Ⅱ	2	90					90			
	小児看護学実習(保育園実習30時間含む)	2	90					90			
	母性看護学実習	2	90					90			
	精神看護学実習	2	90					90			
	専門分野Ⅱ臨地実習小計	16	720	0	0	0	0	180	540	0	
	専門分野Ⅱ 小計	38	1305	0	0	90	360	300	540	0	
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論 看護の対象と目的	1	30		30					
		在宅看護論Ⅰ 在宅療養者関連する制度と展開	1	15			15				
		在宅看護論Ⅱ 在宅における日常生活援助技術と実際	1	30				30			
		在宅看護論Ⅲ 在宅援助技術(看護過程)	1	15					15		
		小計	4	90	0	0	45	30	15	0	
	看護の統合と実践	医療安全論	1	30				30			
		看護管理	1	30					30		
		災害・国際看護学	1	30					30		
		看護研究	1	30					30		
		統合看護演習	1	30					30		
	小計	5	150	0	0	0	0	90	60	0	
臨地実習	在宅看護論実習	2	90						90		
	統合実習	2	90						90		
	統合分野 臨地実習 小計	4	180		0	0	0	0	0	180	
	統合分野 小計	13	420	0	0	0	45	120	75	180	
	総計	98	3045		480	675	480	585	645	180	
	総計				各学年総時間数		1155	1065		825	

98単位内訳(座学 75科目75単位、臨地実習 12実習23単位)  
 1年次42単位、内訳(座学 41科目41単位、臨地実習 1実習1単位)  
 2年次36単位、内訳(座学 30科目30単位、臨地実習 3実習6単位)  
 3年次20単位、内訳(座学 4科目 4単位、臨地実習 8実習16単位)

## 教科外活動

目的：教科外活動を通して、看護学生としての自覚及び協調性を養い、豊かな人間性を育む。

活動名	1年次	2年次	3年次	ねらい
入学式	4時間			これからの学校生活に向けて、看護学生としての自覚と誇りを持ち、行動できるように決意を新たにす。
		4時間	4時間	看護学生の先輩として、自覚した行動の上で新入生を歓迎し、今後の後輩指導における役割を果たすことができるようにする
卒業式	4時間	4時間		看護基礎教育の全課程修了者の証書を授与し、認定する。社会人としての役割を自覚する機会とする。
			4時間	
継灯式	4時間			看護の倫理について考え行動できる基盤を養う。
		4時間	4時間	ナイチンゲール像から灯を受け継ぎ、将来の歩みを決意し、自分が目指す看護師像を宣誓することにより、専門職業人として自覚を持ち続け行動できるようにする。
ガイダンス	8時間			新たな学校生活に適応するために学校の概略を理解する。 新入生としての新しい環境に適応し、級友間の親睦を深める。
		4時間	4時間	自己評価を基に振り返り、今後の課題を明確にするとともに、学習計画を立てる。
国家試験対策	10時間	20時間		自己の学力を知り、学力向上を目指す。
			30時間	多くの問題に挑戦し、国家試験の傾向と対策をつかみ、国家試験に合格する。
解剖見学	4時間			解剖生理学で学んだ知識を実際に体感し理解を深める。
教育講演	2時間	2時間	2時間	見聞を広め、豊かな感情を育て、自己成長につなげる。
接遇研修	2時間	2時間		看護学生としてふさわしい接遇を身につける。
熱中症研修	2時間	2時間	2時間	看護学生として熱中症の知識をもち熱中症対策の実践につなげる。
ネットモラル研修	2時間	2時間	2時間	他者への影響を考え、人権、知的財産権など自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつことや、危険回避など情報を正しく安全に利用できる
海外卒業研修		40時間		異文化に触れ、豊かな人間性と社会性・国際性を培う。
親睦研修	6時間			研修に参加し、新入生間の親睦を深める。
1,2年生親睦会	6時間	6時間		1,2年生間で交流をはかり、親睦を深める。
防災訓練	4時間	4時間	4時間	防災意識を高め、災害発生時における自己の身を守るとともに、看護学生としての役割を考える。
健康診断		4時間	4時間	学校保健法に基づき、各自の健康管理と衛生管理について認識を高め、自己の健康の保持増進を目指す機会とする。
地域交流	4時間			地域探索などを行うことにより、地域の人とふれあい、地域の中の一員としての自覚を育む。
あおい祭	4時間	4時間	4時間	学生間の親睦を深め、地域との交流をはかる。
合計時間	66時間	102時間	64時間	

## V 教育課程 概要

### 1. 教育課程とは

学校の教育目的・目標を達成するために必要な教育内容を学習者の進度に合わせて組み立てた教育活動の計画を教育課程という。その内容には「教科課程」と「教科外活動」がある。

### 2. 教科課程の構成

#### 1) 学科目の位置づけ

##### 〈基礎分野〉

基礎分野は、「科学的思考の基礎」「人間と生活・社会の理解」の学びが求められている。

この分野は入学直後から学修する科目が多く、看護を学修するのに関連する内容であるとともに、看護を実践する者としての人間成長に必要な内容とした。特に看護の対象である人間理解と、サービス提供の基礎となるコミュニケーション、健康理解のために自己の心身の活用方法に重点を置く内容とした。

「科学的思考の基盤」は、論理的に推考し、科学的思考を高め、完成を磨き、自由で主体的な判断と行動を促す内容、及び国際化・情報化への対応しうる能力を養えるような内容を含め、本校の教育課程では「看護物理学」「統計学」「情報科学」「生命倫理学」「教育学」「医療英語Ⅰ」「医療英語Ⅱ」の7科目を設定した。

「人間と生活・社会の理解」は、看護の実践には不可欠である人間を幅広く理解するための洞察力を養う科目、及び人間の生活・社会を理解するための科目として、本校の教育課程では、「社会学」「人間関係論」「論理学」「心理学」「死生学」「保健体育」の6科目を設定した。

##### 〈専門基礎科目〉

専門基礎分野は看護の対象である人間を生命体として捉え、その発生・構造・機能とその障害を学び、さらに社会の中で生きる人として捉えながら、人間理解と看護実践の基礎となる科目を設定した。またセルフケア能力を高めるために必要な教育的役割や地域における社会資源活用や関係機関などとの連携・マネジメント能力の向上につながる内容とした。

「人間の構造と機能」は、対象となる人間の構造と働きや心身に影響を与える要因について理解し、看護活動の中心となる知識を養う科目として、本校の教育課程では、「解剖生理学Ⅰ～Ⅳ」の4科目を設定した。

「疾病の成り立ちと回復促進」は、看護の対象である「患者」が疾病を持ち、治療を受ける存在と定義し、その疾病とは何か、生活者としての患者に与える影響を学ぶ内容とし、本校の教育課程では「生化学」「栄養学」「薬理学」「病理学」「微生物学」「病態生理学Ⅰ～Ⅵ」の11科目を設定した。

「健康支援と社会保障制度」は、看護活動を行う上で、社会との契約でもある法的根拠を学び、看護活動と社会資源などの連携を学ぶ内容とした。また疾病の危機的状態だけでなく、健康支援としての回復支援者としての看護能力を養える内容とし、本校の教育課程では、「リハビリテーション論」「総合医療論」「医療経済論」「看護関連法令」「社会保障」

「公衆衛生学」の6科目を設定した。

### 〈専門分野Ⅰ〉

基礎看護学は、基礎分野、専門基礎分野を学んだ上で、専門分野である各領域に共通する看護の基礎的知識・技術・態度を学ぶものとして、看護の概念、サービスの本質を学び、人間を統合体として捉え、生活者として理解する。そして、科学的、論理的な思考を持って根拠に基づく看護援助について学ぶ。また看護に携わる専門職業人としての自覚や、専門領域の基礎を修得することをねらいとして位置づけた。

また、専門分野Ⅰである基礎看護学は、専門分野Ⅱや統合分野の土台であり、各看護学の基礎となる内容とした。「看護学概論」「看護理論」で看護を構成する概念および看護理論から捉える看護の役割を学ぶ。さらに、看護実践の基礎となる「基礎看護援助論Ⅰ～Ⅶ」において基礎的知識・技術・態度を修得する。特に「基礎看護援助論」は、対象の生活を整えるのに必要な技術として教授し、専門分野Ⅱ、統合分野の学修が効果的に進むように設定した。臨地実習は、観察・コミュニケーションの基本技術を用いて、日常生活行動の援助技術を学び、看護過程の展開を2年次に行う。

当校における特色として、「基礎看護学援助論演習」を専門分野Ⅰに設定した。「基礎看護学援助論演習」においては、看護技術のエビデンスに基づき、基礎的知識・技術・態度を統合し、援助を実践するための基礎的能力を修得する。



## 〈専門分野Ⅱ〉

専門分野Ⅱでは、基礎分野、専門基礎分野および各看護学に通ずる看護の基礎となる「基礎看護学」の学修と関連させながら、対象に応じた健康生活を支えるために必要な基礎から応用までの援助の理論と実践能力を修得し、人々の健康の維持・増進、疾病の予防・回復、安寧な死への援助等、様々な段階における看護実践能力を養う。

専門分野Ⅱは、「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「精神看護学」「看護学実習」で成り立ち、専門職として必要な知識・技術・態度が修得できるようにする。

### (1)成人看護学

成人看護学は、ライフスタイルにおける幅広い年齢層が対象である。社会的に重要な役割を担っている。この時期の健康障害は、ライフスタイルや職業など、本人のみならず、周囲に与える影響や負担も必然的に大きくなる。

成人期の特徴を身体的・精神的・社会的な側面から統合的に理解し、健康段階のレベルに応じた看護実践の特徴を理解することをねらいとし、基礎的知識・技術・態度を修得することを目的とした。

本校では、「成人看護学概論」「成人看護学援助論Ⅰ～Ⅴ」の6科目を設定した。

### (2)老年看護学

高齢社会における看護のニーズに対し、対象の尊厳を守り老年期特有の問題について理解し、より良い生活の継続を目指すことを目的とした。老年期では、その対象の今までの生活スタイルや今後の社会生活での目標を重視し、出来る限り対象自身で生活を維持できるように援助していくための基礎的知識・技術・態度を修得することを目的とした。

本校では、「老年看護学概論」「老年看護学援助論Ⅰ～Ⅲ」の4科目を設定した。

### (3)小児看護学

少子化が進む我が国において、こどもたちの健康、健やかな成長発達は大きな課題である。小児期は人間について成長するための出発点であり、この時期の過ごし方が、その後の健康生活に大きな影響を与える。小児看護学は、このようなライフステージにある小児の健康の保持増進、健康の回復を促すとともに、すべての小児が、健全な成長・発達を遂げられるために必要な基礎的知識・技術・態度を修得することも目的とした。

本校では、「小児看護概論」「小児看護学援助論Ⅰ～Ⅲ」の4科目を設定した。

### (4)母性看護学

各領域にまたがる人の一生の中で生殖に注目した様々な活動を対象とする。リプロダクションの意義を理解し、女性のライフスタイルに応じた看護を学ぶことを目的とした。特徴的な妊娠・出産・産褥・新生児の看護を通し、生命の尊厳や親子・家族の機能への認識を深めることをねらいとした。

本校では、「母性看護学概論」「母性看護学援助論Ⅰ～Ⅲ」の4科目を設定した。

### (5)精神看護学

精神看護学の対象は、全てのライフスタイルにある人々である。精神の健康を害した対象の持つ回復能力を理解し、自立への看護を学ぶことを目的とした。また、精神障害において治療における影響は大きい。薬物や治療環境など身体・精神に与える影響を理解し、対象の社会復帰を促すために必要な基礎的知識・技術・態度を修得することを目的とした。

本校では、「精神看護学概論」「精神看護学援助論Ⅰ～Ⅲ」の4科目を設定した。

## 〈統合分野〉

### (1)在宅看護論

地域で暮らすあらゆる健康レベルの人々の生活を支える看護を実践するために必要な基礎的知識・技術・態度を修得することを目的とした。在宅における日常生活援助の実際、地域包括ケアの機能と専門職種との連携及び社会資源の活用について学び、療養者とその家族のQOLの向上を考慮した看護援助の理解を学修する。

### (2)看護の統合と実践

「看護の統合と実践」では、組織における看護師のマネジメント能力の重要性と実際について理解するとともに、災害時や国際社会の場における看護の役割の可能性について学修を充実させ、適切な判断・対応能力を強化する科目として、「医療安全論」「看護管理」「災害・国際看護学」を設定した。

「医療安全論」では、人は間違いをおかす存在であることを自覚した上でエラーを防止するために、看護業務や行為の視点から『してはならないこと』『すべきこと』を明確にし、患者の安全を守るために必要不可欠な知識・技術を修得する。

「看護管理」では、保健医療施設における組織的な看護サービス・管理の本質を学び、管理的思考や医療機関を取り巻く環境の変化と看護管理への影響を理解する。

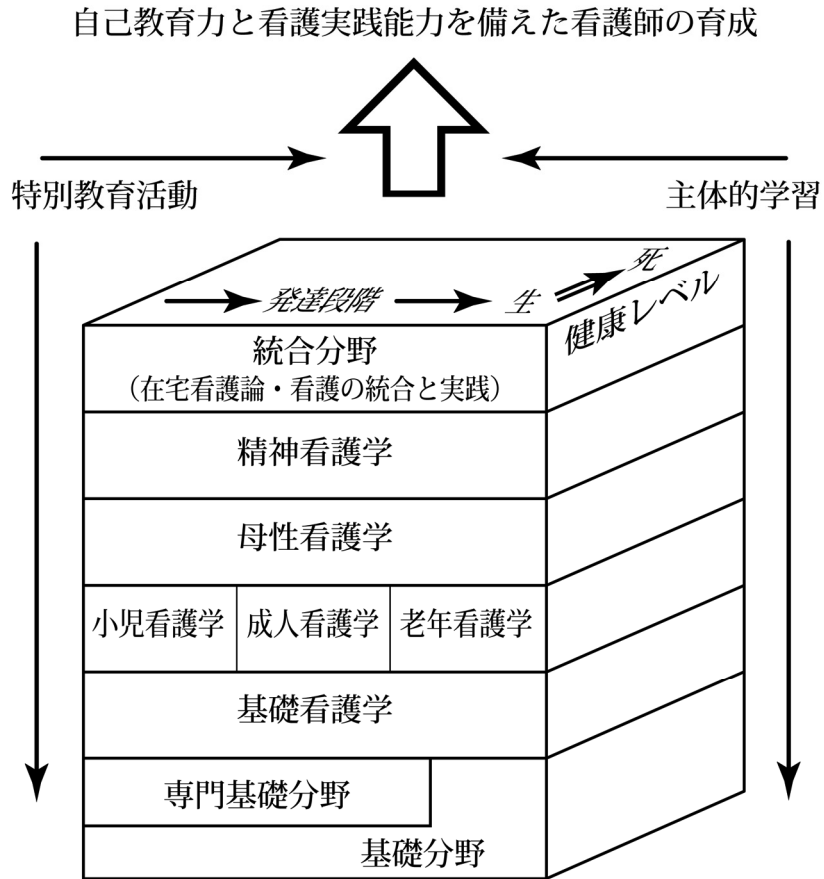
「災害・国際看護学」では、地域を守るための防災対策や看護について学び、看護師としての役割について理解する。

「看護研究」では、研究のための看護の実践ではなく、看護実践の質の向上のために研究が存在し、研究的思考を持って看護を実践することにより、対象への質の高い看護実践が提供できるよう位置づけた。

「統合看護演習」では、これまで学んだ知識・技術・態度を統合し、複雑化する看護の現場に対応するための準備段階として、実践の場をイメージでき、看護学実習に即した方法を用いて援助を行い、対象の状況に応じた判断による基礎的な実践能力を修得する。

看護学実習は、各看護学での実習を踏まえ、3年間の総まとめの位置づけとし、看護専門職としての活動を遂行するために備えておくべき看護実践能力を修得する科目として、総合実習を設定し、看護学の学修の総まとめとする。

教育課程構造図



## 2) 学科目一覧

領域	区分	単位	時間数	授業科目の名称	学習のねらい
基礎分野	科学的思考の基盤	1	15	看護物理学	安全で適切な看護行為を実施するために、バイオメカニクスである人体の運動力学や医療機器の作動原理を学ぶ。
		1	30	統計学	事実現象を論理的・科学的に把握・分析し、客観的に表現するための手段として保健統計学の基礎的手法や標準的手法等を理解する。看護研究に統計学が有用であることを理解し、活用法を学ぶ。
		1	30	情報科学	情報の整理、情報の利用について正しく理解し、インフォームドコンセントや情報開示などの患者の自己決定の支援や患者の尊厳を守るという立場から、医療の進歩と同時に情報科学の進歩も医療を支えている事を理解する。情報を取り扱うものとしてのモラルについて学ぶ。
		1	30	生命倫理学	医療や生命科学に関する倫理的、哲学的、社会的諸問題を知り、生命倫理について理解する。
		1	15	教育学	望ましい人間形成のあり方、人間の可能性に向けての教育の意義を理解し、看護における教育活動に応用するための方法を理解する。
		1	30	医療英語Ⅰ	コミュニケーションに必要な基礎的な文法項目を知り、医療・看護場面における日常英会話の基礎を理解する。英会話を通して、外国の人々に積極的に関わろうとする態度を身に付ける。
		1	30	医療英語Ⅱ	基礎的な医療・看護用具を使って、臨床場面で簡単な会話をを行い、コミュニケーション能力を高める。英語で書かれた医療・看護に関する文献を読解するための基礎を学ぶ。
		1	15	社会学	社会的存在としての人間を理解する。具体的には自己を取り巻く地域・社会・文化がどのように変化し、また我々の生活にいかなる影響を及ぼしているのかを理解する。
		1	30	人間関係論	保健医療における連携・協働の意義を理解し、保健・医療・福祉において人間関係が大きく影響することを理解する。人はそれぞれ価値観を有する存在であることを理解し、コミュニケーション技術や自己の人間形成が人間関係に不可欠であることを学ぶ。
		1	30	論理学	論理学の研究対象は「推論」である。自分で正しい推論を組み立てられるようになることを目指し、「自然演繹」と呼ばれる推論を行うためのシステムの使い方を習得する。
		1	30	心理学	人間の心理や行動の基礎にある原理を理解し、自己自身を良く理解する方法を学ぶ。患者や家族の心理を理解するために、こころの動き、行動、性格、情緒など、人間の心理や行動の基礎にある原理を学ぶ。
		1	30	死生学	社会的な背景や伝統の影響を踏まえ、生と死2面性を明確に意識し、社会の広がりや自己の内面とを考慮し、死生観を育む。また死を迎える人と取り巻く人々に対する考え方を学ぶ。
		1	30	保健体育	健康の保持増進や疾病の予防を図り、生きがいのある生活を送るための運動・スポーツの有能性を知り、運動・スポーツを理解する。心身の健康を保持するための具体的な運動を体験し体力の向上を目指す。
		専門基礎分野	人体の構造と機能	1	30
1	30			解剖生理学Ⅱ (血液と循環の調整・体液調整・内臓機能の調整)	解剖学と生理学は、医学の体系のなかでも基礎中の基礎となる領域であり、解剖学によって人体の形態と構造、生理学によって役割と機能について習得する。 ・血液と循環とその調整について学ぶ。 ・体液の調整と尿の再生について学ぶ。 ・内臓機能の調整について学ぶ。
1	30			解剖生理学Ⅲ (体の支持と運動・外部環境からの防御・生殖・発生と成長・老化の仕組み)	解剖学と生理学は、医学の体系のなかでも基礎中の基礎となる領域であり、解剖学によって人体の形態と構造、生理学によって役割と機能について習得する。 ・からだの支持と運動について学ぶ。 ・外部環境からの防御について学ぶ。 ・生殖・発生と成長と老化の仕組みについて学ぶ。
1	30			解剖生理学Ⅳ (神経系・感覚器・体表から見た人体構造)	解剖学と生理学は、医学の体系のなかでも基礎中の基礎となる領域であり、解剖学によって人体の形態と構造、生理学によって役割と機能について習得する。 ・情報の受容と処理について学ぶ。 ・体表からみた人体の構造について学ぶ。
1	15			生化学	基礎分野における生命現象の科学の学修を基に、生命活動を支える細胞や生体物質の構造および生理機能と食物として外界から取り込んだ物質の利用、すなわち代謝とその調節について学ぶ。
1	15			栄養学	人間にとっての栄養の意義と食生活のあり方に基づき、食事療法の基礎的知識を習得する。
1	30			薬理学	現代医療においては治療の目的で多種の医薬品が、様々な方法によって患者に投与されている。医療における薬物治療の占める割合は非常に大きく、直接的に患者に関わる看護師は薬理作用や体内動態、副作用や毒性、薬物漏出の危険性などの知識を習得する必要がある。薬剤に関する知識を理解し、服薬・注射・点滴等による与薬や副作用・アレルギー等の観察など、看護師が実施する看護技術の基本について理解する。
1	30			病理学	対象を理解しより良いケアを行うためには、病理学の知識をもつ必要がある。人体の構造と機能において正常から逸脱する場合の様々な症状・徴候のメカニズムに共通する現象を理解する。主な症状・徴候のメカニズムを理解する。
1	30			微生物学	環境には、様々な微生物が存在するが、その中で病原微生物を中心に構造、機能、観察方法、増殖感染、治療薬、免疫、滅菌消毒方法を学ぶことで、感染症の現状や院内感染予防等に対する専門的知識を習得する。

領域	区分	単位	時間数	授業科目の名称	学習のねらい	
専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	1	30	病態生理学Ⅰ (概論・皮膚・免疫・体温)	身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法を学習する。 ・病態生理学の基礎知識を学ぶ。 ・皮膚・体温調節に関する疾患と治療について学ぶ。 ・免疫に関する疾患と治療について学ぶ。	
		1	30	病態生理学Ⅱ (体液・血液)	身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法を学習する。 ・体液に関する病態と治療について学ぶ。 ・血液に関する疾患の病態と治療について学ぶ。	
		1	30	病態生理学Ⅲ (循環・呼吸)	身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法を学習する。 ・循環器に関する疾患の病態と治療について学ぶ。 ・呼吸器に関する疾患の病態と治療について学ぶ。	
		1	30	病態生理学Ⅳ (消化器・腎・泌尿器)	身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法を学習する。 ・消化器に関する疾患の病態と治療について学ぶ。 ・泌尿器に関する疾患の病態と治療について学ぶ。	
		1	30	病態生理学Ⅴ (内分泌・代謝・生殖器)	身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法を学習する。 ・内分泌に関する疾患と治療について学ぶ。 ・代謝・生殖器に関する疾患の病態と治療について学ぶ。	
		1	30	病態生理学Ⅵ (脳・神経・筋・感覚器)	身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法を学習する。 ・脳・神経・筋に関する疾患の病態と治療について学ぶ。 ・感覚器に関する疾患の病態と治療について学ぶ。	
	健康支援と社会保障制度	1	30	リハビリテーション論	人間が人間としての権利を回復する活動としてのリハビリテーションの概念と意義を学び、リハビリテーションの方法を理解する。	
		1	15	総合医療論	医学・医療の歴史および医療の現状と課題を学ぶことで、医療・看護の原点はどこにあるか、生命とは何か、健康とは、病気とはなど幅広い視点から保健・医療・福祉を理解する。	
		1	15	医療経済学	社会における医療の役割、問題点とその背景を医療経済の視点から考察する。	
		1	15	看護関連法令	看護師に必要な保健・医療・福祉に関する諸制度とその関係法規について学び、看護の役割及び与えられた責務を正しく遂行するために、看護業務に関する法律を理解できる。	
		1	15	社会保障	社会保障制度・社会福祉制度は、医療福祉の総合的サービスの供給体制における連携が重要である。保健・医療・福祉チームの一員として対象の生活へのトータルケアマネジメントの視点を持ち、その役割と機能を学ぶ。	
	専門分野Ⅰ	基礎看護学	1	30	公衆衛生学	公衆衛生の概念と歴史を学び、生活者の健康保持・増進のための公衆衛生活動を理解する。 保健行政活動や疾病の疫学と予防について理解する。
			1	30	看護学概論	看護の歴史を概観するとともに「人間」「環境」「健康」「看護」の概念を元に看護の対象である人間理解、健康の概念、看護とは何かを学ぶ。さらに看護観を培うことの意義を学習する。
			1	30	看護理論	理論とは、諸現象間の関係について記述し、説明し、予測するために体系づけられた見解である。理論は、現実世界を代表する言葉や象徴から校正される。看護理論には、看護を構成する人間、環境(社会)、健康、看護の概念が含まれており、それらの概念を、看護実践の基礎的な考え方として理解した上で、看護理論を通して看護を研究的視点で実践することの必要性を理解する。
1			30	基礎看護学援助論Ⅰ (対人関係成立の技術)	1. 人間関係成立・発展のための技術を学び、患者及び家族－看護師関係について理解する。 2. ヘルスケアの指導の基礎を学び、看護における教育・指導について理解する。	
1			30	基礎看護学援助論Ⅱ (療養環境に関する技術)	1. 人間にとっての環境の意味を理解し、健康的な生活環境を整えるための知識と援助を習得する。 2. 感染予防の基本的知識及び、感染予防を推進する技術を習得する。	
1			30	基礎看護学援助論Ⅲ (安楽・活動と休息に関する技術)	1. ボディメカニクスの基本原理を理解し、安全・安楽な体位で効果的・効率的にケアできる基本的な方法を学ぶことができる。 2. 人間の活動(運動)・休息の意義を理解し、健康生活を送るための援助ができ、安楽な体位の援助ができる。 3. 医療安全の基本的知識について理解し、防止法について学び習得できる。	
1			30	基礎看護学援助論Ⅳ (清潔・栄養・排泄に関する技術)	1. 清潔保持に関する生理的メカニズムを理解し、対象の清潔援助時のアセスメントを行い適切な援助方法を選択し実施できる。 2. 栄養と食事のニーズ・排泄のニーズを充足するための基礎的知識と援助方法を理解し、習得する。	
1			30	基礎看護学援助論Ⅴ (観察技術 (フィジカルアセスメント))	一般状態の観察・生命兆候としてフィジカルアセスメントの基礎知識・技術を習得する。	
1			30	基礎看護学援助論Ⅵ (検査・与薬に関する技術)	1. 与薬(薬物療法)における法的根拠・目的・用途・方法の基礎知識・技術を理解し、与薬を受ける患者への安全かつ正確に行う援助技術を習得する。 2. 皮膚創傷を管理する知識を理解し、創傷を管理する援助ができる。 3. 検査・治療の意義及び、看護師の役割を理解できる。	

領域	区分	単位	時間数	授業科目の名称	学習のねらい
専門分野Ⅰ	基礎看護学	1	30	基礎看護学援助論Ⅶ (看護過程)	看護を行う上での思考過程として概要を学び、看護の対象者がもつ問題を明確にして解決していく過程を習得する。
		1	30	基礎看護学援助論演習	看護の対象とする対象の疾患、症状、治療・処置を関連付け、看護技術のエビデンスに基づき、基本技術・援助技術を統合し、援助を実践するための基礎的能力を習得する。
	臨地実習	1	45	基礎看護学実習Ⅰ	人々の生活を環境と健康の関係から理解し、看護を実践していく基盤を形成する。つまり実習での体験を意味づけ、看護を学ぶ動機づけをする。入院している患者との出会い、対象を取り巻く環境や基本的欲求を理解する。
		2	90	基礎看護学実習Ⅱ	人々の生活を環境と健康の関係から理解し、看護を実践していく基盤を形成する。つまり実習での体験を意味づけ、看護を学ぶ動機づけをする。 看護過程という看護の専門技術を使って看護を体験し、科学的な看護の意義を理解し、各看護学へと発展させていく基盤とする。
専門分野Ⅱ	成人看護学	1	30	成人看護学概論 (看護の対象と目的)	1. 成人期における対象の特性を理解する。 2. 生活習慣やライフサイクルと健康問題との関連を理解する。 3. 成人の学習の特徴を活用した健康行動促進のための看護アプローチを理解する。 4. 成人看護の役割を理解する。 5. 成人看護に有用な諸理論を理解する。
		1	30	成人看護学援助論Ⅰ (生活行動に障害のある患者の看護)	1. 健康障害がもたらす役割変化と自己概念の受容を理解する。 2. セルフケア能力再獲得に向けた援助を理解する。
		1	30	成人看護学援助論Ⅱ (周手術期にある患者の看護)	1. 手術に伴う身体侵襲を理解する。 2. 手術に伴うボディイメージの変化を理解する。 3. 機能の障害・喪失に対する援助を理解する。 4. 手術後の自己管理に関する援助を理解する。
		1	30	成人看護学援助論Ⅲ (緩和ケアを必要とする患者の看護)	1. 緩和ケアにおける全人的な痛みを理解し、その援助法を学ぶ。 2. 死にゆく人の心理過程を理解する。 3. 緩和ケアにおける家族の悲嘆に伴う援助を理解する。
		1	30	成人看護学援助論Ⅳ (生命の危機的状態にある患者の看護)	1. 生命危機状態にある対象の身体的特徴を理解する。 2. 生命危機状態にある対象および家族の心理、社会的特徴を理解する。 3. 救急時の基本的技術を習得する。 4. クリティカルな場における看護の役割を理解する。
		1	30	成人看護学援助論Ⅴ (生涯にわたる健康コントロールを必要とする対象者の看護)	1. 疾病をコントロールしながら生活する対象を理解する。 2. 成人の学習の特徴をふまえて、セルフマネジメントと自己効力感を高めるための援助を理解する。
	老年看護学	1	30	老年看護学概論 (看護の対象と目的)	1. 老年者を取り巻く社会の動向を理解する。 2. 老年者の身体的、心理的、社会的特徴を理解する。 3. 高齢社会における保健医療福祉制度や施策を理解する。 4. 老年看護の役割と機能、看護活動の場を理解する。
		1	30	老年看護学援助論Ⅰ (老年期の日常生活援助)	1. 老年者の日常生活上における援助ニーズを理解する。 2. 老年者の特性をふまえた援助方法を理解する。 3. 老年者のQOL向上を目指した健康増進プログラムを理解する。
		1	30	老年看護学援助論Ⅱ (老年期の健康障害時の看護)	1. 老年者に特有な健康障害を理解する。 2. 健康障害に応じた援助方法を理解する。
		1	15	老年看護学援助論Ⅲ (老年期の健康障害時の援助技術・看護過程)	1. 事例を基に健康障害をもつ健康問題を理解する。 2. 事例を基に健康障害をもつ老年者の看護過程を展開する基礎的能力を養う。
	小児看護学	1	30	小児看護学概論 (看護の対象と目的)	1. 小児の成長発達と発達課題を理解する。 2. 小児のヘルスプロモーションと看護を理解する。 3. 小児を取り巻く社会状況と動向を理解する。
		1	30	小児看護学援助論Ⅰ (小児の療養環境と看護)	1. 健康障害や療養環境が小児と家族に及ぼす影響について理解する。 2. 小児の成長発達・健康上の課題に応じた看護を理解する。
		1	30	小児看護学援助論Ⅱ (小児の主な疾患と看護)	1. 小児に出現しやすい健康障害および診断・治療に関する基礎的知識を理解する。 2. 小児看護に必要な看護技術を習得する。
		1	15	小児看護学援助論Ⅲ (疾病・障害を持つ小児と家族の援助技術(看護過程))	1. 小児の成長発達・健康問題に応じた看護を理解する。 2. 健康障害が小児と家族に及ぼす影響を理解する。 3. 事例を基に健康障害をもつ小児の看護過程を展開する基礎的能力を養う。
	母性看護学	1	30	母性看護学概論 (看護の対象と目的)	女性の一生を通じた母性の健康の保持・増進を目指した看護の基礎的な知識と技術を習得し、次世代の健全育成を目指す看護について理解する。
		1	30	母性看護学援助論Ⅰ (妊産婦・新生児の生理機能)	妊産婦のマタニティサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴及び、新生児の身体的・心理的・社会的特徴を理解する。

領域	区分	単位	時間数	授業科目の名称	学習のねらい	
専門分野Ⅱ	母性看護学	1	30	母性看護学援助論Ⅱ (妊産褥婦の看護と周産期にあるハイリスクの看護)	褥婦・新生児の看護、周産期にある対象が順調に経過をたどるための看護師の役割・援助方法について基礎知識を学び、異常の早期発見・健康回復のための援助を理解する。また、正常経過にある母子をウェルネスの視点で捉え、よりよい状態に向かえるよう知識を活用する。	
		1	15	母性看護学援助論Ⅲ (妊産褥婦・新生児の援助技術(看護過程))	事例の展開を通して、対象を統合された存在として理解し、健康レベルに応じて科学的根拠に基づいた援助ができる基礎的能力を養う。	
	精神看護学	1	15	精神看護学概論 (看護の対象と目的)	1. ライフサイクルにおけるこころの健康問題を理解する。 2. 社会の価値規範やしきみが心の健康に及ぼす影響を理解する。 3. 精神保健医療の現状ととらえ、精神看護の役割と機能を理解する。	
		1	30	精神看護学援助論Ⅰ (精神疾患の理解と治療)	1. 主な精神障害とその症状を理解する。 2. こころの健康障害を持つ対象の苦悩と援助を理解する。 3. こころの健康障害のある対象の権利擁護の現状と課題を理解する。	
		1	30	精神看護学援助論Ⅱ (精神看護の実際とその倫理)	1. ノーマライゼーションと精神科リハビリテーションの現状を理解する。 2. こころの健康障害を持つ対象の社会復帰や自立に向けた援助を理解する。	
		1	15	精神看護学援助論Ⅲ (精神障害のある患者の援助技術・看護過程)	1. ロールプレイングを通して治療的人間関係の成立と発展過程を理解する。 2. プロセスレコードの再構成、考察する必要性を理解する。 3. 事例を基にこころの健康障害をもつ対象の看護過程を展開する基礎的能力を養う。	
	臨地実習	2	90	成人看護学実習Ⅰ	慢性の経過をたどる患者への看護を通してセルフコントロールを促すための看護を学修する。患者が疾患や障害を受容していく過程における患者理解と支援、健康障害を持ちながら生涯にわたり、疾患をコントロールし、社会生活を送るための患者や家族への指導方法を学修する。	
		2	90	成人看護学実習Ⅱ	手術を受ける患者の術前・術中・術後の看護を実践し、回復に向けての患者と家族への看護を患者と家族への看護を学修する。	
		2	90	成人看護学実習Ⅲ	健康の急激な破綻状況にある対象あるいはターミナル期にあり、生命の危機状態にある対象と家族への看護を学修する。	
		2	90	老年看護学実習Ⅰ	老年期の特徴を理解し、健康レベルに応じた看護を学修する。自立した高齢者を対象として、健康を維持してその人らしく生活していくための看護を学修する。	
		2	90	老年看護学実習Ⅱ	老年期の特徴を理解し、健康レベルに応じた看護を学修する。健康障害や治療のため自立した生活を送ることが困難である高齢者を対象とし、セルフケア能力を高めることを目的とした残存機能を踏まえた看護を学修する。	
		2	90	小児看護学実習 (保育所実習30時間を含む)	子供の成長・発達を促すための看護を学修する。保育所や医療福祉施設で生活している子どもとの関わりを通して、子どもの成長発達を観察し、看護の役割を学修する。さらに健康障害が子どもの発達に与える影響を踏まえ、健康回復・健康保持増進への看護を学修する。健康障害をもつ母親・父親への理解と支援について学修する。	
		2	90	母性看護学実習	周産期にある母子およびその家族の特性を理解し、母子の健康と親子関係の促進を目指した援助を実践できる基礎的能力を習得する。その方法として、母性看護の対象の健康問題をアセスメントし、正常経過にある母子をウェルネスの視点でとらえ、よりよい状態に向かうための看護を習得する。	
		2	90	精神看護学実習	こころの健康障害をもつあらゆる発達段階の人を対象として、こころの状態をコントロールしながら生活するための看護を学修する。	
	統合分野	在宅看護論	1	30	在宅看護概論 (看護の対象と目的)	在宅介護の歴史や社会的背景を踏まえ、地域で生活しながら療養する人々及び障害を持ちながら生活する人々と、その家族の特性を理解し、在宅における看護活動に必要な基礎的知識・技術・態度を学習する。
			1	15	在宅看護論Ⅰ (在宅療養者に関連する制度と展開)	在宅ケアシステムにおける看護の役割と在宅看護における多職種との連携・協働の在り方、展開における各制度を学習する。
			1	30	在宅看護論Ⅱ (在宅における日常生活援助技術と実際)	在宅療養者の日常生活を総合的に情報収集し、個々に応じた援助を見極めるためのアセスメントを行い、求められる基本看護技術・特殊な看護技術を学習する。
			1	15	在宅看護論Ⅲ (在宅援助技術・看護過程)	在宅看護過程の特徴を学び、在宅看護を展開する。一連の過程である情報収集、アセスメント、実践、計画を学ぶ。また、事例を通して対象別の在宅看護過程の展開方法を学ぶ。
		看護の統合と実践	1	30	医療安全論	人間は間違いをおかす存在であることを自覚したうえでエラーを防止するために、看護業務や行為の視点から「してはならないこと」「すべきこと」を明確にし、患者の安全を守るために必要不可欠な知識・技術を習得する。
			1	30	看護管理	保健医療施設などにおける組織的看護サービス・管理の本質を学び、管理的思考や医療機関を取り巻く環境の変化と看護管理への影響について理解する。
1			30	災害・国際看護学	1. 地域を守るための防災対策や救護・看護について学び、看護師としての役割を理解する。 2. 災害や世界の保健医療の現状を知り、国際救援活動と国際看護活動における看護の必要性と役割について理解する。	
1			30	看護研究	1. 研究の意義と方法を理解する。 2. 看護活動と研究の関連について理解し、看護研究の基礎を学ぶ。	
1			30	統合看護演習	これまでに学んだ知識・技術を統合し、看護学実習に即した方法を用いて援助を行い、対象の状況に応じた判断による基礎的な実践能力を養う。	
臨地実習			2	90	在宅看護論実習	あらゆる発達段階にあり、性別・領域を問わないものとし、在宅で療養する対象とその家族への看護を学修する。訪問看護活動や地域における保健活動を知ることにより、地域社会で充実した生活ができるための基礎的な看護実践能力を養う。
	2	90	統合実習	今まで学んだ知識・技術・態度をもとに看護実践能力を高めることを目指す。複数の患者を複数の学生で受け持ち、看護上の問題の優先性を考えたうえでの看護体験する。看護管理の実際を知ることにより、看護チーム及び医療チームにおける看護師の役割を学修する。		





# 基礎分野



基礎分野	看護物理学	1 単位 15 時間	1 学年後期	講師名	山本 峻三
<p>授業目標</p> <p>安全で適切な看護行為を実施するために、力のつり合いや熱の移動など物理学の基礎知識を得るとともに、それが看護の現場でどのように生かされているかを学ぶ。</p>					
授 業 計 画					
1	<p>力学の基礎</p> <p>(移動動作や体位変換に必要な力学)</p>				
2	<p>物体の安定・不安定、力のつり合いの応用</p>				
3	<p>力学の人体への適用</p>				
4	<p>熱と物質 (熱と温度)</p>				
5	<p>熱の移動と体温調節の仕組み</p>				
6	<p>圧力の基礎知識と血圧測定の原理</p>				
7	<p>溶液の濃度と浸透圧の基礎知識</p> <p>(医療処置に必要な浸透圧の知識)</p>				
8	<p>終 講 試 験</p>				
評価 方法	<p>講義終了後の試験 70%</p> <p>レポート及び小テスト 30%</p>				
テキ スト	<p>完全版 ベッドサイドを科学する 看護に生かす物理学</p> <p>著：平田雅子 学研メディカル秀潤社</p>				
参考 図書					
履修上の 注意点					

基礎分野	統計学	1 単位 30 時間	1 学年後期	講師名	毎熊 隆誉
<b>授業目標</b> 日常生活や医療現場で遭遇する様々な数字は、読む者の捉え方によって異なった解釈を生む。本講義では、多くの集まった数値・データ群の真意を科学的に把握・分析出来るようになるために、基本的な統計学の考え方や統計解析の手法を学ぶ。それにより医療に必要な臨床情報や論文データを解釈し、臨床的な判断や看護研究に統計学を活用できるようになることを最終目標とする。					
<b>授 業 計 画</b>					
1	日常生活や医療現場で遭遇する数値・データ				
2	見た目は同じでも意味の異なる数値・データ(統計データの種類)				
3	統計とは何か(記述統計と推測統計、母集団と標本)				
4	たぐさんの数値・データを一言で表す(代表値・散布度・要約統計量)				
5	数値・データを一目で分かるように表す(ヒストグラムと箱ひげ図)				
6	数値・データの動きを読み解く(散布図・相関・回帰)				
7	異なる数値・データ群のバラツキや分布に注目する(正規分布、標準化)				
8	物事の起こる確率に注目する(標準正規分布)				
9	一部の数値・データから真の事実を推測する その1(95%信頼区間、Z 推定、中心極限定理)				
10	一部の数値・データから真の事実を推測する その2(t 推定、母比率の推定)				
11	異なる数値・データ群は同じか、違うか その1(Z 検定)				
12	異なる数値・データ群は同じか、違うか その2(t 検定)				
13	異なる数値・データ群は同じか、違うか その3(カイ2乗検定)				
14	統計解析の注意点、統計学の利用の実際				
15	終 講 試 験				
評価方法	終講試験の結果を100%とする。				
テキスト	系統看護学講座 基礎分野 統計学 著：高木晴良 医学書院				
参考図書	医療・看護のためのやさしい統計学「基礎編」 著：山田覚 東京図書株式会社				
履修上の 注意点	講義中に課された確認問題にしっかり取り組んだうえで講義に臨んでください。 講義には関数電卓等、平方根( $\sqrt{\quad}$ )の計算ができる電卓を持参して下さい。				

基礎分野	情報科学	1 単位 30 時間	1 学年後期	講師名	小池 大介
<b>授業目標</b> 情報社会を生き抜くためのルールやマナー、セキュリティの知識を身に付けるとともに、パソコンの実習を通して、インターネットを利用した情報収集、文書作成、表計算、プレゼンテーションの代表的なアプリケーション（Word, Excel, PowerPoint）の基本操作の習得を目指す。					
<b>授 業 計 画</b>					
1	情報化社会のモラルとセキュリティ 個人情報の適切な取扱い				
2	デジタル時代の著作権 ネット社会に潜む危険と対策				
3	メール・Web によるコミュニケーション モバイル機器の活用と管理				
4	基本的な文書の作成 図や票の挿入				
5	文書の印刷 表現力をアップする機能				
6	文書作成の演習				
7	データの入力 表の作成				
8	表の編集・印刷				
9	グラフの作成 データベースの操作				
10	複数シートでの操作				
11	表計算の演習				
12	プレゼンテーションの作成 オブジェクトの挿入				
13	プレゼンテーションの構成と変更 特殊効果の設定 プレゼンテーションの印刷				
14	プレゼンテーションの流れ プレゼンテーションの演習				
15	終 講 試 験				
評価方法	授業中の課題などと終講試験により評価する。				
テキスト	情報リテラシー入門編 情報モラル&情報セキュリティ 著・出版：FOM 出版				
参考図書					
履修上の 注意点					

基礎分野	生命倫理学	1 単位 30 時間	2 学年後期	講師名	稲村 秀一
<b>授業目標</b> 「生」(いのち)と「死」に関して、哲学的・倫理的・宗教的な観点から考察する。特に、「人間とはなにか」「いかに生きることが人間らしいことなのか」等を人間学の立場から明らかにしたい。					
<b>授 業 計 画</b>					
1	講義内容に関するガイダンス 序論 ー生命倫理学と現代の諸問題ー				
2	第1章 人間存在の五次元(層) 1) 身体としての人間、 2) 社会的役割をになう人間、 3) 感情としての人間				
3	4) 精神としての人間、 5) 人格としての人間				
4	第2章 人間における「生」と「死」の意味 ー第1の層から第5の層における考察ー				
5	第3章 人格としての「いのち」の実現 1) 生命的次元の人間の限界、 2) 人間らしい<いのち>の創造 3) 人格の生死は<対話的關係>に現れる、 4) 人格の<いのち>は<愛>である				
6	第4章 「倫理」と「エートス」の意味 ー「いのち」の倫理とエートス ー				
7	第5章 人間観の歴史(西洋思想史の一断面) 1) ギリシア哲学(ヘレニズム)の人間観				
8	2) 聖書思想(ヘブライズム)の人間観				
9	3) 現代の実存主義思想の人間観 ー 実存としての人間、 実存の三段階論 ー				
10	第6章 現代の哲学的人間学の視座ーフランクルの人間論 1) 現代の科学的人間論の方法と限界				
11	2) 人格論ー人格についての10の命題ー				
12	第7章 現代の生命倫理の諸課題 1) 脳死と臓器移植をめぐる課題				
13	2) 出生に関する倫理的課題				
14	3) 尊厳死・安楽死をめぐる課題				
15	終 講 試 験				
評価方法	終講試験 70% レポート 30%				
テキスト	使用しない。 沢山のコピーを配布するので、必ずファイルすること。				
参考図書	講義の中で参考文献紹介。				
履修上の注意	「人間として生きる」とはどのようなことであるかという問題意識をもって、積極的な態度で受講してほしい。この授業の目的は、知識を覚えることではなく、現実の諸問題を一緒に考えることにある。				

基礎分野	教育学	1 単位 15 時間	1 学年後期	講師名	福田 昌准
授業目標					
望ましい人間形成のあり方、人間の可能性に向けての教育の意義を理解し、看護における教育活動に応用するための方法を理解する。					
授 業 計 画					
1	教育学の概要 社会の中の看護と教育 教育とは何か－「教育」の概念				
2	教育の対象－子ども観と発達 社会変動と教育 教育の組織化－学校				
3	教授－人を教えるということ 訓育－他者とのかかわりを導く 養護－教育の受け手を見まもる 発達－教育を受けて成長する				
4	学びの場－学校と家庭 教育の目標と評価 問題演習（1）				
5	教育のメディア－教育をデザインする 教育の担い手－専門性と専門職性 教育の場をつくるしくみ				
6	キャリア教育(専門教育) ジェンダーとセクシュアリティ				
7	特別ニーズ教育・インクルーシヴ教育 生涯学習 シティズンシップ教育 問題演習（2）				
8	終 講 試 験				
評価方法	終講試験 100%で評価する。				
テキスト	系統看護講座 基礎分野 教育学 編集：木村元 医学書院				
参考図書					
履修上の注意					

基礎分野	医療英語 I	1 単位 30 時間	1 学年前期	講師名	Andrew Caldwell
<b>授業目標</b> 基礎的な医療・看護用語を使って臨床場面で簡単な会話を行い、コミュニケーション能力を高める。 英語で書かれた医療看護に関する文献を読解する基礎を学ぶ。					
<b>授 業 計 画</b>					
1	Course Orientation and Introductions				
2	Hospital Departments				
3	Healthcare workers and patients				
4	Medical supplies and equipment				
5	Medication and medical equipment				
6	External and Internal body parts				
7	Illness and Conditions 1				
8	Illness and Conditions 2				
9	Children's and Women's illnesses				
10	Injuries and Emergencies				
11	Taking a patient's history				
12	Giving instructions and making requests				
13	Common medical questions				
14	Daily medical routines				
15	Final Test				
評価方法	Example 1) Final Test 100% Example 2) Quiz 20% , Final Test 100%				
テキスト	Bedside Manner Beginner A Basic English Course for Nursing 著 : Simon Capper Percptia Press				
参考図書					
履修上の 注意点					



基礎分野	医療英語Ⅱ	1 単位 30 時間	1 学年後期	講師名	Andrew Caldwell
<b>授業目標</b> 基礎的な医療・看護用語を使って臨床場面で簡単な会話を行い、コミュニケーション能力を高める。 英語で書かれた医療看護に関する文献を読解する基礎を学ぶ。					
<b>授 業 計 画</b>					
1	Meeting a New Patient				
2	Talking about Symptoms				
3	In-Patient Orientation				
4	Doing the Rounds				
5	Explaining Medication				
6	Symptoms Part 2				
7	Review				
8	Accidents and Injuries				
9	Patient Examination				
10	Medical History Enquiries				
11	Diet and Lifestyle				
12	Hospital Tests				
13	Reassurance				
14	Review				
15	Final Test				
評価方法	Example 1) Final Test 100%				
テキスト	Bedside Manner Beginner A Basic English Course for Nursing 著: Simon Capper Percptia Press				
参考図書					
履修上の注意点					

基礎分野	社会学	1 単位 15 時間	1 学年後期	講師名	中塚 朋子
<p>授業目標</p> <p>社会学は、社会のしくみや人間関係について探究する学問である。そして、社会的な関係が個人の振る舞いに与える影響について考える。社会学の基礎的な概念や理論について理解を深め、現代社会における人間関係の諸相を多角的にとらえる視点を学ぶ。</p> <p>社会は、人間と人間の関わりから成り立ち、一人ひとりの人間に還元できないかたちで現れる。一方、一人ひとりの人間は、そうした人間と人間の関わりの中かで社会的な存在となっていく。社会学の概念や理論について概説するとともに、身近に観察できる日常的な現象から社会問題まで幅広く取り上げ、人びとの相互行為や社会の変化について考察する。</p>					
授 業 計 画					
1	社会学とは何か ①社会学の対象 ②社会学の歴史 ③社会学の視点				
2	家族と現代社会				
3	性差・性別（ジェンダー）と現代社会				
4	性愛（セクシュアリティ）と現代社会				
5	逸脱と現代社会				
6	医療と現代社会				
7	障害と現代社会				
8	終 講 試 験				
評価方法	授業に取り組む姿勢および小レポート（20%）と終講試験（80%）によって総合的に評価を行う。				
テキスト	テキストは指定しない。随時、関連する資料を配布する。				
参考図書	松田健，2008，『テキスト現代社会学〔第2版〕』ミネルヴァ書房。				
履修上の 注意点					

基礎分野	人間関係論	1 単位 30 時間	1 学年後期	講師名	九鬼 一人
<b>授業目標</b> 保健医療における人間関係のあるべき姿を追求し、価値観を尊重し合いながら、いかに社会的合意を作ってゆくべきかを学ぶ。途中、色々な題材を参考にし、筆記（演習形態）を一部取り入れつつ、コミュニケーションの向上を図る。 ○印がついた回が「現代倫理学入門」にさく回である。 なお各回の授業の初めに教科書に準拠して暗記事項の提示を行う。					
<b>授 業 計 画</b>					
1	ピルランデロ劇と役割存在／子供と大人・コミック「悪い子」を題材にする				
2	ギリガンのケアの倫理 生きる意味／無意味の絵を描く・ゴヤ「黒い絵」				
3	相互承認論・ヤマアラシのジレンマ				
4	構えをこわす ・サイレントダイアローグ				
5	リビング・ウィル IT 社会と福祉・現代社会試験（金子郁容）				
6	二極化してはいけない ビデオ感想				
7	コミック「おたんこナース」を題材に朗読劇をする				
8	体験学習のプロセスを反省する・筆記				
9	道徳的相対主義○				
10	コミック「雛菊物語」を題材にする 国語試験（清水哲郎）				
11	清水哲郎の自己決定マニュアル				
12	他人に迷惑をかけねば何をしてもよいか○・筆記				
13	カント倫理学としょうがい○				
14	判断能力の判断は誰がするのか○ ・サイレントダイアローグ				
15	終 講 試 験				
評価方法	二回に一回提出する小レポートを平常点とする。25% 小テスト二回 10% 人間関係論教科書から必要事項の暗記科目を期末試験とする。 65%				
テキスト	◇系統看護講座 基礎分野 人間関係論 編：長谷川浩〔ほか〕 医学書院 ◇現代倫理学入門 著：加藤尚武 講談社学術文庫				
参考図書					
履修上の注意					

基礎分野	論理学	1 単位 30 時間	1 学年後期	講師名	稲村 秀一
<b>授業目標</b> 現実のさまざまな出来事を観察し、分析し、それらを比較しながら、自分の意見を確認してゆくことを学ぶ。さらに、自分の意見が他者に理解できるように表現することを身につける。そのために、論理的思考および言語表現について学ぶ。思考の矛盾や妥当性を判断して処理する能力を養う。					
<b>授 業 計 画</b>					
1	講義内容に関するガイダンス 序論(1) 論理学とは何か (2) 概念とは何か				
2	(3) 思考と存在(論理学と倫理学)の関係 (4) 明晰な思考の根拠にあるものの探求 (5) 論理的思考と感情の論理				
3	第一章 他者理解における論理的思考 (1) 他者理解の四つの立場				
4	(2) 他者理解の第五の立場-対話的他者理解				
5	第二章 価値の秩序についての論理的思考 (1) 価値の分類と価値優先の論理				
6	(2) 序列の法則				
7	(3) 倫理的価値と愛憎 (4) ルサンチマン論				
8	第三章 実存の論理としての「恥と良心 —日本人の思考の特質について— (1) 恥の文化と罪の文化の比較				
9	(2) 恥の四形態				
10	(3) 良心現象とその三形態				
11	第四章 感情の論理としての「愛の秩序」 (1) 愛の構造				
12	(2) 愛の三形態と秩序形成の作用 (エロース・フィリア・アガペー)				
13	(3) 愛の秩序の思想				
14	(4) 愛における出会いの四次元				
15	終 講 試 験				
評価方法	終講試験 70% レポート 30%				
テキスト	使用しない。 沢山のコピーを配布するので、必ずファイルすること。				
参考図書	講義の中で参考文献紹介。				
履修上の注意	この授業は、毎日経験する諸問題を観察しながら、それをどのように理解したらよいかを考える機会にしたい。常に、問題意識をもって積極的に授業に参加してほしい。				

基礎分野	心理学	1 単位 30 時間	1 学年前期	講師名	北川 歳昭
<b>授業目標</b> ・全人的医療に関わる立場から、人間の心理や行動の基礎にある原理を理解し、自己を良く理解する方法を学ぶ。 ・患者や家族の心理を理解するために、こころの動き・行動・性格・情緒など、人間の心理や行動の基礎にある原理を学ぶ。					
<b>授 業 計 画</b>					
1	第1章 心理学の問題 ①心理学とは ②心理学の分野 ③心理学の研究法				
2	第2章 知覚の心理 ①知覚の成立 ②知覚の種類				
3	第3章 記憶の心理 ①記憶の諸相 ②忘却の条件 ③記憶のくふう				
4	第4章 思考・想像・言語の心理 ①思考・想像の心理 ②言語の心理				
5	第5章 知能の心理と知能検査 ①知能の心理 ②知能検査				
6	第6章 学習の心理 ①学習の心理 ②練習の心理				
7	第7章 感情・情緒・情操の心理 ①感情の諸相 ②感情・情緒の異常				
8	第8章 適応の心理 ①人と環境 ②適応・不適応 ③適応機制				
9	第9章 性格の心理と性格検査（1） ①性格の形成 ②性格の理解				
10	第9章 性格の心理と性格検査（2） 性格検査の理論と実際				
11	第10章 集団の心理 ①個人と集団 ②集団の働き ③集団行動				
12	第11章 発達の心理 ①発達の原理 ②発達段階の特徴				
13	第12章 カウンセリング ①カウンセリングの意義・理論 ②方法				
14	第13章 医療と心理学 ①医療と心理学の役割 ②患者の心理 ③療養生活と心理 ④聴く立場と聴かれる立場				
15	終 講 試 験				
評価方法	終講試験の成績（90%）及びレポート（10%）をもって評価する				
テキスト	系統看護講座 基礎分野 心理学 著：山村豊〔ほか〕 医学書院				
参考図書	講義中に資料を配布する				
履修上の 注意点					

基礎分野	死生学	1 単位 30 時間	3 学年後期	講師名	川北敬子, 稲村秀一
<b>授業目標</b> 現在、事故・災害・紛争などで命が奪われている事象を通して生と死を理解する。さらに人間が「死」をどのように受けとめて、それぞれの立場や考え方を通して自分自身の「生」のあり方、「生きることの意味」を主体性に明確にして、死生観を育むために必要な基礎知識を学ぶ。 そして、我が国の超高齢化社会の背景・文化と伝統からの影響を踏まえ、耳を傾ける謙虚な姿勢と看護職者として、看護の対象者が死を迎える人と取り巻く人々に対する援助を考える姿勢を養う					
授 業 計 画					担当教員
1	序論 一死生学とは、死生学を学ぶ意義				川北
2	第1章 死生観と宗教の関わり 宗教から見た死—仏教、キリスト教、イスラム教 「講演：いのちの教室」				
3	第2章 日本人の死生観 ① 歴史的変化と現代の死生観 ② 日本人の遺体に対する考え				
4	第3章 地域の視点からみた死生観：① 被災地の死生観 ② イスラム兵士に奴隷にされた女性 「講演：私の歩んだ道—見えないから見えたもの」				
5	第4章 人間における「生」と「死」の意味 —人間存在の5次元の「生と死」—				稲村
6	第5章 西洋思想史における人間観と死生観 (1)古代ギリシア思想（ヘレニズム）の人間観と死生観				
7	(2)聖書思想（ヘブライズム）の人間観と死生観				
8	(3)近世思想（デカルト、モンテーニュ、パスカル、カント）における人間観と死生観				
9	(4)現代実存思想における人間観と死生観 ①キルケゴール『死に至る病』の人間観と死生観				
10	②ハイデッガーとサルトルの人間観と死生観				
11	第6章 最近の死生観の諸問題 ①キューブラ・ロス『死ぬ瞬間』、養老孟司『死の壁』の死生観				
12	②岸本英夫『死をみつめる心』、日野原重明『死をどう生きたか』、 柏木哲夫『死に行く人々のケア』の死生観				
13	③トルストイ『生命について』にみられる死生観				
14	第7章 安楽死、尊厳死と人格の尊厳				
15	終 講 試 験				
評価方法	授業後に授業内容について小テストを実施する 授業の理解を小テスト（20%）・レポート（30%）・終講試験（20%）で総合評価する				
テキスト	必要時資料を配付する				
参考図書	「死生学」[全5巻] 編集代表 島藺進・竹内整一・小佐野重利 東京大学出版会 授業中に指示する。				
学生へメッセージ	「死と生」について問題意識を持って真摯に授業を聴き、理解し各自の考えを明確にすること				

基礎分野	保健体育	1 単位 30 時間	1 学年前期	講師名	岸 弥生
<b>授業目標</b> 運動・スポーツ・レクリエーションを通して、自身の健康状態を知り、健康の維持・増進を図ると共に学生間のコミュニケーション、仲間づくりをする。 看護又は介護の現場でレクリエーションの支援ができることを目指す。					
<b>授 業 計 画</b>					
1	オリエンテーション・アイスブレイク				
2	身近な物を使って遊んでみよう ① (新聞紙・風船・ボール等)				
3	〃 ②				
4	タオルを使ってエアロビクス				
5	椅子に座って行う体操				
6	ポスター作製				
7	球技 他①				
8	ストレッチ体操① (肩こり体操・腰痛体操)				
9	グラウンドで体育				
10	ストレッチ体操② (マッサージ)				
11	球技 他②				
12	レクリエーションゲーム				
13	グループ発表準備				
14	グループ発表				
15	終 講 試 験				
評価方法	授業態度 50% グループ発表・終講試験 50%				
テキスト					
参考図書					
履修上の 注意点					





# 專門基礎分野



専門基礎分野	解剖生理学 I 人体構造・生理学・ 栄養と吸収・呼吸と血液	1 単位 30 時間	1 学年前期	講師名	内藤 一郎
授業目標					
<p>解剖学と生理学は、医学の体系のなかでも基礎中の基礎となる領域である。解剖学によって人体の形態と構造、生理学によって役割と機能について、習得する。</p> <p>この講義では、人体の構成要素である細胞と組織、体の各部を表わる用語、消化と吸収および呼吸と血液について学ぶ。学んだことを医療現場の同僚はもちろん、患者様にも適切に説明できることを目標とする。</p>					
授 業 計 画					
1	I. 人体の構造と機能：a. 人体の階層性、b. 細胞の構造				
2	c. 細胞の組成、d. 細胞の機能、e. 細胞の増殖				
3	f. 組織の種類と機能、g. 腔所・方向用語				
4	h. 器官系、i. 体液とホメオスタシス				
5	II. 消化器系：a. 口腔・咽頭・食道、b. 消化管の構成				
6	c. 胃、d. 小腸と大腸、				
7	e. 栄養素の消化吸収、f. 肝臓と胆嚢・胆管、				
8	g. 膵臓、h. 腹膜				
9	III. 呼吸器系：a. 鼻腔・咽頭・喉頭、b. 気管と気管支				
10	c. 肺、d. 胸膜・縦隔、e. 呼吸運動				
11	f. 内呼吸・外呼吸、g. 呼吸気量、h. ガス交換と運搬				
12	i. 肺の血液循環、j. 呼吸運動の調節				
13	IV. 血液：a. 組成と機能、b. 赤血球・白血球・血小板				
14	c. 血漿タンパク質、d. 赤血球沈降速度、e. 凝固と綿維素溶解、f. 血液型				
15	終 講 試 験				
評価方法	終講試験の結果を80%として評価し、残り20%は小テストや授業態度で評価する。 (毎回、講義の初めにミニテストを実施する)				
テキスト	◇系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 著：坂井建雄〔ほか〕 医学書院				
参考図書	解剖トレーニングノート 著：竹内 修二 医学教育出版				
履修上の 注意点					

専門基礎分野	解剖生理学Ⅱ 血液と循環の調整・体液調整・内臓機能の調整	1 単位 30 時間	1 学年前期	講師名	田口 勇仁
授業目標					
<p>解剖学と生理学は、医学の体系のなかでも基礎中の基礎となる領域であり、解剖学によって人体の形態と構造、生理学によって役割と機能について、習得する。</p> <p>血液と循環とその調整、体液の調整と尿の生成および内臓機能の調整について学ぶ</p>					
授 業 計 画					
1	心臓の構造				
2	心臓の拍出機能				
3	末梢循環器系の構造				
4	血液の循環の調節				
5	リンパとリンパ管				
6	DVD と心臓の模型を使い演習				
7	腎臓, 排尿器				
8	体液の調節				
9	DVD と人体模型を使い演習				
10	自律神経による調節				
11	内分泌系による調節				
12	全身の内分泌線と内分泌細胞				
13	ホルモン分泌の調節				
14	ホルモンによる調節の実際				
15	終 講 試 験				
評価方法	終講試験 100%				
テキスト	◇系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 著:坂井建雄[ほか] 医学書院				
参考図書					
履修上の注意					

専門基礎分野	解剖生理学Ⅲ 体の支持と運動・外部環境からの 防御・生殖・発生と成長・老化の 仕組み	1 単位 30 時間	1 学年前期	講師名	藤野 雅広
<b>授業目標</b> 解剖学と生理学は、医学の体系のなかでも基礎中の基礎となる領域であり、解剖学によって人体の形態と構造、生理学によって役割と機能について習得する。 からだの支持と運動、外部環境からの防御におよび生殖・発生と成長・老化の仕組みについて学ぶ。					
<b>授 業 計 画</b>					
1	DVD 人体 生命誕生（CG画像）				
2	発生と成長・老化の仕組み				
3	DVD 人体解剖 老化				
4	DVD 遺伝子から考える老化と死の設計図				
5	男性生殖器、女性生殖器				
6	DVD 人体解剖 生殖				
7	骨と骨格、骨構造				
8	頭蓋、体幹骨格、体肢骨格				
9	関節構造と運動				
10	DVD 人体 骨・筋（CG画像）				
11	骨格筋の種類、筋生理				
12	身体運動と骨格筋				
13	骨の病気と筋の病気				
14	DVD 人体解剖 動き				
15	終 講 試 験				
評価方法	終講試験 100%				
テキスト	◇系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 著：坂井建雄〔ほか〕 医学書院 ◇新版 からだの地図帳 監：佐藤達夫 講談社				
参考図書					
履修上の 注意点					

専門基礎分野	解剖生理学IV 神経系・感覚器・ 体表から見た人体構造	1 単位 30 時間	1 学年後期	講師名	藤野 雅広
<b>授業目標</b> 解剖学と生理学は、医学の体系のなかでも基礎中の基礎となる領域であり、解剖学によって人体の形態と構造、生理学によって役割と機能について習得する。 情報の受容と処理および体表からみた人体の構造について学ぶ。					
<b>授 業 計 画</b>					
1	DVD 人体 脳と心 ～進化～				
2	神経系の分類				
3	神経組織の構造と機能				
4	中枢神経系				
5	末梢神経系				
6	DVD 人体 脳と心 ～知覚～				
7	感覚の特徴				
8	DVD 人体 脳と心 ～記憶～				
9	感覚機能と上行伝導路 疼痛（痛み）				
10	DVD 人体 脳と心 ～発達と再生～				
11	眼の構造と視覚				
12	耳の構造と聴覚・平衡覚				
13	味覚と嗅覚				
14	DVD 人体 脳と心 ～無意識と創造性～				
15	終 講 試 験				
評価方法	終講試験 100%				
テキスト	◇系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 著:坂井建雄[ほか] 医学書院				
参考図書					
履修上の 注意点					

専門基礎分野	生化学	1 単位 15 時間	1 学年前期	講師名	坪井 誠二
<b>授業目標</b> 基礎分野における生命現象の科学の学修を基に、生命活動を支える細胞や生体物質の構造および生理機能と食物として外界から取り込んだ物質の利用、すなわち代謝とその調節について学ぶ。					
<b>授 業 計 画</b>					
1	細胞の構造と機能				
2	糖質・脂質・アミノ酸・タンパク質				
3	ビタミンと酵素 (酵素に関する基礎知識・ビタミンの種類と生理作用)				
4	糖質代謝(グルコースの分解・糖新生)				
5	糖質代謝(グリコーゲンの代謝)				
6	脂質代謝(脂肪酸の分解・ケトン体の産生と利用)				
7	脂質代謝(コレステロールの生合成)				
8	終 講 試 験				
評価 方法	終講試験 50% レポート 50%				
テキ スト	◇系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能② 生化学 著：三輪一智[ほか] 医学書院				
参考 図書					
履修上の 注意点					

専門基礎分野	栄養学	1 単位 15 時間	1 学年前期	講師名	末丸 克矢
<p>授業目標</p> <p>傷病者に対して健康状態や栄養状態をよりよい状態へ改善し、疾病の予防・治療・増悪化予防を行い QOL 向上に努める援助を行うための食に対しての知識を身につけ看護援助における指導に活かすことができる</p>					
授 業 計 画					
1	栄養評価と栄養ケアプラン、栄養サポートチーム				
2	3 大栄養素の働き				
3	生活習慣病（肥満・脂質異常症・痛風）と栄養				
4	消化器疾患（胃潰瘍・肝炎・腸疾患）と栄養				
5	糖尿病・肺炎と栄養				
6	高血圧症・慢性腎臓病と栄養				
7	術前・術後の栄養				
8	終 講 試 験				
評価方法	期末試験（100%）と平常点により評価する				
テキスト	◇系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能③ 栄養学 著：小野章史[ほか] 医学書院				
参考図書					
履修上の 注意点					



専門基礎分野	薬理学	1 単位 30 時間	1 学年後期	講師名	見尾 光庸
<b>授業目標</b> 現代医療においては治療の目的で多種の医薬品が、様々な方法によって患者に投与されている。 医療における薬物治療の占める割合は非常に大きく、直接的に患者に関わる看護師は医薬品の薬理作用や体内動態、副作用や毒性、薬物漏出の危険性などの知識を習得する必要がある。 薬剤に関する知識を理解すると同時に、臨床における服薬・注射・点滴等による薬物投与や副作用・アレルギー等の観察など看護師が実施する看護技術の基本について理解する。					
<b>授 業 計 画</b>					
1	薬理学の基礎知識：薬物治療の概要を学ぶ。 ① 体内における薬物の吸収・分布・代謝・排泄				
2	薬理学の基礎知識 ② 受容体における薬物作用				
3	末梢神経系作用薬 ①自律神経の概要。交感神経に作用する薬物				
4	末梢神経系作用薬 ②副交感神経に作用する薬物、局所麻酔薬				
5	中枢神経系作用薬 ①全身麻酔薬、催眠薬、抗てんかん薬、パーキンソン病治療薬				
6	中枢神経系作用薬 ②麻酔性鎮痛剤、抗精神病薬、抗不安薬、抗うつ薬、中枢神経興奮薬				
7	オータコイド・アレルギー用薬				
8	心臓血管系作用薬				
9	血液造血器系作用薬				
10	呼吸器系作用薬、消化器系作用薬				
11	生殖器系作用薬 物質代謝作用薬				
12	抗感染症薬①：抗菌薬の作用機序と副作用				
13	抗感染症薬②：代表的な抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬、抗寄生虫薬、駆虫薬				
14	抗悪性腫瘍薬、生物学的製剤				
15	終 講 試 験				
評価方法	成績評価は終講試験（100％）によるが、受講態度を加味する。				
テキスト	◇系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進③ 薬理学 著：吉岡充弘[ほか] 医学書院				
参考図書	パワーアップ問題演習 薬理学 著：鈴木正彦 サイオ出版				
履修上の注意	授業中にプリントを配布し、プリントを中心に授業を進行する。				

専門基礎分野	病理学	1 単位 30 時間	1 学年後期	講師名	赤木 忠厚
<b>授業目標</b> <p>細胞障害・炎症・免疫異常・循環障害・代謝異常・腫瘍などの総論的観点から、病気の原因、成り立ち、経過について解説し、次いで臓器・系統別に、主要な疾患の発症機構、病態生理を中心に概説する。  解剖学、生理学で学んだ人体の正常構造・機能を適宜復習しながら、その病的変化について学習する。</p>					
<b>授 業 計 画</b>					
1	医療における病理学の役割、内因と外因、先天異常と遺伝性疾患				
2	変性、壊死、萎縮、肥大、再生と修復				
3	糖質代謝・脂質代謝・タンパク質代謝・核酸代謝の異常、生活習慣病				
4	うっ血、出血、虚血と梗塞、側副循環、ショック、浮腫				
5	炎症の定義・メカニズム・種類、免疫とアレルギー、感染症と病原体				
6	腫瘍の定義と分類、発生病理、転移と進行度、がんの疫学				
7	先天性心疾患、虚血性心疾患、炎症性心疾患、心筋症、心臓弁膜症、血管の疾患、高血圧症				
8	上気道感染症、肺炎、肺結核、閉塞性肺疾患、拘束性肺疾患、塵肺症、肺がん				
9	口腔・唾液腺疾患、食道疾患、胃・腸の炎症性疾患・腫瘍性疾患				
10	脂肪肝、肝炎、アルコール性肝障害、肝がん、黄疸の病理、胆嚢炎、胆石症、胆道がん、膵炎、膵がん				
11	腎の炎症（糸球体腎炎、腎盂腎炎）と腫瘍、尿路の炎症・結石・腫瘍、子宮・卵巣の腫瘍、精巣の腫瘍、乳腺の腫瘍				
12	内分泌系の特徴と異常、下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、膵島の疾患				
13	中枢神経の外傷、循環障害、炎症、変性疾患、脱髄疾患、腫瘍				
14	血液疾患（貧血、増殖性疾患、白血病）、リンパ節の病変（炎症、反応性病変、腫瘍）、脾腫の原因、骨・関節の疾患、末梢神経・筋肉の疾患				
15	終 講 試 験				
評価方法	随時小テストを行い、小テストの点数を 30 点、終講試験の成績を 70 点として、合計したもので評価する。				
テキスト	◇新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進① 病理学 編：深山正久 メヂカルフレンド社				
参考図書	カラーで学べる病理学 編：渡辺照男 ノーヴェルヒロカワ				
履修上の注意	教科書にそって講義を行うが、教科書に書かれていない内容も多く含まれるので、授業中に出来るだけ理解するように努めること。 講義はパワーポイントを使用して行い、講義内容はプリントして資料を配布する。				

専門基礎分野	微生物学	1 単位 30 時間	1 学年前期	講師名	守谷 智恵
<p>授業目標</p> <p>環境には様々な微生物が存在するが、その中で病原微生物を中心に構造、機能、観察方法、増殖感染、治療薬、免疫、滅菌消毒方法を学ぶことで、感染症の現状や院内感染予防等に対する専門的知識を修得する。</p>					
授 業 計 画					
1	微生物の概要、細菌の性質				
2	真菌・原虫の性質				
3	感染と発症				
4	感染に対する生体防御機構				
5	感染源・感染経路				
6	感染症の予防（滅菌、消毒、予防接種）				
7	感染症の検査と診断				
8	感染症の現状と対策				
9	細菌感染症 1				
10	細菌感染症 2				
11	真菌、寄生虫感染症				
12	ウイルスの特徴と分類				
13	ウイルス感染症				
14	感染症の治療				
15	終 講 試 験				
評価方法	小テスト、レポートなど平常点 30% 終講試験 70%				
テキスト	◇系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進④ 微生物学 著：南嶋洋一〔ほか〕 医学書院				
参考図書					
履修上の注意					

専門基礎分野	病態生理学 I 概論・皮膚・免疫・体温	1 単位 30 時間	1 学年前期	講師名	内藤 一郎
授業目標					
<p>身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法を学習する。</p> <p>病態生理の基礎知識、皮膚・体温調節に関する疾患の病態と治療、免疫に関する疾患の病態と治療について学ぶ。</p>					
授 業 計 画					
1	病態生理学を学ぶための基礎知識				
	① 正常と病気の状態				
2	② 循環障害 ③ 変性				
3	④ 炎症 ⑤ 感染症 ⑥ 腫瘍				
4	⑦ 先天性異常と遺伝子異常				
5	⑧ 変形・圧迫による障害 ⑨ 老化と死				
6	皮膚・体温調節のしくみとその異常				
	① 皮膚の構造と機能				
7	② 皮膚構造の正常性の破綻				
8	③ 体温調節のしくみとその異常				
9	免疫による防御のしくみとその異常				
	①リンパ球による免疫応答のしくみ				
10	② 自己寛容と自己免疫のしくみ				
11	② 免疫による防御が弱まっている場合				
12	③ アレルギー反応				
13	④ 自己寛容の異常				
14	⑤ 自己免疫疾患				
15	終 講 試 験				
評価方法	終講試験の結果を80%として評価し、残り20%は小テストや授業態度で評価する。 (毎回、講義の初めにミニテストを実施する)				
テキスト	◇系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進② 病態生理学 著：田中越郎 医学書院 ◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑫ 皮膚 著：佐藤博子 [ほか] 医学書院 ◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑪ アレルギー 膠原病 感染症 著：岩田健太郎 [ほか] 医学書院				
参考図書					
履修上の 注意点					

専門基礎分野	病態生理学Ⅱ 体液・血液	1 単位 30 時間	1 学年後期	講師名	森 順子
授業目標					
<p>身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法を学習する。</p> <p>体液に関する病態と治療と血液に関する疾患の病態と治療について学ぶ。</p>					
授 業 計 画					
1	体液①：体液・電解質				
2	体液②：酸塩基平衡				
3	体液③：国家試験問題演習①(体液・酸塩基平衡)				
4	血液①：血液の正常性を保つしくみ				
5	血液②：血液の正常性の破綻				
6	血液③：検査・診断と症候・病態生理（その1）				
7	血液④：検査・診断と症候・病態生理（その2）				
8	血液⑤：赤血球系の異常・白血球系の異常				
9	血液⑥：造血器腫瘍 1（造血器腫瘍の概論）				
10	血液⑦：造血器腫瘍 2（急性白血病 等）				
11	血液⑧：造血器腫瘍 3（慢性白血病 等）				
12	血液⑨：造血器腫瘍 4（悪性リンパ腫、骨髄腫 等）				
13	血液⑩：出血性疾患				
14	血液⑪：国家試験問題演習②（血液）				
15	終 講 試 験				
評価方法	終講試験（100％）で評価を行う				
テキスト	<p>◇系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進② 病態生理学 著：田中越郎 医学書院</p> <p>◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学④ 血液・造血器 著：飯野京子〔ほか〕 医学書院</p>				
参考図書					
履修上の 注意点					

専門基礎分野	病態生理学Ⅲ 循環・呼吸	1 単位 30 時間	1 学年後期	講師名	田口 勇仁
<b>授業目標</b> 身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法を学習する。 循環器・呼吸器に関する疾患の病態と治療を学ぶ。					
<b>授 業 計 画</b>					
1	循環器のしくみとその異常 ① 循環器の正常性を保つしくみ ② 循環器の正常性の破綻				
2	虚血性心疾患 心不全				
3	不整脈、弁膜症				
4	心膜炎、心筋疾患				
5	先天性心疾患				
6	動脈系疾患・静脈系疾患				
7	リンパ系疾患・血圧異常				
8	呼吸のしくみとその異常 ① 呼吸器の機能の正常性を保つしくみ				
9	② 呼吸器の機能の正常性の破綻 ・感染症                      ・間質性肺疾患				
10	気道疾患・肺血栓塞栓症				
11	呼吸不全・肺腫瘍				
12	呼吸調節に関する疾患				
13	肺・肺血管の形状異常				
14	胸膜・縦隔・横隔膜の疾患・肺移植・胸部外科疾患→総復習				
15	終 講 試 験				
評価方法	終講試験 100%				
テキスト	◇系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進② 病態生理学 著：田中越郎 医学書院 ◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学② 呼吸器 著：浅野浩一郎[ほか] 医学書院 ◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学③ 循環器 著：吉田俊子[ほか] 医学書院				
参考図書					
履修上の 注意点					

専門基礎分野	病態生理学Ⅳ 消化器・腎・泌尿器	1 単位 30 時間	1 学年後期	講師名	内藤 一郎
<b>授業目標</b> 身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法を学習する。 消化器系および泌尿器系疾患の病態と治療について学ぶ。					
<b>授 業 計 画</b>					
1	消化・吸収のしくみとその異常 <b>① 消化管の機能</b>				
2	<b>② 消化管の異常</b> 1) 咀嚼・嚥下機能、胃のはたらきと異常				
3	2) 消化・吸収機能の障害と腸管機能の障害				
4	<b>③ 肝臓の機能</b> 1) 肝臓、2) 胆道系、3) 門脈				
5	<b>④ 肝臓の機能の異常</b> 1) 肝細胞・小葉の異常、2) 代謝機能の異常				
6	3) 胆汁産生・胆道の異常				
7	<b>⑤ 膵臓の機能と異常</b> 1) 膵臓の機能、2) 膵臓の異常				
8	<b>⑥ 腹膜腔・腹膜・腸間膜の機能とその異常</b> 1) 腹膜のしくみ、2) 腹膜・腹水				
9	腎・泌尿器のはたらきとその異常 <b>① 腎機能、② 尿排泄のしくみ</b>				
10	<b>③ 腎機能の異常</b>				
11	1) 尿材料の供給不足、2) 濾過機能の異常、3) 尿再吸収機能の異常、4) 腎間質の障害				
12	5) 全身性疾患に伴う障害、6) 腎不全、遺伝性腎症				
13	<b>④ 尿をたくわえ排泄するしくみの異常</b>				
14	<b>⑤ 腎・尿路系の悪性腫瘍</b>				
15	終 講 試 験				
評価方法	終講試験の結果を80%として評価し、残り20%は小テストや授業態度で評価する。 (毎回、講義の初めにミニテストを実施する)				
テキスト	◇系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進② 病態生理学 著：田中越郎 医学書院 ◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器 著：松田明子[ほか] 医学書院 ◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑧ 腎・泌尿器 著：大東貴志[ほか] 医学書院				
参考図書					
履修上の注意					

専門基礎分野	病態生理学V 内分泌・代謝・生殖器	1 単位 30 時間	1 学年後期	講師名	村田 幸治
授業目標					
<p>身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法を学習する。</p> <p>内分泌・代謝や生殖器に関する疾患の病態と治療について学ぶ。</p>					
授 業 計 画					
1	内分泌・代謝①：内分泌機能の正常性を保つしくみ 代謝機能の正常性を保つしくみ				
2	内分泌・代謝②：内分泌機能の正常性の破綻 代謝機能の正常性の破綻				
3	内分泌・代謝③：症状とその病態生理（1）				
4	内分泌・代謝④：症状とその病態生理（2）				
5	内分泌・代謝⑤：内分泌疾患の検査と治療				
6	内分泌・代謝⑥：代謝疾患の検査と治療				
7	内分泌・代謝⑦：国家試験問題演習①：内分泌・代謝				
8	生殖器①：生殖の正常性を保つしくみ 女性の生殖機能の正常性の破綻 男性の生殖機能の正常性の破綻				
9	生殖器②：女性生殖器 症状とその病態生理				
10	生殖器③：女性生殖器 診察と検査・治療（1）				
11	生殖器④：女性生殖器 診察と検査・治療（2）				
12	生殖器⑤：男性生殖器 症状とその病態生理				
13	生殖器⑥：男性生殖器 診察と検査・治療				
14	生殖器⑦：国家試験問題演習②：生殖器				
15	終 講 試 験				
評価方法	終講試験（100％）で評価を行う。				
テキスト	<p>◇系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進② 病態生理学 著：田中越郎 医学書院</p> <p>◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑥ 内分泌・代謝 著：黒江ゆり子[ほか] 医学書院</p> <p>◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑨ 女性生殖器 著：末岡浩[ほか] 医学書院</p> <p>◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑧ 腎・泌尿器 著：大東貴志[ほか] 医学書院</p>				
参考図書					
履修上の注意					



専門基礎分野	病態生理学Ⅵ 脳・神経・筋・感覚器	1 単位 30 時間	1 学年後期	講師名	内藤 一郎
<b>授業目標</b> 身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法を学習する。 脳・神経・筋や感覚器に関する疾患の病態と治療について学ぶ。					
<b>授 業 計 画</b>					
1	脳・神経、筋のはたらきとその異常 ① 脳・神経機能の正常性を保つしくみ				
2	② 脳・神経機能の正常性の破綻 ・脳疾患                      ・脊髄疾患				
3	・末梢神経障害      ・神経・筋障害				
4	・脱髄・変性疾患      ・脳・神経系の感染症				
5	・中毒                      ・てんかん				
6	・認知症                      ・内科疾患に伴う神経疾患				
7	③ 筋収縮の正常性を保つしくみとその破綻				
8	・重症筋無力症      ・進行性筋ジストロフィー				
9	・筋萎縮性側索硬化症				
10	感覚器のはたらきとその異常 ① 視機能のしくみとその異常				
11	・機能の障害              ・部位別の疾患				
12	・外傷                      ・全身疾患との関連				
13	② 聴覚障害のしくみとその異常 ・外耳疾患                      ・中耳疾患				
14	③ 内耳・後迷路性疾患				
15	終 講 試 験				
評価方法	小テスト 40%、終講試験の成績 60% (毎回、講義の初めにミニテストを実施する)				
テキスト	◇系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進② 病態生理学                      著：田中越郎 医学書院 ◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑦ 脳・神経                      著：井出隆文〔ほか〕 医学書院 ◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑩ 運動器                      著：織田弘美〔ほか〕 医学書院 ◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑬ 眼                      著：大鹿哲郎〔ほか〕 医学書院 ◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑭ 耳鼻咽喉                      著：小松浩子〔ほか〕 医学書院				
参考図書	◇病気がみえる 〈vol.7〉 脳・神経 医療情報科学研究所 (編集)：メディックメディア				
履修上の 注意点					

専門基礎分野	リハビリテーション論	1 単位 30 時間	2 学年前期	講師名	谷 康登志
授業目標 リハビリテーションの概念と意義を学びチーム医療での役割が理解できる					
授 業 計 画					
1	リハビリテーションの理念と視点				
2	リハビリテーションの分野とチーム医療				
3	障害の受容と関わり				
4	リハビリテーションでの目標と評価				
5	運動器疾患でのリハビリテーション①				
6	運動器疾患でのリハビリテーション②				
7	運動器疾患でのリハビリテーション③				
8	関節可動域訓練、徒手筋力テスト				
9	中枢神経疾患でのリハビリテーション①				
10	中枢神経疾患でのリハビリテーション②				
11	中枢神経疾患でのリハビリテーション③				
12	基本動作・ADL におけるの介助方法				
13	精神疾患・認知症でのリハビリテーション				
14	呼吸器・循環器でのリハビリテーション				
15	終 講 試 験				
評価 方法	終講試験 80% 小テスト 20%				
テキスト	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 著：武田宣子〔ほか〕 医学書院				
参考 図書					
履修上の 注意点					

専門基礎分野	総合医療論	1 単位 15 時間	2 学年前期	講師名	村田 幸治
<b>授業目標</b> 医学・医療の歴史および医療の現状と課題を学ぶことで、医療・看護の原点はどこにあるか、生命・健康・病気とは何かなど、幅広い視点から保健・医療・福祉を理解する。					
<b>授 業 計 画</b>					
1	医療コミュニケーションの原点にさかのぼる  医療と看護の原点－病と癒し				
2	医療の歩みと医療観の変遷				
3	私たちの生活と健康①（A～E）				
4	私たちの生活と健康②（F）  科学技術の進歩と現代医療の最前線				
5	現代医療の新たな課題①				
6	現代医療の新たな課題②				
7	医療を見つめ直す新しい視点				
8	終 講 試 験				
評価方法	終講試験（100％）で評価を行う。				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度① 総合医療論 著：小泉俊三〔ほか〕 医学書院				
参考図書					
履修上の注意	各回、講義および小テストにて授業を行う。 （小テストは評価には使用しないが、出席状況や習熟席の確認のために行う。）				

専門基礎分野	医療経済論	1 単位 15 時間	1 学年後期	講師名	大崎 泰正 浜田 淳
授業目標					
経済学の基礎と概要を理解し、社会における医療の役割、問題点とその背景を医療経済の視点から考察する。					
授 業 計 画					担当教員
1	経済学の基本原理。市場と価格の働き				大崎
2	経済をはかる「ものさし」。経済の「波」と「流れ」。 お金と経済				
3	日本経済の世界とのつながり。日本経済の問題。				
4	患者にとって望ましい医療・介護サービスとは何だろうか？				浜田
5	日本の医療と現状の課題				
6	日本の人口・財政とこれからの医療・介護				
7	医療・介護の費用とサービスの管理				
8	終 講 試 験				
評価方法	【大崎】 終講試験 100% 【浜田】 同上				
テキスト	【大崎】 使用しない。資料を配布する 【浜田】 資料を配布する				
参考図書	【大崎】 ◇マンキュー入門経済学 著：N・グレゴリー・マンキュー 東洋経済新報社 【浜田】 ◇はじめての社会保障 著：棕野美智子・田中耕太郎 有斐閣				
履修上の 注意点					

専門基礎分野	看護関連法令	1 単位 15 時間	2 学年後期	講師名	福田 伸子 中島 裕子
<p>授業目標</p> <p>看護師に必要な保健・医療・福祉に関する諸制度とその関係法規について学び、看護の役割及び与えられた責務を正しく遂行するために、看護業務に関連する法律を理解できる。</p>					
授 業 計 画					担当教員
1	法の概念				福田
2	保健衛生法 ① 共通保健法 ② 分野別保健法 ③ 感染症に関する 法薬務法 ① 医薬品 ② 毒物等				
3	環境衛生法 ① 営業 ② 環境整備 社会保険法 ① 費用保障 ② 年金・手当				
4	福祉法 ① 共通的福祉 ② 分野別福祉 労働法と社会基盤整備 ① 労働法 ② 社会基盤整備等 環境法 ① 環境保全の基本法 ② 公害の防止法 ③ 自然保護法				
5	医療法 保健師助産師看護師				中島
6					
7					
8	終 講 試 験				
評価方法	終講試験 100%				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令 著：森山幹夫 医学書院				
参考図書					
履修上の注意					

専門基礎分野	社会保障	1 単位 15 時間	1 学年後期	講師名	中田 雅章
<b>授業目標</b> 社会保障制度・社会福祉制度は、医療福祉の総合的サービスの供給体制における連携が重要である。保健・医療・福祉チームの一員として対象者の生活へのトータルケアマネジメントの視点を持ち、その役割と機能を学ぶ。					
<b>授 業 計 画</b>					
1	社会保障と社会福祉とは ① 社会保障の考え方 ② 欧米における社会福祉の発達 ③ 日本における社会福祉の発達				
2	社会福祉制度 ① 母子福祉の現状 ② 児童福祉の現状政策 ③ 障害者福祉の現状				
3	④ 高齢者福祉の現状 ⑤ 医療福祉の現状と課題				
4	医療保障と介護保障 ①医療保険制度				
5	②介護保険制度				
6	年金保障と公的扶助 ① 年金制度				
7	② 生活保護制度				
8	終 講 試 験				
評価方法	終講試験 100%				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③ 社会保障・社会福祉 著：福田素生[ほか] 医学書院				
参考図書					
履修上の 注意点					

専門基礎分野	公衆衛生学	1 単位 30 時間	2 学年後期	講師名	末丸 克矢
授業目標					
公衆衛生の概念と歴史を学び、生活者の健康保持・増進のための公衆衛生活動を理解する。 保健衛生行政や疾病の疫学と予防について理解する。					
授 業 計 画					
1	公衆衛生の概念				
2	日本における社会保障制度および医療制度				
3	環境衛生				
4	食品衛生				
5	感染症（1）：感染症の疫学と分類				
6	感染症（2）：主な感染症の発生状況と感染予防対策				
7	疫学（1）：記述疫学と分析疫学				
8	疫学（2）：症例対照研究と要因対照研究				
9	保健統計（1）：人口静態と人口動態				
10	保健統計（2）：母子統計と母子保健				
11	老人保健				
12	精神保健				
13	成人保健（1）：がん				
14	成人保健（2）：生活習慣病				
15	終 講 試 験				
評価方法	期末試験（100%）と平常点により評価する				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度② 公衆衛生 著：神馬征峰[ほか] 医学書院				
参考図書					
履修上の 注意点					





# 専門分野 I



専門分野 I	看護学概論	1 単位 30 時間	1 学年前期	講師名	中島 裕子
<b>授業目標</b> 看護の歴史を概観するとともに「人間」「環境」「健康」「看護」の概念を元に看護の対象である人間理解、健康の概念、看護とは何かを学ぶ。さらに看護観を培うことの意義を学習する					
<b>授 業 計 画</b>					
1	1. 看護とは ①看護の本質				
2	②看護の役割と機能				
3	③看護の継続と情報共有				
4	2. 看護の対象の理解 ①人間の心と体				
5	②生涯発達し続ける存在				
6	③人間の暮らしの理解				
7	④看護の対象としての家族・集団・地域				
8	3. 国民の健康・生活の全体像の把握 ①健康のとらえ方				
9	②国民のライフサイクルと健康生活				
10	4. 看護の提供者 ①職業としての看護 ②看護職の資格と養成				
11	③看護職者の就業状況と継続教育				
12	5. 看護の提供の仕組み ①サービスとしての看護 ②看護サービスの提供の場 ③看護をめぐる制度と政策				
13	④看護サービスの管理 ⑤リーダーシップとフォロー				
14	6. 看護の活動領域				
15	終 講 試 験				
評価方法	筆記試験 100%で評価する				
テキスト	◇系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学① 看護学概論 著：茂野香おる他 医学書院 ◇看護覚え書き 著：F・ナイチンゲール 訳：湯槇ます [ほか] 現代社 ◇看護の基本となるもの 著：ヴァージニア・ヘンダーソン 訳：湯槇ます [ほか] 日本看護協会出版 ◇キラリ看護 著：川島みどり 医学書院 ◇看護者の基本的債務 監修：手島恵 日本看護協会出版社				
参考図書					
履修上の 注意点					

専門分野 I	看護理論	1 単位 30 時間	1 学年後期	講師名	横田 育代
<b>授業目標</b> 1. 看護理論家が生み出した看護理論の内容を理解し、理論の骨格を理解する事が出来る。 2. 学習した理論を、活用する方法を理解することが出来る。					
<b>授 業 計 画</b>					
1	1. 看護理論とは何か 1) 看護理論の範囲とメタパラダイム「人間」「環境」「健康」「看護」				
2	2 看護理論の歴史的展開				
3	2. 主要な看護理論と看護の展開				
4	1) フローレンスナイチンゲル・・・「環境論」による事例展開				
5	2) バージニアヘンダーソン・・・「ニード論」による事例展開				
6					
7	3) Dorothea E. Orem・・・「セルフケア不足」による事例展開				
8	4) Sister Callista Roy・・・「適応モデル」による事例展開				
9	5) Joyce Travellbee・・・「人間対人間の関係モデル」による事例展開				
10	6) Martha E. Rogera・・・「統一された人間モデル」による事例展開 7) Hildegard E. Peplau・・・「人間関係の看護論」による事例展開				
11	8) Ernestine Wiedenbach・・・「臨床看護における援助技術」による事例展開				
12	9) Patricia Benner・・・「看護実践における卓越性とパワー」を理解する 10) Madeleine M. Leininger・・・「文化的ケア理論」を理解する				
13	11) Marjory Gordon・・・「機能的健康パターンによる看護診断」による事例展開				
14	1) 看護過程の構成要素 2) 看護診断過程における看護アセスメント 3) 機能的健康パターンと NANDA-1 看護診断 4) 機能的健康パターンの理論的背景				
15	終 講 試 験				
評価方法	終講試験・レポート				
テキスト	◇系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学①看護概論 著：茂野香 ◇誰でもわかる看護理論 著：城ヶ端初子 サイオ出版 ◇ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 編集：江川隆子 NOUVELLE HIROKAWA				
参考図書					
受講上の留意点					

専門分野 I	基礎看護学援助論 I 対人関係成立の技術	1 単位 30 時間	1 学年前期	講師名	井上 順子
授業目標					
1. 人間関係成立の、発展的で効果的なコミュニケーションのための知識・技術・態度を理解する。 2. 看護におけるコミュニケーションの基礎を学び、看護での教育・指導の方法を理解する。					
授 業 計 画					
1	看護技術を学ぶにあたって ①技術とはなにか ②看護技術の特徴 ③看護技術の範囲 ④看護技術を適切に実践するための要素				
2	コミュニケーションとは ①コミュニケーションの定義・意義と目的 ②コミュニケーションの構成要素と成立過程				
3	コミュニケーションの構成要素と成立過程				
4	ロールプレイング、自己分析・自己理解				
5	関係構築のためのコミュニケーションの基本 ①接近性コミュニケーションの原理 ②接近的行動と非接近的行動				
6	効果的なコミュニケーションの技術 ①コミュニケーションの技法				
7	②情報収集の技術（問診、面接） ③説明の技術				
8	看護におけるコミュニケーション、意義・目的・対象について アサーティブネスについて効果的なコミュニケーションの実際				
9	看護におけるコミュニケーション役割と看護実践の過程				
10	看護コミュニケーションの展開				
11	コミュニケーション演習				
12					
13	コミュニケーション障害がある人への対応				
14	全体まとめ				
15	終 講 試 験				
評価方法	終講試験 90% レポート 10%				
テキスト	◇系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I 著：有田清子 [ほか] 医学書院 ◇人間関係づくりトレーニング 著：星野欣生 金子書房				
参考図書	考える基礎看護技術 I 編：坪井良子，松田たみ子 ノーベルヒロカワ				
学生へメッセージ	ロールプレイングを行い、コミュニケーションの重要性、自己の特徴を理解していきます。 コミュニケーションスキルをアップし、話し上手・聴き上手を目指しましょう。DVD 使用				

専門分野 I	基礎看護学援助論Ⅱ 療養環境に関する技術	1 単位 30 時間	1 学年前期	講師名	陣内 真剛 君波 学
授業目標					
1. 人間にとっての環境の意味を理解し、健康的な生活環境を整えるための知識と援助方法を習得する。					
2. 感染予防の基本的知識および、感染予防を推進する技術を習得する。					
授 業 計 画					
1	1. 療養生活の環境 1) 環境の意義 2) 環境を整える技術 (1) 快適さ (2) 病室の環境 (3) 病室を整える (4) 環境のアセスメント	陣内			
2	2. 援助の実際 ・ベッド周囲の環境整備 ・病床を整える ・マットレス、枕の条件				
3 演習	3. ベッドメイキングの実際 ・リネンのたたみ方				
4 演習	援助の実際 ベッドメイキング ・クロズドベッド				
5 演習	援助の実際 ベッドメイキング ・オープンベッド				
6 演習	援助の実際 ・ベッドメイキング				
7 演習	援助の実際 ・ベッドメイキング				
8 演習	援助の実際 ・臥床患者のシーツ交換				
9 演習	・ベッド周囲の環境整備				
10	3. 感染防止の技術 1) 感染予防の基礎知識 (1) 感染成立の条件 (2) 感染を予防するためのプロセス (3) 院内感染の防止 2) 感染性廃棄物の取り扱い	君波			
11	3) スタンダードプリコーション ・標準予防策の基礎知識				
12	4) 感染経路別予防策 5) 洗浄・消毒・滅菌 6) 無菌操作 (1) 無菌操作の基礎知識				
13 演習	4. 対策の実際 ・衛生的な手洗い ・個人防護用具 ・無菌操作				
14 演習					
15	終 講 試 験				
評価方法	終講試験 100% 陣内：60%、君波：40%				
テキスト	◇系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ著：有田清子 [ほか] 医学書院				
参考図書	看護技術プラクティス [第3版 動画付き] 監修：竹尾恵子 学研				
履修上の 注意点	演習前の事前学習は確実にを行うこと。				

専門分野 I	基礎看護学援助論Ⅲ 安楽・活動と休息に関する技術	1 単位 30 時間	1 学年前期	講師名	兵頭 陽子
授業目標					
1. ボディメカニクスの基本原則を理解し、安全・安楽な体位でケアできる基本的な方法を学ぶ。 2. 活動（運動）・休息の意義を理解し、安楽な体位の援助技術を習得する。 3. 医療安全の基本的知識を理解し、防止方法を習得する。					
授 業 計 画					
1	1. 基本的活動の援助 1) 基本的活動の基礎知識 (1) よい姿勢 (2) ADL (3) ボディメカニクス				
2	2) 体位 (1) 基本体位 (2) 特殊体位				
3	3) 体位変換 ・援助の基礎知識				
4 演習	援助の実際 体位変換				
5 演習					
6	4) 移動 援助の基礎知識 ・車椅子 ・杖歩行				
7 演習	援助の実際 移乗・移送 ・車椅子 ・ストレッチャー ・杖歩行				
8 演習					
9	2. 苦痛の緩和・安楽確保技術 1) 体位保持（ポジショニング）の基礎知識				
10	3. 睡眠 ・休息の援助 睡眠の基礎知識				
11 演習	援助の実際 ・体位保持（ポジショニング）				
12 演習					
13	2) 褥法の基礎知識				
14	援助の実際 ・褥法（温褥法・冷褥法）				
15	終 講 試 験				
評価 方法	終講試験 90% レポート 10%				
テキ スト	◇系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 著：有田清子 [ほか] 医学書院				
参考 図書	看護技術プラクティス [第3版 動画付き] 監修：竹尾恵子 学研				
履修上の 注意点					

専門分野 I	基礎看護援助論Ⅳ 清潔・栄養・排泄	1 単位 30 時間	1 学年前期	講師名	楠野 真由美
<b>授業目標</b> 1. 人間の基本的欲求のひとつである清潔や衣生活について理解し、基本的欲求を充足するための基礎的知識・および援助技術を習得する。 2. 栄養と食事のニーズ・排泄のニーズを充足するための基礎的知識および援助技術を習得する。					
<b>授 業 計 画</b>					
1	清潔・衣生活の基本 ①健康な生活における清潔・衣生活の意義      ②衣生活の援助の必要性 ③衣類選択と管理における援助                      ④衣類着脱の援助方法と留意点 ⑤衣類の着脱の援助におけるアセスメントの視点				
2	身体の清潔 身体の清潔の意義 援助方法と援助方法の選択				
3	入浴・全身清拭				
4 演習	患者の全身清拭・寝衣交換の援助				
5 演習					
6 演習	臥床部分浴 洗髪				
7 演習	臥床部分浴 手浴・足浴				
8 演習					
9	食事援助の基礎知識 食事介助・口腔ケア				
10 演習	食事介助・口腔ケア				
11 演習					
12	排泄援助技術について 排泄の意義とメカニズム、アセスメントの方法				
13 演習	床上での排尿・排便の援助 ①尿器・便器    ②おむつを用いた援助 ③ポータブルトイレ・トイレでの援助              ④陰部洗浄				
14 演習					
15	終 講 試 験				
評価方法	終講試験 90% レポート 10%				
テキスト	◇系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 著：有田清子 [ほか] 医学書院				
参考図書	看護技術プラクティス [第3版 動画付き] 監修：竹尾恵子 学研				
学生へメッセージ	演習では手順をしっかりと自分のものにして臨んでください。				



専門分野 I	基礎看護学援助論V 観察技術（フィジカルアセスメント）	1 単位 30 時間	1 学年後期	講師名	筒井 智子 井上 順子
授業目標					
<p>看護の視点から対象者を身体的・心理的・社会的存在としてとらえ、ヘルスアセスメントを行うために必要な、生命徴候及び身体的健康状態をアセスメントできる基礎的知識・技術を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ヘルスアセスメントの意義目的を理解することができる。</li> <li>心理的アセスメント、社会的アセスメント、バイタルサイン及び系統的フィジカルアセスメントの実際について学ぶ。</li> <li>バイタルサイン、計測、フィジカルアセスメントの技術について演習を通して身につけることができる。</li> <li>習得した技術を看護に結び付けていく態度を養う。</li> </ol>					
授 業 計 画					
1	ヘルスアセスメントとは	1)ヘルスアセスメントの意義と目的			
2	健康歴とセルフケア能力のアセスメント				
3	全体の概要	1) 全身状態の把握 2) 心理・社会状態のアセスメント			
4	バイタルサインの観察とアセスメント	1) バイタルサインとは 2) 基礎知識と測定法			
5 演習	バイタルサイン：健康歴、全身状態、				
6 演習	バイタルサイン：体温・脈拍・呼吸・血圧				
7 演習					
8	計測 ・身長・体重・皮下脂肪厚・腹囲				
9	フィジカルアセスメント 1) フィジカルアセスメントの目的・基礎知識				
10	系統別フィジカルアセスメント 1)呼吸系 2)循環器系 3)乳房・腋窩 4)腹部 5)筋・骨格系 6)神経系 7)頭頸部 8)感覚器				
11 演習	フィジカルアセスメント：呼吸器				
12 演習	フィジカルアセスメント：循環器				
13 演習	フィジカルアセスメント：乳房・腋窩、腹部				
14 演習	フィジカルアセスメント：神経系 ほか				
15	終 講 試 験				
評価方法	終講試験 100% 筒井：50%、井上：50%				
テキスト	◇系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I 著：有田清子 [ほか] 医学書院				
参考図書	◇看護技術プラクティス [第3版 動画付き] 監修：竹尾恵子 Gakken				
履修上の 注意点	技術習得のためには体験を通して感覚的に理解しながら「身につける」学習となるようにしましょう。そのため、繰り返し技術練習を行い、より正確に観察できるための自己学習をしてください。				

専門分野 I	基礎看護学援助論VI 検査・与薬に関する技術	1 単位 30 時間	1 学年後期	講師名	岩崎 仁美 遠藤 富士子
授業目標					
1. 与薬における看護師の役割を学び、与薬の基礎知識・援助方法を理解し、与薬の援助技術を習得する。 2. 皮膚損傷を管理する知識を理解し、創傷技術の実際を学ぶ 3. 診察・検査・処置時の看護師の役割を学び、処置・検査の援助を学ぶ。					
授 業 計 画					担当教員
1	1. 与薬の技術 1) 与薬の基礎知識				岩崎
2	2) 経口与薬 3) 吸入 4) 点眼 5) 点鼻 6) 経皮的与薬 7) 直腸内与薬				
3					
4	8) 注射 9) 輸血管理				
5					
6 演習	2. 注射の実際 1) 皮下注射				
7 演習	2) 筋肉注射				
8 演習					
9 演習					
10	3. 創傷管理技術 1) 創傷管理の基礎知識 2) 創傷処置 3) 褥瘡予防				遠藤
11	4. 症状・生体機能管理技術 1) 症状・生体機能管理技術の基礎知識 2) 検体検査 3) 生体情報のモニタリング				
12	5. 診察・検査・処置の介助技術 1) 診察の介助 2) 生体検査 3) 穿刺の介助 4) 洗浄の介助				
13 演習	6. 検体検査の実際 1) 静脈血採血				岩崎
14 演習					
15	終 講 試 験				
評価 方法	終講試験 90% (岩崎:70%、遠藤 20%) レポート 10%				
テキスト	◇系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術II 著:有田清子 [ほか] 医学書院				
参考 図書	◇看護技術プラクティス [第3版 動画付き] 監修:竹尾恵子 ◇看護技術 DVD 学習支援シリーズ 安全で確かな与薬① 編:高屋尚子 インターメディカ ◇看護技術 DVD 学習支援シリーズ 安全で確かな与薬② 編:高屋尚子 インターメディカ ◇看護学学習辞典(第3版) 監修:大橋優美子(ほか) 学研メディカル秀潤社				
履修上の 注意点	事前学習の根拠と留意点を理解し、演習に臨みましょう。				

専門分野 I	基礎看護学援助論Ⅶ 看護過程	1 単位 30 時間	1 学年後期	講師名	畑島 由美子
<b>授業目標</b> 看護を行う上での思考過程として概要を学び、看護の対象者がもつ問題を明確にして解決していく過程を習得する。					
<b>授 業 計 画</b>					
1	看護過程の構成要素と基盤となる考え方				
2	看護過程の各段階 アセスメント（ヘンダーソンの枠組み・ゴードンの枠組み） 患者の把握の方法として				
3	看護過程の各段階 アセスメント（情報収集と分析）				
4	看護過程の各段階 アセスメントの統合と関連図				
5	看護過程の各段階 看護問題の明確化・看護計画立案・実施				
6	看護過程の各段階 看護実践の評価・要約／看護記録について				
7	小テスト 事例展開演習の進め方 事例紹介 アセスメントの視点				
8	事例展開演習 - アセスメント - アセスメントと関連図の視点				
9	事例展開演習 - アセスメント - 関連図 -				
10	事例展開演習 - 統合・看護診断				
11	事例展開演習 - 看護計画立案				
12	事例展開演習 - 看護計画立案				
13	事例展開演習 - 実施 記録（SOAP）				
14	事例展開演習 - 評価・看護要約				
15	事例展開演習 - まとめ				
評価方法	小テスト（10％） 演習提出状況（20％） 事例展開（70％）				
テキスト	◇系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I 著：有田清子〔ほか〕 医学書院 ◇ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 編：江川隆子 ノーヴェルヒロカワ ◇看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践〔第4版〕著：秋葉公子〔他〕 ノーヴェルヒロカワ ◇基準看護計画 第2版 編：矢田昭子〔ほか〕 照林社 ◇NANDA－I 看護診断一定義と分類 2015-2017 原書第10版 原書編：T.ヘザー・ハードマン，上鶴重美 医学書院				
参考図書	◇看護過程に沿った対症看護 監修：高木永子 学研メディカル秀潤者				
履修上の 注意点	看護を実践していく上で軸となるものです。1回1回の授業を大切にして、課題に取り組んでください。				

専門分野 I	基礎看護学援助論演習	1 単位 30 時間	2 学年前期	講師名	原田 亜樹 筒井 智子 遠藤 富士子
授業目標					
1. 看護を必要とする対象の疾患、症状、治療、処置を関連づけ、看護技術のエビデンスに基づき、基本技術・援助技術を統合し、援助を実践するための基礎的能力を習得する。					
授 業 計 画					担当教員
1	排泄困難を訴える患者の援助 ① 間欠的導尿 ② 持続的導尿（膀胱留置カテーテル）				原田
2	援助の実際 導尿				
3	排泄困難を訴える患者の援助 ① 摘便 ② 浣腸				
4	援助の実際 浣腸				
5	排泄困難を訴える患者の看護 ③ ストーマ				遠藤
6	呼吸困難を訴える患者の看護 ① 酸素吸入療法（カニューラ・マスク・中央配管式・酸素ボンベ使用）				
7	呼吸困難を訴える患者の看護 ① 人口呼吸器を装着した患者の看護				
8	吸引を必要とする患者の看護				
9 演習 10 演習	吸引（モデル人形・口腔内・鼻腔内・気管内） 排痰ケア（体位・タッピング・ハフフィン・スクウィーミング） 吸入（ドライパウダー吸入・加圧式定量噴霧吸入・ネブライザー使用）				
11	嚥下困難を訴える患者の看護 ① 経鼻経管栄養法 ② 経瘻管栄養法 ③ 非経口栄養法				筒井
12 演習 13 演習	モデル人形を使用しての経鼻経管栄養法				
14	救急救命処置の基礎知識				
15	終 講 試 験				遠藤
評価方法	終講試験 90%（原田 35%、遠藤 35%、筒井 20%） レポート 10%				
テキスト	◇系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I 著：有田清子 [ほか] 医学書院 ◇系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術 II 著：有田清子 [ほか] 医学書院				
参考図書	看護技術プラクティス [第 3 版 動画付き] 監修：竹尾恵子 学研				
履修上の 注意点	根拠を考えながら演習をイメージして、授業に取り組みましょう				

# 専門分野Ⅱ



専門分野Ⅱ	成人看護学概論 看護の対象と目的	1 単位 30 時間	1 学年後期	講師名	藤堂 由里
授業目標					
1. 成人期の特徴、心理的・社会的特徴と発達段階の特徴が理解できる。 2. 成人期の保健の動向が理解できる。 3. 成人期における健康障害の特徴とその対応策、予防策が理解できる。 4. 健康レベルからみた成人看護の特徴が理解できる。 5. 成人看護学で用いられる代表的な看護理論を理解できる。					
授 業 計 画					
1	成人看護学の対象論、成人看護学の援助論				
2	成人保健の動向 ①人口静態、人口動態				
3	成人保健の動向 ②生活習慣病と健康増進対策				
4	成人の発達段階				
5	保健・医療・福祉における動向と課題 ①成人期における健康障害の特徴				
6	保健・医療・福祉における動向と課題 ②一次、二次、三次予防の現状と対応				
7	成人期にある人の健康 ヘルスプロモーションを必要とする対象				
8	成人期にある人の健康 治療を必要とする対象 ①急激な身体侵襲により急性期にある患者 ②慢性的な経過をたどる健康障害の患者				
9	成人期にある人の健康 治療を必要とする対象 ③リハビリテーションを必要とする患者				
10	成人期にある人の健康 健康の再構築への支援を必要とする対象				
11	成人期にある人の健康 ターミナル期の援助を必要としている対象				
12	成人看護に使用される理論・モデル ①ストレス理論 ②自己効力理論				
13	成人看護に使用される理論・モデル ③エンパワーメント ④アンドラゴジー ⑤不確かさ				
14	成人看護に使用される理論・モデル ⑥アドヒアランス ⑦病みの軌跡				
15	終 講 試 験				
評価方法	終講試験 100%				
テキスト	◇成人看護学概論 第2版 編集：大西和子、岡部聡子 ノーヴェルヒロカワ				
参考図書	◇看護過程に沿った対症看護 監修：高木永子 学研メディカル秀潤社 ◇疾患別看護過程の展開 第4版 監修：山口瑞穂、関口恵子 学研 ◇国民衛生の動向				
履修上の 注意点					

専門分野Ⅱ	成人看護学援助論Ⅰ 生活行動に障害のある患者の看護	1 単位 30 時間	2 年生前期	講師名	藤堂 由里 畑島 由美子
授業目標					
1. 生活行動に障害のある患者の特徴、看護の役割が理解できる。 2. 各機能障害にある患者を総合的に理解し、予測される問題や解決のための基本的な看護援助方法が理解できる。					
授 業 計 画					担当
1	慢性の脳・神経機能障害のある患者の看護 主な症状と病態生理 ①高次機能障害、②運動機能障害、③感覚機能障害				藤堂
2	脳梗塞患者の看護				藤堂
3	循環機能障害のある患者の看護 主な症状と病態生理、症状に対する看護 ①胸痛、②呼吸困難、				藤堂
4	主な症状と病態生理、症状に対する看護 ③浮腫、④チアノーゼ、				藤堂
5	主な症状と病態生理、症状に対する看護 ⑤動悸、⑥失神				藤堂
6	慢性心不全患者の看護①				藤堂
7	慢性心不全患者の看護②				藤堂
8	身体防御機能障害のある患者の看護、運動機能障害のある患者の看護 ①SLE 患者の看護、②リウマチ患者の看護				藤堂
9	感覚機能障害のある患者の看護				藤堂
10	栄養代謝能障害のある患者の看護 主な症状と病態生理 ①腹痛、②吐血・下血、③腹部膨満、④腹水、⑤黄疸、⑥肝性脳症				畑島
11	肝炎患者の看護				畑島
12	肝硬変患者の看護				畑島
13	消化吸収機能障害のある患者の看護 膵炎患者の看護				畑島
14	潰瘍性大腸炎				畑島
15	終 講 試 験				
評価方法	終講試験 100% (藤堂 70%、畑島 30%)				
テキスト	◇成人看護学 慢性期看護論 第3版 編集：鈴木志津枝、藤田佐和 ノーベルヒロカワ ◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑦ 脳・神経 著：竹村信彦 医学書院 ◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学③ 循環器 著：吉田俊子 医学書院 ◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器 著：松田明子 医学書院 ◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑪ アレルギー膠原病感染症 著：岩田健太郎 医学書院 ◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑬ 眼 著：大鹿哲郎 ◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑭ 耳鼻咽喉 著：小松浩子				
参考図書	◇看護過程に沿った対症看護 監修：高木永子 学研メディカル秀潤社 ◇疾患別看護過程の展開 第4版 監修：山口瑞穂、関口恵子 学研				
履修上の注意					



専門分野Ⅱ	成人看護学援助論Ⅱ 周手術期にある患者の看護	1 単位 30 時間	2 学年前期	講師名	君波 学
授業目標					
1. 手術侵襲による生体反応を理解することができる。 2. 術前・術中・術後に応じた看護の役割を理解することができる。 3. 主要な術後合併症の要因、患者への影響、予防的ケア・対処ケアを理解することができる。 4. 手術後の自己管理に関する援助を理解することができる。					
授 業 計 画					
1	周手術期の考え方 周手術期看護の特徴 ①手術侵襲による生体反応 ②周手術期にある人への看護援助の特徴				
2	周手術過程に応じた看護 周手術過程に応じた看護 術前の看護 インフォームドコンセント / 手術オリエンテーション 身体準備 / 手術室入室				
3	術中の看護 麻酔導入・手術体位の固定/看護師の役割/麻酔覚醒時の援助				
4	術後合併症予防の看護				
5	術後の看護				
6	術直後のモニタリング / 術後回復促進ケア/退院に向けたケア 術後合併症と予防のための看護技術				
7	術式による特徴的な手術看護				
8	1) -①消化・吸収機能障害のある患者の看護 / 開腹術 (胃)				
9	1) -②消化・吸収機能障害のある患者の看護 / 開腹術 (大腸)				
10	1) -③消化・吸収機能障害のある患者の看護 / ストーマ造設				
11	2) -①呼吸機能障害のある患者の看護 / 開胸術 (肺) / 胸腔内ドレナージ管理				
12	3) -①循環機能障害のある患者の看護 / PCI (冠動脈)				
13	4) -①脳・神経機能障害のある患者の看護 / 脳室ドレナージ管理				
14	①その他特徴的な手術看護 (乳がん、子宮がん) / 腹腔鏡下手術 ②手術後の自己管理に向けた援助				
15	周手術期看護に必要な看護技術、生体情報のモニタリング 離床の進め方/弾性ストッキング/臍処置/輸液ポンプ・シリンジポンプ 心電図 (標準十二誘導心電図・心電図モニター)・経皮的動脈血酸素飽和度・血管留置カテーテルモニター				
16	終 講 試 験				
評価方法	終講試験 (100%)				
テキスト	◇周手術期看護論 編：雄西智恵美, 秋元典子 スーヴェルヒロカワ ◇系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 著：矢永勝彦, 小路美喜子 医学書院 ◇系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 著：北島政樹, 江川幸二 医学書院				
参考図書	◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学①成人看護学総論 医学書院				
履修上の注意点					

専門分野Ⅱ	成人看護学援助論Ⅲ 緩和ケアを必要とする患者の看護	1 単位 30 時間	2 学年後期	講師名	畑島 由美子
<p>授業目標：終末期にある人の身体的・心理的・社会的・スピリチュアル的变化・症状について学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 終末期・緩和ケア・ホスピスケアの定義、理念、制度、倫理的課題について理解できる。</li> <li>2. 終末期にある患者の代表的な症状が患者に与える影響及び緩和方法を理解できる。</li> <li>3. がん医療、がん治療の基本的な考え方と治療に対する看護が理解できる。</li> <li>4. がん患者とその家族の特徴と援助について理解できる。</li> <li>5. 白血病・乳がん・子宮がんの病態生理、アセスメントに必要な観察ポイント、看護ケアのポイントが理解できる。</li> </ol>					
授 業 計 画					
1	人生の最期のときを支える看護	終末期医療	倫理的課題		
2	終末期にある人の理解	身体的変化	全人的苦痛		
3	終末期にある人とその家族への援助	死の受容過程	予期敵悲嘆 悲嘆 エンゼルケア		
4	終末期にある人の症状と緩和ケア①	倦怠感・浮腫・呼吸器症状・消火器症状・精神症状			
5	終末期にある人の症状と緩和ケア②	痛みと痛みに対する薬剤の活用とその副作用対策			
6	がん医療の現在	がん治療の場	がんの病態と臨床経過		
7	がん患者の看護	がん患者の心理的サポート			
8	がん治療に対する看護①	手術療法・薬物療法・放射線療法			
9	がん治療に対する看護②	手術療法・薬物療法・放射線療法			
10	造血機能障害をもつ患者の看護	白血病をもつ患者の看護			
11	がん治療に対する看護	造血幹細胞移植の看護			
12	女性生殖器におけるがん疾患の看護	乳がん			
13	女性生殖器におけるがん疾患の看護	子宮がん			
14	事例展開				
15	終 講 試 験				
評価方法	<p>課題レポート 30% 筆記試験 70%</p> <p>授業・グループワークへの参加姿勢、課題のレポート、および筆記試験等の評価点より総合的に評価する。</p>				
テキスト	<p>◇成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論 第2版 編集：鈴木志津枝、藤田佐和 ノーベルヒロカワ</p> <p>◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学① 成人看護総論 著：小松浩子 医学書院</p> <p>◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学④ 血液・造血器 著：飯野京子 医学書院</p> <p>◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑨ 女性生殖器 著：末岡 浩 医学書院</p>				
参考図書	<p>◇看護過程に沿った対症看護 監修：高木永子 学研メディカル秀潤社</p> <p>◇疾患別看護過程の展開 第4版 監修：山口瑞穂、関口恵子 学研</p> <p>◇系統看護学講座 別館 がん看護学 著：小松浩子 医学書院</p>				
履修上の注意	<p>事前・事後学習が重要になるので、主体的に取り組みましょう。</p> <p>事前学習：事前に教科書を読み、授業計画に示した代表的な疾患の治療、検査、看護のポイントをおさえおきましょう。</p> <p>事後学習：事前に整理したポイントを講義で学習した内容を踏まえて追加、修正しましょう。</p>				

専門分野Ⅱ	成人看護学援助論Ⅳ 生命の危機状態にある 患者の看護	1 単位 30 時間	2 学年後期	講師名	君波 学
授業目標					
1. 生命危機状態にある対象の身体的特徴を理解する。 2. 生命危機状態にある対象および家族の心理、社会的特徴を理解する。 3. 救命救急時の基本的技術を習得する。 4. クリティカルな場における看護師の役割を理解する。					
授 業 計 画					
1	急性期看護の特性 ①救急看護の概念と現状 ②看護師に求められる能力と場の特徴 ③急性期にある人とその家族の特徴				
2	ショック状態にある患者の看護 / 播種性血管内凝固を合併した患者の看護				
3	急性の循環機能障害のある患者の看護 循環機能障害患者の特徴と看護師の役割”				
4	急性の循環機能障害のある患者の看護 / 急性心筋梗塞				
5	急性の生体防御機能障害のある患者の看護 ①熱傷				
6	②急性中毒				
7	急性の脳・神経機能障害のある患者の看護 / くも膜下出血				
8	集中治療下での看護 ① 呼吸管理 / 人工呼吸器装着中の患者の看護				
9	② 体液・循環管理 / 体液バランスと循環のモニタリング ②心臓カテーテル・中心静脈圧 ③心理・精神的支援				
10	事例展開 : グループワーク 事例紹介 / ①看護計画作成 ②グループ発表				
11					
12					
13	救急処置法の実際				
14	BLS (成人、小児・幼児、乳児) ALS (成人)				
15	終 講 試 験				
評価方法	終講試験 (80%) レポート (20%)				
テキスト	◇成人看護学 急性期看護論 ヌーベルヒロカワ ◇成人看護学 救急看護論 ヌーベルヒロカワ ◇系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 著: 矢永勝彦, 小路美喜子 医学書院 ◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学② 呼吸器 著: 川村雅文 医学書院 ◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学③ 循環器 著: 吉田俊子 医学書院 ◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学④ 血液・造血器 著: 飯野京子 医学書院 ◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑦ 脳・神経 著: 吉岡成人 医学書院				
参考図書	◇疾患別看護過程の展開 第4版 監修: 山口瑞穂子, 関口恵子 学研				
履修上の注意					

専門分野Ⅱ	成人看護学援助論Ⅴ 生涯にわたり健康コントロールを 必要とする対象者の看護	1 単位 30 時間	2 学年前期	講師名	藤堂 由里
授業目標					
<ol style="list-style-type: none"> <li>慢性病患者の「病みの軌跡」、セルフケアマネジメント、セルフケアマネジメント支援を理解する。</li> <li>慢性腎不全、糖尿病患者への代表的な看護技術が理解できる。</li> <li>糖尿病患者の事例を通して、看護過程を展開できる。</li> <li>慢性腎不全患者へのパンフレットの作成を通して、個別性を踏まえた患者指導を行うことができる。</li> </ol>					
授 業 計 画					
1	慢性期看護の考え方				
2	慢性期にある人の特徴				
3	慢性期にある人への看護援助 QOL、セルフケア支援、行動変容を促す支援				
4	慢性の内部環境調節障害のある患者の看護 甲状腺機能障害				
5	慢性の内部環境調節障害のある患者の看護 慢性腎不全をもつ患者の看護① 疾患、治療				
6	慢性腎不全をもつ患者の看護② 看護 血液透析、腹膜透析				
7	慢性腎不全をもつ患者の看護③ パンフレット作成（シャント）				
8	慢性の代謝機能障害にある患者の看護 糖尿病をもつ患者の看護① 疾患、治療、				
9	糖尿病をもつ患者の看護② 看護、事例提示				
10	糖尿病をもつ患者の看護③ アセスメント				
11	糖尿病をもつ患者の看護④ 関連図				
12	糖尿病をもつ患者の看護⑤ 問題点抽出				
13	糖尿病をもつ患者の看護⑥ 看護計画立案				
14	糖尿病をもつ患者の看護⑦ 評価 まとめ				
15	終 講 試 験				
評価方法	終講試験 80%、レポート 20%				
テキスト	◇成人看護学 慢性期看護論 第3版 編集：鈴木志津枝、藤田佐和 ノーヴェルルヒロカワ ◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑥ 内分泌・代謝 著：吉岡成人 医学書院 ◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑧ 腎・泌尿器 著：河邊博史 医学書院				
参考図書	◇看護過程に沿った対症看護 監修：高木永子 学研メディカル秀潤社 ◇疾患別看護過程の展開 第4版 監修：山口瑞穂，関口恵子 学研				
履修上の 注意点					

専門分野Ⅱ	老年看護学概論 看護の対象と目的	1 単位 30 時間	1 学年後期	講師名	原田 亜樹
<b>授業目標</b> 1. 高齢者を取り巻く社会の動向を理解する。 2. 高齢者の身体的、心理的、社会的特徴を理解する。 3. 高齢社会における保健医療福祉制度や施策を理解する。 4. 老年看護の役割と機能、看護活動の場を理解する。					
<b>授 業 計 画</b>					
1	老いるということ ①加齢と老化 ②身体的・心理的・社会的側面の変化				
2	老いを生きるということ ①ライフヒストリー ②死生観 ③スピリチュアリティ				
3	老年期の発達課題 ①エリクソン ②ベック ③ハヴィガースト				
4	高齢社会の統計的輪郭				
5	高齢社会における保健医療福祉の動向				
6	①ソーシャルサポート ②介護保険制度 ③高齢者医療制度				
7	高齢社会における権利擁護 ①スティグマ ②エイジズム ③アドボカシー ④高齢者虐待 ⑤身体拘束 ⑥成年後見制度 ⑦日常生活自立支援事業				
8	老年看護のなりたち 老年看護の定義				
9	老年看護の役割 ①老年看護の特徴 ②理論・概念の活用 ③老年看護に携わる者の責務				
10	身体に加齢変化とアセスメント				
11	①看護師が行うアセスメント				
12	②皮膚とその付属器 ③視聴覚とその他の感覚 ④循環系 ⑤呼吸器				
13	⑥消化・吸収 ⑦ホルモンの分泌 ⑧泌尿生殖器と性 ⑨運動系				
14	高齢者疑似体験・発表				
15	終 講 試 験				
評価 方法	授業後に授業内容について小テストを実施する 授業の理解を小テスト（10％）・レポート（20％）・終講試験（70％）で総合評価する				
テキ スト	◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 著：北川公子 医学書院 ◇国民衛生の動向				
参考 図書	◇ナースिंगグラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 編：堀内ふき，大淵律子，諏訪さゆり メディカ出版				
履修上の 注意点	2025 年の高齢化率最高の時期に向けて老年看護の質は看護全体の質の評価になります。 優しさ、共感力だけでなく、しっかりとした知識に基づいた全体論的な看護の視点を定めてください。				

専門分野Ⅱ	老年看護学援助論Ⅰ 老年期の日常生活援助	1 単位 30 時間	2 学年前期	講師名	兵頭 陽子
授業目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の日常生活機能を整えるために必要な看護について理解する。</li> <li>・高齢者の特性をふまえた援助方法を理解する。</li> </ul>					
授 業 計 画					
1	高齢者によくみられる身体症状とアセスメント1 ①発熱②痛み③瘡痒④脱水				
2	高齢者によくみられる身体症状とアセスメント2 ⑤嘔吐⑥浮腫⑦倦怠感				
3	日常生活を支える基本的活動 ①基本動作と環境のアセスメントと看護				
4	日常生活を支える基本的活動 ②転倒のアセスメントと看護				
5	日常生活を支える基本的活動 ③廃用症候群のアセスメントと看護				
6	食事・食生活 ①食生活に着目する意義 ②高齢者に特徴的な変調				
7	食事・食生活 ③摂食・嚥下機能のアセスメントと看護 ④食事に対する看護				
8	排泄 ①排泄ケアの基本姿勢 ②排泄障害のアセスメントと看護				
9	排泄 ③排尿障害のアセスメントと看護 ④排便障害のアセスメントと看護				
10	清潔 ①清潔の意義 ②高齢者に特徴的な変調 ③清潔のアセスメント ④清潔の看護				
11	生活リズム ①高齢者と生活リズム ②高齢者に特徴的な変調 ③生活リズムのアセスメント ④看護 コミュニケーション ①高齢者とのコミュニケーションの特徴とかかわり方 ②高齢者におこりやすいコミュニケーション障害 ③コミュニケーション障害のアセスメントと看護				
12	保健医療福祉施設における看護				
13	高齢者と医療安全				
14	高齢者と救命救急・高齢者と災害看護				
15	終 講 試 験				
評価 方法	授業内で適宜実施する小テスト(10%) 終講試験(90%)で評価を行う				
テキ スト	◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 著：北川公子 医学書院 ◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 著：佐々木英忠 [ほか] 医学書院				
参考 図書	◇生活機能からみた 老年看護過程+病態・生活機能関連図 編：山田律子, 萩野悦子, 井出訓 医学書院 ◇根拠と事故防止からみた 老年看護技術 編集：亀井智子 医学書院				
履修上の 注意点	高齢者が日常生活を送る上でさまざまな障害となる症状を整えることにより高齢者のQOLの向上が図られます。				

専門分野Ⅱ	老年看護学援助論Ⅱ 老年期の健康障害時の看護	1 単位 30 時間	2 学年前期	講師名	原田 亜樹
授業目標					
1. 高齢者に特有な健康障害を理解する。 2. 健康障害に応じた援助方法を理解する。					
授 業 計 画					
1	薬物療法を受ける高齢者の看護 ①加齢に伴う薬物動態の変化 ②服薬管理 ③リスクマネジメント				
2	リハビリテーションを受ける高齢者の看護 ①意義と特徴 ②生活機能向上につなぐ看護				
3	受療形態に応じた高齢者への看護				
4	疾患を持つ高齢者の看護 ①骨粗鬆症 ②骨折 ③うつ病 ④せん妄 ⑤認知症 ⑥パーキンソン病 ⑦感染症（肺炎、結核、インフルエンザ、ノロウイルス）				
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11	高齢者の死にかかわる権利の擁護 ①終末期の捉え方 ②アドバンスディレクティブ ③リビングウィル				
12	高齢者の終末期における看護 ①家族の参加と支援 ②チーム支援の意義と役割				
13	終末期看護の実践				
14	介護する家族の生活と健康、介護する家族への看護				
15	終 講 試 験				
評価方法	授業の理解をレポート（20％）・終講試験（80％）で総合評価する				
テキスト	◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 著：北川公子 [ほか] 医学書院 ◇ナソググラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 編：堀内ふき，大淵律子，諏訪さゆり メディカ出版◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 著：佐々木英忠 [ほか] 医学書院				
参考図書	老年看護学 概論と看護の実践第5版 編：奥野茂代，大西和子 ニューヴェルヒロカワ				
履修上の 注意点	老年看護学は、老年期にある人の病気や障害のみ焦点をあてるのではなく、健康特性、健康障害を理解し、それに伴う生活障害を理解する。教科書による予習や講義中に配布した資料等の復習を行い高齢者の看護実践を考えながら講義に臨む。				

専門分野Ⅱ	老年看護学援助論Ⅲ 老年期の健康障害時の援助技術(看護過程)	1 単位 15 時間	2 学年後期	講師名	原田 亜樹
授業目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例をもとに健康障害をもつ高齢者の看護問題を理解する。</li> <li>・事例をもとに健康障害をもつ高齢者の看護過程を展開する基礎的能力を養う。</li> </ul>					
授 業 計 画					
1	高齢者の特徴を活かした看護過程の考え方				
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>①高齢者が望む生活を中心とした看護過程</li> <li>②生活行動モデルによる看護過程</li> <li>③目標志向型思考の看護過程</li> </ul>				
3	事例①認知症のある高齢者				
4					
5	事例②大腿骨頸部骨折の高齢者				
6					
7					
8	まとめ				
評価方法	小テスト（20％） 看護過程演習（80％）				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 著：北川公子〔ほか〕 医学書院</li> <li>◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 著：佐々木英忠〔ほか〕 医学書院</li> </ul>				
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇生活機能からみた 老年看護過程+病態・生活機能関連図 編：山田律子, 萩野悦子, 井出訓 医学書院</li> <li>◇根拠と事故防止からみた 老年看護技術 編集：亀井智子 医学書院</li> <li>◇基礎看護学援助論Ⅶ（看護過程）で使用したテキスト類</li> </ul>				
履修上の注意	高齢者に対して看護を展開する上で軸となる思考過程のトレーニングです。毎時間を大切に学習していきましょう。				



専門分野Ⅱ	小児看護学概論 看護の対象と目的	1 単位 30 時間	1 学年後期	講師名	郷木 義子
授業目標					
1. 小児の成長発達と発達課題を理解する。					
2. 小児のヘルスプロモーションと看護を理解する。					
3. 小児をとり巻く社会状況と動向を理解する。					
授 業 計 画					
1	子どものイメージ				
2	乳幼児期の子どもの成長発達と発達課題				
3	乳幼児期の子どもの成長発達と発達課題				
4	学童・思春期の子どもの成長発達と発達課題①				
5	学童・思春期の子どもの成長発達と発達課題②				
6	学童・思春期の子どもの成長発達と発達課題③				
7	成長・発達の原則と発育・発達の評価				
8	子どものヘルスプロモーションと看護 ー乳幼児ー				
9	子どものヘルスプロモーションと看護 ー学童ー				
10	子どものヘルスプロモーションと看護 ー思春期・青年期ー				
11	子どもと家族 ー子どもにとっての家族とはー				
12	小児をとり巻く社会状況と動向① ー小児を保護する法律・子どもの権利保障・子どもと家族の諸統計ー				
13	小児をとり巻く社会状況と動向② ー児童の健全育成と子育て支援・虐待防止 ー				
14	小児をとり巻く社会状況と動向③ ー生活スタイル・食事・遊びの変化・IT 社会が子どもに与える影響ー 小児医療と看護の変遷、今後の課題				
15	終 講 試 験				
評価 方法	レポートの提出 30% 終講試験 70%				
テキ スト	◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論 著：奈良間美保[ほか] 医学書院				
参考 図書					
履修上の 注意点					

専門分野Ⅱ	小児看護学援助論Ⅰ 小児の療養環境と看護	1単位 30時間	2学年前期	講師名	筒井 智子
授業目標					
1 健康障害が子どもと家族に及ぼす影響について理解し、子どもと家族への援助を学ぶ					
2 子どもの成長発達や健康上の課題に応じた看護を理解する。					
授 業 計 画					
1	第1章 病気・障害を持つ子どもと家族の看護 ①病気・障害が子ども・家族に与える影響 第2章 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 ①病気・障害が子ども・家族に与える影響				
2	②外来における子どもと家族の看護 救急外来における子どもと家族の看護				
3	③在宅療養中の子どもと家族の看護				
4	④災害時の子どもと家族の看護				
5	第3章 子どもにおける疾病の経過と看護 ①慢性期にある子どもと家族の看護 ②急性期にある子どもと家族の看護				
6	③周手術期の子どもと家族の看護 ④終末期に子どもと家族の看護				
7	第4章 子どものアセスメント ①バイタルサイン ②身体的アセスメント				
8	第5章 症状を示す子どもの看護 ①嘔吐 ②下痢				
9	第5章 症状を示す子どもの看護 ③発熱 ④疼痛				
10	第5章 症状を示す子どもの看護 ⑤脱水 ⑥呼吸困難				
11	第5章 症状を示す子どもの看護 ⑦けいれん ⑧意識障害				
12	第5章 症状を示す子どもの看護 ⑨発疹				
13	第7章 障害のある子どもと家族の看護 ①障害のとらえ方 ②障害のある子どもと家族の特徴 ③障害のある子どもと家族の社会的支援				
14	第8章 子どもの虐待と看護 ①子どもの虐待とは ②リスク要因と発生予防・早期発見 ③子どもの虐待に特徴的に見られる状況 ④求められるケア				
15	終 講 試 験				
評価方法	終講試験 100%				
テキスト	◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論 著：奈良間美保 [ほか] 医学書院				
参考図書					
履修上の注意	子どもの成長発達と健康障害を持つ子どもとその家族について学び、援助方法を考えましょう。日ごろから子どもの健康に関心を持ち、情報収集しましょう。				

専門分野Ⅱ	小児看護学援助論Ⅱ 小児の主な疾患と看護	1 単位 30 時間	2 学年後期	講師名	浦山 建治 野村 佳代
授業目標					
1 小児期に多い疾患、小児特有な疾患の病態生理を理解する。 2 小児の疾患や症状に対する診断・治療について理解する。 3 小児に必要な看護を理解する。					
授 業 計 画					担当教員
1	第1章 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常と看護 ①染色体異常（ダウン症候群、18トリソミーなど） ②出生前診断				野村
2	第2章 新生児疾患と看護 ①新生児の看護 ②新生児仮死、低酸素性虚血性脳症、先天性心疾患、呼吸窮迫症候群、メレナ 新生児一過性多呼吸症、胎便吸引症候群、無呼吸発作、新生児黄疸、頭蓋内出血、低出生体重児				
3	第3章 代謝性疾患と看護 ①新生児マスキング、先天性代謝異常、代謝性疾患（1型糖尿病） 第4章 内分泌疾患と看護 ①内分泌器官とフィードバック機構、下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患など				
4	第5章 免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ性疾患と看護 ①気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー 第7章 呼吸器疾患と看護 ①かぜ症候群、急性気管支炎、肺炎、急性喉頭炎				
5	第6章 感染性疾患と看護 ①子どもの感染に関する基礎知識 ②主な疾患（麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、インフルエンザ、結核など）				
6	第8章 循環器疾患と看護 ①先天性心疾患 ②川崎病 ③後天性心疾患 ④突然死など				浦山
7	第9章 消化器疾患と看護 ①食道閉鎖症、肥厚性幽門狭窄症、腸重積、胆道閉鎖症 ②急性胃腸炎、感染性胃腸炎など				
8	第10章 血液・造血器と看護 第11章 悪性新生物と看護 ①貧血、特発性血小板減少性紫斑病など ②急性リンパ性白血病、急性骨髄性白血病など ③小児がん				
9	第12章 腎・泌尿器および生殖器疾患と看護 ①急性腎炎、ネフローゼ症候群など ②停留睪丸など				野村
10	第13章 神経疾患と看護 ①けいれん性疾患（てんかん、熱性けいれん） ②髄膜炎 ③脳性麻痺 第14章 運動器疾患と看護 ①先天性股関節脱臼、先天性内反足、先天性斜頸 ②骨折				
11	第15章 皮膚疾患と看護 ①湿疹、皮膚炎など 第16章 眼疾患と看護 ①弱視 ②結膜炎など 第17章 耳鼻咽喉疾患と看護 ①中耳炎 ②副鼻腔炎など				
12	第18章 精神疾患と看護 ①発達障害 ②神経症 ③統合失調症 ④その他				
13	第19章 事故・外傷と看護 ①子どもの事故の原因とその要因 ②主な事故・外傷と看護				
14	小児救急看護学演習 ①救急蘇生法				
15	終 講 試 験				
評価方法	終講テスト 浦山（30%）、野村（70%） 計100%				
テキスト	◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論 著：奈良間美保 医学書院				
参考図書	必要時、講義時間にお伝えします。				
履修上の注意	子ども特有の疾患の病態生理、治療を理解し、必要な看護を学びましょう。				

専門分野Ⅱ	小児看護学援助論Ⅲ 疾患・障害を持つ小児と家族の 援助技術（看護過程）	1 単位 15 時間	2 学年後期	講師名	筒井 智子
授業目標					
<p>1 子どもの検査・処置が安全安楽に行える援助技術を養う。</p> <p>2 事例をもとに健康障害を持つ子どもの看護過程を展開する基礎能力を養う。</p>					
授 業 計 画					
1	第6章 検査、処置を受ける子どもの看護  ①採血 ②腰椎穿刺 ③骨髄穿刺 ④点滴固定法 ⑤輸液管理など				
2	プレパレーション、ディストラクション  ①プレパレーションとは ②プレパレーションの実際				
3	手作り玩具の作成				
4	看護過程の展開				
5	①事例をもとに情報の整理、アセスメント、関連図の作成、看護計画を立案する。				
6	グループワーク				
7	②発表				
8	健康教育について				
評価方法	レポート 100%				
テキスト	◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論 著：奈良間美保 [ほか] 医学書院				
参考図書					
学生へメッセージ					

専門分野Ⅱ	母性看護学概論 看護の対象と目的	1 単位 30 時間	2 学年前期	講師名	神津 トミ子
授業目標 女性の一生を通じた母性の健康の保持・増進を目指した看護の基礎的な知識と技術を習得し、次世代の健全育成を目指す看護について理解する。					
授 業 計 画					
1	1. セクシュアリティ・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ				
2	2. 母性及び父性の役割				
3	3. 母性看護の対象と目標				
4	4. 母性看護活動の担い手 ①母性看護活動の場 ②母性看護活動の担い手の役割				
5	5. 母性看護におけるプライマリヘルスケア				
6	6. 母性看護における倫理的問題				
7	7. 女性のライフサイクル				
8	①生殖器の形態。機能 ②妊娠と胎児の性分化				
9	③母性看護の対象を取り巻く環境				
10	④女性のライフサイクルと家族 ⑤母性の発達・成熟・継承				
11	8. 女性のライフステージ各期の健康問題 ①思春期 ②成熟期				
12	③更年期 ④老年期				
13	9. 母性看護における看護過程 ①母性看護における対象把握（情報収集/アセスメント）				
14	②看護診断/看護目標/具体的活動/看護実践/評価				
15	終 講 試 験				
評価 方法	終講試験 (90%) 小テスト・レポート (10%)				
テキ スト	◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論 著：森恵美[ほか] 医学書院				
参 考 図 書					
履修上の 注意 点					

専門分野Ⅱ	母性看護学援助論Ⅰ 妊産褥婦・新生児の 生理機能	1 単位 30 時間	2 学年前期	講師名	岩崎 仁美
授業目標					
1. 妊産褥婦と新生児の正常経過を理解し、それぞれの身体的特性と心理・社会的特性について学ぶ。 2. 妊娠・分娩・産褥・新生児の異常や問題を理解し、診断や管理の方法を学ぶ。					
授 業 計 画					
1	妊娠の成立 ①女性ホルモン ②出生前診断 ③不妊治療				
2	妊娠期の身体的特徴 ①妊娠の生理 ②胎児の発育とその生理 ③母体の生理的变化				
3	妊婦と胎児のアセスメント ①妊娠とその診断 ②妊娠期に行う検査とその目的 ③胎児の発育と健康状態の診断				
4	妊婦と胎児のアセスメント ④妊婦と胎児の経過の診断とアセスメント				
5	分娩の要素 ①分娩とは ②分娩の3要素 ③胎児と子宮および骨盤との関係				
6	分娩の経過 ①分娩の進行と産婦の身体的変化 ②産痛 ③胎児に及ぼす影響				
7	演習：分娩経過の実践				
8	産褥経過 ①産褥期の身体的変化 ②産褥期の心理・社会的変化 褥婦のアセスメント ①産褥経過の診断				
9	新生児の生理 ①新生児とは ②新生児の機能 新生児のアセスメント ①新生児の診断 ②新生児の健康状態のアセスメント				
10	妊娠の異常 ①ハイリスク妊娠 ②妊娠期の感染症 ③妊娠疾患 ④多胎妊娠 ⑤妊娠持続期間の異常 ⑥異所性妊娠				
11	分娩の異常 ①産道の異常 ②娩出力の異常 ③胎児の異常による分娩障害 ④胎児付属物の異常				
12	分娩の異常 ⑤胎児機能不全 ⑥分娩時の損傷 ⑦分娩第3期および分娩直後の異常 ⑧分娩時異常出血 ⑨産科処置と産科手術				
13	新生児の異常 ①新生児仮死 ②分娩外傷 ③低出生体重児 ④高ビリルビン血症 ⑤新生児出血性疾患				
14	産褥の異常 ①子宮復古不全 ②産褥期の発熱 ③産褥血栓症 ④精神障害				
15	終 講 試 験				
評価 方法	終講試験 100%				
テキ スト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 著：森恵美[ほか] 医学書院				
参考 図書					
履修上の 注意点					

専門分野Ⅱ	母性看護学援助論Ⅱ 妊産褥婦の看護と周産期にある ハイリスクの看護	1 単位 30 時間	2 学年前期	講師名	岩崎 仁美
授業目標					
1. 女性のライフサイクルにおける対象の身体的、心理的、社会的変化をウェルネスの視点から理解する。					
2. 周産期（妊娠・分娩・産褥期）における対象のセルフケアと健康障害の予防や健康増進を促す看護援助を理解する。					
3. 新生児の母体外生活適応過程と看護援助を理解する。					
4. 母と子の関係、役割適応過程や家族形成への援助を理解する。					
5. 周産期（妊娠・分娩・産褥期）における異常とその看護援助を理解する。					
授 業 計 画					
1	母性の発揮を促す看護 ①子どもを産み育てること ②遺伝相談 ③不妊治療と看護				
2	妊娠期における看護 ①妊娠期の身体的特性 ②妊娠期の心理・社会的特性				
3	妊娠期における看護 ①妊婦が受ける母子保健サービス ②妊婦の保健相談の実際				
4	妊娠期における看護 ③親になるための準備教室				
5	分娩期における看護 ①産婦の心理・社会的変化 ②産婦・胎児・家族のアセスメント				
6	分娩期における看護 ③産婦と家族の看護 ④分娩期の看護の実際				
7	産褥期における看護 ③褥婦と家族の看護 ④施設退院後の看護				
8	新生児における看護 ①出生直後の看護 ②出生後から退院までの看護 ③生後1ヶ月健診に向けた退院時の看護				
9	演習：①新生児の看護にかかわる技術 ②育児技術にかかわる看護				
10	妊娠の異常と看護 ①ハイリスク妊婦の看護				
11	分娩の異常と看護 ①異常のある産婦の看護 ②異常分娩時の産婦の看護 ③分娩時異常出血のある産婦の看護				
12	新生児の異常と看護 ①低出生体重児の看護 ②高ビリルビン血症児の看護				
13	産褥の異常と看護 ①異常のある褥婦の看護				
14	まとめ				
15	終 講 試 験				
評価方法	終講試験 100%				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 著：森恵美 医学書院				
参考図書	アセスメントスキルを習得し質の高い周産期ケアを追求する母性看護学Ⅱ周産期各論 編：有森直子 医歯薬出版株式会社				
履修上の 注意点	女性のライフサイクルの大きなイベントである出産における周産期の看護を、ウェルネスの視点で展開するために幅広い学習を必要としています。				

専門分野Ⅱ	母性看護学援助論Ⅲ 妊産褥婦・新生児の 援助技術(看護過程)	1 単位 15 時間	2 学年前期	講師名	押目 公子
授業目標					
褥婦・新生児の看護、周産期にある対象の事例を通して、対象を統合された存在として理解し、健康レベルに応じて科学的根拠に基づいた援助ができる基礎的能力を養う。					
授 業 計 画					
1	1. マタニティサイクルにおける看護過程 マタニティサイクルにおける看護過程の特徴				
2	1・2. 事例から看護を学ぶ、分娩当日の事例 アセスメントの視点 ①基礎的情報 ②分娩経過 ③心理的対応と対処行動 ④基本的ニーズとセルフケア行動 ⑤母親役割・家族関係の内容理解				
3	3 看護上の問題点の明確化				
4	4 看護計画				
5	5・6. 沐浴				
6					
7	7. 事例から看護を学ぶ ①新生児事例				
8	終 講 試 験				
評価方法	終講試験 100%				
テキスト	◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 著：森恵美[ほか] 医学書院				
参考図書					
履修上の 注意点					



専門分野Ⅱ	精神看護学概論 看護の対象と目的	1 単位 15 時間	1 学年後期	講師名	陣内 真剛
授業目標					
1. ライフサイクルにおけるこころの健康問題を理解する。					
2. 社会の価値規範やしきみがこころの健康に及ぼす影響を理解する。					
3. 精神保健医療の現状をとらえ、精神看護の役割と機能を理解する。					
授 業 計 画					
1	社会とこころのケア 現代社会における様々な社会病理現象 現代の精神保健 ①こころの健康とは ②精神保健とは ③ストレスと対処行動				
2	ライフサイクルと精神保健 ① 学童期、思春期の危機的状況 ライフサイクルと精神保健 ② 青年期、成人期の危機的状況 ライフサイクルと精神保健 ③ 老年期の危機的状況				
3	環境と精神保健 ①家庭 ②教育の場 ③職場 ④地域社会				
4	臨床における心の健康と不健康 ①心理・社会的反応 ②病むという体験 ③様々な病状・状態における患者のこころ ④家族のこころ				
5	リエゾン精神医学とリエゾン精神看護 看護者のこころの健康				
6	精神看護の役割と機能 ①精神看護に用いる看護理論・モデル ②求められる看護職の資質と活動の場 ③精神看護の役割と機能				
7	地域精神保健活動				
8	終 講 試 験				
評価方法	終講試験 100%				
テキスト	◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎 著：武井麻子[ほか] 医学書院				
参考図書	精神看護学Ⅰ 精神保健学 著：吉松和哉[ほか] ニューヴェルヒロカワ				
履修上の注意	講義資料は授業ごとに配布 PP使用。授業前にプロジェクターの準備をしておくように。				

専門分野Ⅱ	精神看護学援助論Ⅰ 精神疾患の理解と治療	1単位 30時間	2学年前期	講師名	井上 知之
<b>授業目標</b> 1. 精神疾患の治療の基本を理解する。 2. 主な精神障害とその症状、治療の基本を理解する。					
<b>授 業 計 画</b>					
1	1. 精神の健康と障害 1) 精神の健康とは    2) 精神障害のとらえ方				
2	2. 人間の心のはたらき 1) 人間の心の諸活動(人格と気質・知能・意識と認知機能・感情・学習と行動・心の理論) 2) 心の仕組みと人格の発達(精神分析) 3) 心の危機とストレス(危機理論とストレス理論・コーピング・トラウマ)				
3	3. 精神症状と状態 1) 特異的症状と非特異的症状				
4	2) 様々な精神症状 (思考の障害・感情の障害・意欲の障害・知覚の障害・意識の障害・記憶の障害・局在症状)				
5	4. 精神障害の診断と分類 1) 診断と疾病分類				
6	2) 統合失調症の病型と症状及び治療法				
7	3) 気分(感情)障害(うつの3大症状と主要症状及び治療法) 4) 神経症性障害(恐怖症性不安障害・強迫性障害・重度ストレス反応および適応障害)				
8	5) 解離性障害    6) 身体表現性障害(身体化障害・心気障害・その他) 6) その他の神経症性障害(神経衰弱・離人・現実感喪失症候群・虚偽性障害)				
9	5. 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 (摂食障害・睡眠障害・性機能不全・性同一性障害)				
10	(パーソナリティ障害・器質性精神障害・てんかん・知的障害/精神遅滞・心理的発達の障害) (小児期および青年期に通常発生する行動および情緒の障害・心身症)				
11	V. 精神科での治療 1) 薬物療法				
12	2) 電気痙攣療法    3) 精神療法    4) 集団精神療法    5) 環境社会療法				
13	VI. 社会の中の精神障害 1) 精神障害と治療の歴史    2) 日本における精神医学・精神医療の流れ    3) 精神障害と文化				
14	4) 精神障害と社会学    5) 精神障害と法制度				
15	終 講 試 験				
評価方法	終講試験 100%				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 著:武井麻子他 医学書院				
参考図書					
受講上の留意点	テキストにそって、国家試験対策の講義をします。				

専門分野Ⅱ	精神看護学援助論Ⅱ 精神看護の実際とその倫理	1単位 30時間	2学年前期	講師名	陣内 真剛
授業目標					
1. 精神看護の基本を理解する。 2. こころの健康障害をもつ対象の社会復帰や自立に向けた援助を理解する。 3. 精神看護における対象の回復を支援する看護を理解する。					
授 業 計 画					
1	こころの健康障害を持つ対象の理解 ①精神障がい歴史と法律 ②精神障がいの現状と倫理的側面 ③人権を守るために行う倫理的配慮				
2	精神科における看護の役割① 自己決定を支える援助 ①セルフケア				
3	②オレムアンダーウッドモデル ③その人らしさを支える援助				
4	精神科における看護の役割② 生きる力と強さに着目した援助 ①ストレングス ②リカバリ				
5	精神科における看護の役割③ 入院時の看護				
6	①入院治療の援助				
7	②安全な治療環境の援助				
8	③身体面のケア				
9	④リハビリテーション				
10	精神に障がいをもつ対象の生活と看護①				
11	①統合失調症 ②気分（感情）障がい				
12	精神に障がいをもつ対象の生活と看護②				
13	①幻覚、妄想の患者の看護				
14	②抑うつ状態の患者の看護				
15	③興奮状態の患者の看護				
16	④拒絶的な患者の看護				
17	⑤操作をする患者の看護				
18	⑥強迫行為のある患者の看護				
19	⑦摂食障がいの患者の看護				
20	⑧解離性障がいの患者の看護				
15	終 講 試 験				
評価方法	終講試験 90% レポート 10%				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 著：武井麻子〔ほか〕 医学書院				
参考図書	精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 第6版 著：川野雅資編集 ニューヴェルヒロカワ				
履修上の 注意点	講義資料は授業ごとに配布 PP使用。授業前にプロジェクターの準備をしておくように				

専門分野Ⅱ	精神看護学援助論Ⅲ 精神障害のある患者の援助技術 (看護過程他)	1 単位 15 時間	2 学年後期	講師名	陣内 真剛
授業目標					
1. 精神看護におけるコミュニケーション技術を理解する。 2. プロセスレコードの再構成、考察する必要性を理解する。 3. 精神に障がいをもつ対象の健康状態に応じた看護を理解する。 4. 事例を用いてアセスメント・看護介入を理解する。					
授 業 計 画					
1	患者－看護師関係の実際 患者－看護師関係技術の基礎要素				
2	ロールプレイングによる看護場面の考察 看護師役、患者役、観察者				
3	プロセスレコードの再構成 患者、看護師関係の記録				
4	プロセスレコードの考察 患者の反応・言動の分析				
5	統合失調症の患者の看護過程の展開				
6	①患者のアセスメント				
7	②看護問題・看護目標				
	③看護計画				
8	看護過程の展開まとめ				
評価方法	レポート				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 著：武井麻子〔ほか〕 医学書院				
参考図書	◇精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 第6版 著：川野雅資編集 スーヴェルヒロカワ ◇精神看護学 第2版 学生－患者のストーリーで綴る実習展開 著：田中美恵子編集 医歯薬出版株式会社				
履修上の注意	講義資料は授業ごとに配布 PP 使用。授業前にプロジェクターの準備をしておくように				

# 統合分野



統合分野	在宅看護概論 看護の対象と目的	1 単位 30 時間	2 学年前期	講師名	井上 順子
授業目標					
<p>1. 在宅看護の歴史や社会的背景を踏まえて地域保健医療福祉活動の全体像を理解し、地域で生活しながら療養する人々及び障害を持ちながら生活する人々とその家族の特性を知り、在宅ケアを支えるシステムや社会資源について理解する。</p> <p>2. 在宅看護活動に必要な基礎、基本的態度を習得する。</p>					
授 業 計 画					
1	在宅看護とは ①在宅看護の提供の場 ②在宅看護の目的 ③在宅看護の対象				
2	在宅看護の歴史と現状 ①日本の在宅看護の変遷 ②在宅看護の社会背景 ③諸外国における在宅看護				
3	在宅看護における対象の特性と看護 ①対象 ②家族 ③コミュニティ				
4	対象の特徴				
5	①年齢・発達段階 ②疾患 ③障害 ④在宅療養状態別 ⑤ターミナルケア				
6	在宅看護と家族 ①システム理論を用いた家族の捉え方				
7	家族介護者の理解と健康支援 ①家族介護者のアセスメント ②介護方法の指導 ③家族介護者の健康支援 ④家族関係の調整				
8	事例展開				
9	在宅における安全管理				
10	①事故防止 ②感染防止 ③転落防止 ④薬物による医療事故防止				
11	⑤家庭での廃棄物の処理 ⑥災害時の役割と備え				
12	訪問看護師の倫理 ①在宅訪問におけるコミュニケーションとマナー				
13	演習：ロールプレイ				
14	事例「訪問看護師による初回訪問」				
15	終 講 試 験				
評価方法	終講試験（80%）・レポート（20%）				
テキスト	◇系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 著：河原加代子 医学書院				
参考図書	ナーシンググラフィカ 地域医療を支えるケア 在宅看護論 編：櫻井尚子，渡部月子，臺有桂 メディカ出版				
履修上の 注意点	今後ますます在宅看護の必要性が高まり、地域で疾患や障害を持ちながら生活する人たちの生活の質を追求する上で看護の役割は重要であり、そのための責任や期待も大きいと言えます。よりよい在宅生活への支援とは何かを共に考え学びましょう。				

統合分野	在宅看護論 I 在宅療養者に関連する制度と展開	1 単位 15 時間	2 学年前期	講師名	栗森 寿恵
<b>授業目標</b> 1. 在宅療養者を支える法律と制度を理解する。 2. 在宅ケアシステムにおける看護の役割を理解する。					
<b>授 業 計 画</b>					
1 2	介護保険制度と訪問看護制度 ①訪問看護ステーションのしくみ      ②訪問看護師の役割 ③医療保険制度と介護保険制度      ④居宅介護支援事業所のしくみ				
3	在宅ケアシステムと在宅ケアを支える制度と社会資源 ①地域包括ケアシステム      ②地域連携クリティカルパス				
4	他職種との連携 ①医師      ②介護保険とその他の社会資源      ③ネットワークづくり      ④入退院時				
5 6 7	在宅における看護過程の展開 ①初回面接（インテーク）      ②情報収集      ③アセスメント      ④計画立案（看護目標・看護計画） ⑤実施（看護記録）      ⑥評価      ⑦再アセスメント      ⑧計画修正				
8	終講試験				
評価方法	終講試験 100%				
テキスト					
参考図書	ナーシンググラフィカ 地域医療を支えるケア 在宅看護論 編：櫻井尚子，渡部月子，臺有桂 メディカ出版 在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして 改訂第2版 編：石垣和子，上野まり 南江堂				
履修上の 注意点					



統合分野	在宅看護論Ⅱ 在宅における日常生活援助技術と援助	1単位 30時間	2学年後期	講師名	楠野 真由美 江田 純子
授業目標					
在宅療養患者の日常生活を総合的に情報収集し、個々に応じた援助を見極めるためのアセスメントを行い、求められる基本的看護技術・特殊な看護技術について修得する。					
授 業 計 画					担当教員
1	在宅における看護技術				楠野
2	① 食生活・嚥下に関する在宅看護技術 ② 排泄に関する在宅看護技術				
3	③ 移動・移乗に関する在宅看護技術				
4	④ 清潔に関する在宅看護技術				
5	在宅医療技術 ①褥瘡 ②服薬管理				
6	③経管栄養、PEG				
7	④中心静脈栄養法				
8	⑤ストーマ ⑥尿道留置カテーテル				
9	⑦在宅酸素療法 ⑧非侵襲的陽圧換気療法				
10	⑨CAPD ⑩在宅人工呼吸療法				
11	⑪疼痛緩和 ⑫ターミナルケア、グリーフケア				
12	・認知症、精神疾患を患う療養患者のケア				江田
13	・難病、在宅酸素・人工呼吸器を使用している療養者のケア				
14	・癌、終末期の療養者のケア (胃瘻管理、人工肛門、摘便、中心静脈栄養)				
15	終 講 試 験				
評価方法	終講試験 楠野(80%)・江田(20%)				
テキスト	◇系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 著：河原加代子 医学書院				
参考図書	ナーシンググラフィカ 地域医療を支えるケア 在宅看護論 編：櫻井尚子，渡部月子，臺有桂 メディカ出版				
履修上の 注意点	在宅看護論Ⅱは在宅看護関連科目、既習した看護の基本や看護援助の方法を踏まえて、在宅で応用していく看護方法を学びます。事前学習として基本的援助技術の復習をして授業に臨みましょう。				

統合分野	在宅看護論Ⅲ 在宅援助技術（看護過程）	1単位15時間	3学年前期	講師名	楠野 真由美
授業目標					
1. 在宅療養者とその家族の紙上事例に対する看護過程を展開する。 2. 在宅看護で必要とされる看護技術を理解する。					
授 業 計 画					
1	在宅における看護過程の事例展開				
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大腿骨頸部骨折後リハビリ目的の訪問</li> <li>①アセスメント                      ②リスクアセスメント                      ③看護計画立案（リハビリ計画の立案）</li> </ul>				
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>④介護者支援（指導内容）    ⑤社会資源の活用                      ⑥多職種との連携</li> </ul>				
4	在宅における看護過程の事例展開				
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳梗塞後保清力が低下した療養者の看護</li> <li>①アセスメント                      ②リスクアセスメント                      ③看護計画立案</li> </ul>				
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>④介護者支援（指導内容）    ⑤社会資源の活用                      ⑥多職種との連携</li> </ul>				
7	在宅看護・訪問看護における看護技術 ・シミュレーション学習				
8	①PEG・経管栄養    ②褥瘡ケア    ③ストーマケア    ④気管切開部の管理    ⑤服薬管理				
評価方法	レポート 100%    （ 課題への取り組み姿勢を考慮する ）				
テキスト	◇系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 著：河原加代子 医学書院				
参考図書					
履修上の 注意点					

統合分野	医療安全論	1 単位 30 時間	2 学年後期	講師名	遠藤 富士子
授業目標					
1. 人間行動とヒューマンエラーの概念を理解する 2. 医療事故が発生しないようにリスク感性を習得する 3. チーム医療の一員として、安全を守るための役割を理解する					
授 業 計 画					
1	1. 医療安全を学ぶ意義 ①医療安全管理とリスクマネジメントの歴史と動向 ②医療におけるリスクマネジメント				
2	③ヒューマンエラーと行動モデル ④医療職の責務				
3	2. 医療事故の考え方 ①医療事故と看護業務 ②看護事故の構造 ③看護事故防止の考え方				
4	3. 業務領域を超えて共通する間違いと発生要因 ①患者間違い ②発生要因				
5	4. 診療の補助業務に伴う事故防止（1） ①患者に対して「投与する業務」における事故防止				
6	②注射業務と事故防止 ③注射業務に用いる機器の事故防止				
7	④輸血業務の事故防止 ⑤内服与薬業務と事故防止 ⑥経管栄養業務と事故防止				
8	5. 診療の補助業務に伴う事故防止（2） ①チューブ管理と事故防止				
9	6. 療養上の世話における事故防止 ①療養上の世話における事故の考え方 ②転倒転落事故防止				
10	③誤嚥・異食事故防止 ④入浴中の事故防止				
11	7. 医療安全とコミュニケーション ①事故を防ぐコミュニケーション				
12	②医療チームの一員として取り組むコミュニケーション				
13	8. 組織としての医療安全対策 ①事故分析演習				
14	②KYT（危険予知訓練）				
15	終 講 試 験				
評価方法	筆記試験 100%で評価する				
テキスト	系統看護学講座 統合分野 医療安全 著：川村治子 医学書院				
参考図書	医療安全ワークブック 第2版 著：川村治子 医学書院 チームステップ 日本版 医療安全 medical view 医療安全 看護の統合と実践② メディカ出版 RCA実践マニュアル：石川雅彦 医学書院				
履修上の注意	グループワークも取り入れ学習します。				

統合分野	看護管理	1 単位 30 時間	3 学年前期	講師名	川島 保子 横田 育代 遠藤 富士子
<b>授業目標</b> チーム医療及び他職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解し、看護をマネジメントする基礎的能力を身に着ける事が出来る。					
<b>授 業 計 画</b>					<b>担当教員</b>
1	<b>&lt; I . 医療チームの一員としてのマネジメント &gt;</b> 1. 医療の場の構造 1) 医療チームの構造 2) 情報の発生、伝達、管理				横田
2	2. 看護師のチームワークとコミュニケーション 1) 組織員の基本としての指示と報告 ①看護部の組織の特徴 ②看護体制モデル				横田
3	③組織としての看護部活動 ④各部署での看護業務 (看護サービス提供・期待されている役割・管理上の報告)				横田
4	2) 看護業務におけるチームワークとリーダーシップ ①看護提供体制 ②リーダーシップとしての考え方や行動				横田
5	3. 看護チームでの情報伝達・共有 1) 情報伝達・共有とコミュニケーション 2) 医療者に求められるマナー 3) 情報の伝達・共有の方法 ①ミーティング ②交替制勤務と情報伝達 ③引継ぎ事項と注意 ④情報管理				横田
6	4. 薬剤・物品の管理と病院経営 1) SPDシステムと経営 2) 診療報酬制度 3) 薬剤の供給と管理 麻薬・血液製剤の管理 4) 医療機器の保守点検・管理 5) 診療材料の点検・整備				遠藤
7	5. 多職種のチームワークとコミュニケーション 1) チーム医療とは 2) 他職種とのチームワーク 3) チームにおける看護師の役割と責任 4) チームカンファレンス、ケースカンファレンス 5) クリティカルパスの役割				遠藤
8	<b>&lt; II . 業務遂行のためのマネジメント &gt;</b> 1. 複数患者を受け持つための情報収集・管理				遠藤
9	2. 1日のスケジュールの立て方と業務時間の管理 3. 業務時間の管理				遠藤
10	4. 多重課題への対処 1) 多重課題の危険性 2) 対処の原則 3) 多重課題の対処				遠藤
11	5. 看護職の健康管理 1) 生活パターンの確立 2) ストレス対策 3) 事故、感染、被曝				遠藤
12	6. キャリア設計 1) キャリアについての考え方 2) キャリア形成 3) ジェネラリストとスペシャリスト 7. 災害防災管理 1) 病院の防災対策 2) 看護師としての準備 3) 発生時の手順と行動				遠藤
13	<b>&lt; III . 看護管理の実際 &gt;</b> 1. 組織作りとマネジメント及び人材育成の実際				川島
14	2. 看護職員の役職別にみた業務内容 1) 看護部長 2) 副看護部長 3) 看護師長 4) 看護主任 5) スタッフ				川島
15	終 講 試 験				
評価方法	【川島】20% 【横田】30% 【遠藤】50%				
テキスト	新体系 看護学全書 看護の統合と実践①看護実践マネジメント 医療安全 著：佐藤エキ子 メジカルフレンド社				
参考図書	看護管理 最良の看護を提供するための基本と実践のプロセス 著：小林美亜 Gakken				

統合分野	災害・国際看護学	1単位 30時間	3学年前期	講師名	栗森 寿恵
<b>授業目標</b> 1. 災害時に看護が果たす役割、災害各期における看護支援活動を理解する。 2. 災害を理解し、災害看護活動に必要な基礎的知識を学ぶ。 3. 国際社会において、グローバルな視点に基づき国際的な看護・保健上の問題を理解する。 4. 諸外国の看護を理解し、看護の国際協力における組織・仕組みについて理解する。					
<b>授 業 計 画</b>					
1 2 3	<b>I. 災害看護</b> 1、災害の概要 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 災害看護の歴史</li> <li>2) 災害医療の基礎知識               <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害の定義、分類、原因</li> <li>・CSCATTT</li> <li>・DMAT</li> <li>・災害と情報</li> </ul> </li> <li>3) 災害看護と法律</li> </ul>				
4 5 6	2、災害看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 災害看護の定義</li> <li>2) 災害サイクルに応じた看護               <ul style="list-style-type: none"> <li>①急性期・亜急性期                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所における看護師の役割</li> <li>・災害と感染制御</li> </ul> </li> <li>②慢性期・復興期                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・仮設住宅における生活支援と看護の役割</li> <li>・被災者の生活に必要なリハビリテーション</li> </ul> </li> <li>③静穏期                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の自助と共助</li> <li>・災害時への備え</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>3) 被災者特性に応じた看護               <ul style="list-style-type: none"> <li>①子ども ②妊産婦 ③高齢者 ④障害者 ⑤精神障害者</li> <li>⑥慢性疾患患者 ⑦在日外国人</li> </ul> </li> <li>4) こころのケア</li> </ul>				
7	3、トリアージ <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 意義と原則</li> <li>2) 方法、トリアージタグの取り扱い</li> <li>3) 搬送方法</li> </ul>				
8	<b>II. 国際看護</b> 1、国際看護学の定義 2、グローバルヘルス <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の健康問題の現状</li> </ul>				
9 10	3、国際協力のしくみと関連する法律 <ul style="list-style-type: none"> <li>・国連機関、政府機関、国際NGO など</li> </ul> 4、文化を考慮した看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>・EPA、FTA</li> </ul> 5、国際救援活動の基本理念				
11 12 13	6、国際看護活動の実際 7、発展途上国と看護 8、国際救助と看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に国際支援・救助活動の状況について調べる或いは、メディアなどの活動を参考にして、実際の活動内容を理解する。(GW)</li> <li>・GWについてオリエンテーション</li> </ul>				
14	グループワークの発表会と相互評価				
15	終 講 試 験				
評価方法	終講試験 70% グループワーク課題 30% 課題への取り組み姿勢を考慮する。				
テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学 著：浦田喜久子(他)				
参考図書	国際看護 言葉・文化を越えた看護の本質を体現する 学研 編：一戸真子				
履修上の注意	グループワークの資料は各自、グループで準備する。発表は、PPTや掲示物など工夫する。				

統合分野	看護研究	1 単位 30 時間	2 学年後期	講師名	濱松 恵子
<b>授業目標</b> 臨床における看護研究に必要とされる基本的な考え方、知識、技術を学ぶ 1. 「なぜ、看護研究が必要とされるのか」への問い 2. 研究デザインと特徴を理解する。 3. 看護研究における倫理的配慮について理解する。 4. 調査研究のプロセスの基本的事項について、演習をとおして理解する。 5. 事例研究のプロセスの基本的事項について、演習をとおして理解する。 6. 研究論文作成のプロセスの基本的事項について理解する。					
<b>授 業 計 画</b>					
1	研究とは				
2	「なぜ、看護研究が必要とされるのか」への問い				
3	専門職と看護研究				
4	看護研究と倫理的配慮				
5	研究デザインと特徴				
6	調査研究のプロセス				
7	研究課題の設定				
8	先行研究のクリティーク				
9	調査研究の方法				
10	質問紙の作成				
11	研究成果発表				
12	質的研究のプロセス				
13	量的研究のプロセス				
14	事例研究のまとめ				
15	終 講 試 験				
評価方法	①筆記試験（70%） ②課題レポート（30%）				
テキスト	系統看護学講座 《別巻》 看護研究 医学書院 著：坂下玲子／宮芝智子／小野博史				
参考図書	授業中に紹介する。				
履修上の 注意点					

統合分野	統合看護演習	1 単位 30 時間	2 学年後期	講師名	栗森 寿恵
<b>授業目標</b> 1. 既習の知識・技術・態度を統合させ、緊急・突発要件の発生時に適切な判断力・対応力や複数課題での優先性を考えた総合的な看護実践能力を養う。 2. リーダーシップ・メンバーシップについて理解し、活用することができる。					
<b>授 業 計 画</b>					
1	安全確保に関する事例：ハイリスク環境下での安全な看護を提供するための判断力・実践力を高める				
2	・KYT（危険予知トレーニング）				
3	院内感染予防の事例：院内感染の予防対策を立案、実施できる能力を高める				
4	・KYT（危険予知トレーニング）				
5	トリアージ				
6	・トリアージタグの取り扱い    ・START法    ・搬送方法    ・応急処置				
7	患者・家族への対応事例：患者・家族への適切な対応・説明の重要性が理解できる				
8	・ロールプレイ				
9	・カードメソッドによるリフレクション				
10	複数患者を受け持つ事例1（突発要件への対応・時間内業務の調整力） 複数患者への援助における優先順位の考え方が理解できる ・実習計画調整表作成    ・複数患者への優先順位を踏まえたケア計画の立案 ・ロールプレイ ・ポートフォリオによるリフレクション				
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法	レポート 100%（課題への取り組み、役割の取り組み、自己課題の明確化など総合的に評価する）				
テキスト	必要時資料を配布する				
参考図書	系統看護学講座 統合分野 医療安全 著：川村治子 医学書院 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践① 看護管理 著：上泉和子 医学書院 系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学 編：浦田喜久子，小原真理子 医学書院 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 著：茂野香おる 医学書院 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 著：仁 和子 医学書院				
履修上の 注意点	すべての演習参加をもって評価の対象とする。				